

別會計ヨリ繰入ルルモノヲ併セテラ削ル

附則

本法ハ大正八年度ヨリ之ヲ施行ス

七 事業公債金特別會計法案

事業公債金特別會計法

第一條 各種ノ事業公債法ニ依ル公債金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歳入歳出ト区分スヘシ

第二條 公債金ヲ使用セムトスルトキハ之ヲ其ノ事業費ノ屬スル會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第三條 公債金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第四條 本會計ハ公債ノ發行ニ依ル收入金、運用利殖金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ第二

條及第六條ノ規定ニ依ル繰入金ヲ以テ其ノ歳出トス

第五條 公債金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ

本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第六條 公債金ハ之ヲ以テ支辨スル事業費毎ニ区分整理シ其ノ事業完了ノ後剩餘アルトキハ之

ヲ其ノ事業費ノ屬シタル會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第七條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提

出スヘシ

附則

本法ハ大正八年度ヨリ之ヲ施行ス

事業公債及鐵道公債特別會計法、朝鮮事業公債金特別會計法ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際前項ノ各特別會計ニ屬スル公債金ハ之ヲ本會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

八 臨時國庫證券法中改正法律案

臨時國庫證券法中左ノ通改正ス

第一條中「便ニスル爲」ヲ「便ニシ其ノ他聯合國ノ財政ヲ援助スル爲」ニ改ム

第二條中「五億圓」ヲ「八億圓」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

九 朝鮮事業公債法中改正法律案

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

朝鮮事業公債法中左ノ通改正ス

「一億六千八百萬圓」ヲ「一億七千八百萬圓」ニ改ム

一〇 臺灣事業公債法中改正法律案

臺灣事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「七千三百五十萬圓」ヲ「九千二百五十萬圓」ニ改ム

第三條 削除

第六條及第七條ヲ削ル

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前募集シタル臺灣事業公債ノ元金ノ消滅時効ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

右各案ハ孰レモ八年一月二十二日本院ニ之ヲ提出ス同月二十五日各案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ神野政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

作業會計法中改正法律案ノ改正ノ理由ニ付テ申上ゲマス、本案ハ政府ニ於キマシテ、大正七年度

中ニ平塚ノ日本爆發物製造株式會社ヲ買收致シマシタル結果トシテ、新ニ海軍火藥廠ヲ設ケマシテ、其收支ハ之ヲ特別會計トシテ經營スルヲ至當ト認メマシテ、作業會計法中ニ改正ヲ加ヘヤウトスルノデアリマス、第一條ニ「海軍火藥廠」ト云フ文字ヲ加ヘ、第二條三項ノ方ニ其運轉資本ノ額ヲ決メヤウトスルノデアリマス、之ニ要シマスル 据置運轉資本額ハ一年ニ三四回廻轉スルモノト認メマシテ、二百萬圓ト定メマシテ、大正八年度ニ於テ、一般會計ヨリ致シマシテ七十萬圓ヲ繰入レマシテ、其殘額ハ九年度以降、漸次其火藥廠ノ特別會計ヨリ生ズル益金ヲ以テ、之ヲ繰入レテ行クト云フ豫定デアリマス、御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス、ソレカラ次ノ海軍工廠資金會計法中改正法律案ニ付キマシテハ、是ハ從來九百五十萬圓デゴザイマシタ、之ヲ二千萬圓ニ増加シヤウト云フノデアリマス、海軍工廠資金會計法ハ、明治三十八年ノ公布ニ係リマシテ、其資金ハ明治四十二年度ニ至リマシテ、現在ノ九百五十萬圓ニナリマシタ、然ルニ近年海軍造船造兵事業ノ膨脹ヲ來シマシテ、資金ノ收支額ハ若シク増加致シマシタ、又造船造兵事業費豫算ハ、是亦之ニ相伴ウテ著シク増加致シマシテ、其ニ一倍乃至三倍位ニ増シテ來マシタノデアリマス、斯ウ云フ状態デアリマスカラ、現在ノ据置運轉資本額ニテハ、運轉上困難ヲ感ジマスカラ、之ヲ二千萬圓ニ増加致シマシテ、大正八年度ニハ一般會計ヨリ百萬圓ヲ繰入レマシテ、其殘額ハ大正九年度以降ニ於テ、漸次繰入レヤウト云フノデアリマス、而シテ其財源ハ矢張本會計カラ生ズル益金ヲ以テ、繰入レヤウト云フ豫定デゴザイマス、次ニ國債整理基金特別會計法中改正法律案、是ハ御承知ノ如ク、特別會計カラ繰入レル資金ト一般會計ヨリ繰入レル資金トアリマスルノデアリマスガ、從來ハ特別會計カラ國庫整理基金ニ繰入レマスルニ、一般會計ヲ經由シテ繰入レテ居リマシタノデアリマス、今度豫算ノ簡明ヲ圖リマシテ、一般會計ヲ經由セズニ、直チニ特別會計カラ國債整理基金ニ繰入レヤウト云フ爲メニ、改正ヲ致シタイト云フノガ一點デゴザイマス、次ノ點ハ臨時國庫證券ト云フモノヲ、大藏省證券ト同ジヤウニ、此萬分ノ百十六ヲ繰入レルト云フ計算ノ外ニ置カウト云フ點デゴザイマス、ト云フノハ臨時國庫證券ハ、唯、金融上ノ種々ノ目的ニ發行致シマスルモノデアリマシテ、國債トハ云フモノ、國ノ歲出事業費ニ

充テルト云フモノデハナイノデアリマシテ、矢張其性質ハ大藏省證券等ト同ジ性質ノモノデア
 リマスカラ、國債償還額ノ萬分ノ百十六ノ中ニ加ヘナイ、大藏省證券ト同ジク其外ニ置カウト云
 フ趣意ナンデアリマス、ソレカラ事業公債金特別會計法、是ハ新ニ此事業公債金ヲ收入致シマス
 一ツノ特別會計法ヲ設ケヤウトスルノデゴザイマス、現在ハ特別會計ノ公債金ノ收入ハ、朝鮮ノ
 事業公債金ハ朝鮮事業公債金特別會計法ト云フノガゴザイマス、又臺灣ノ方ノ公債金收入ハ、事
 業公債金特別會計ト云フノガゴザイマシテ、各特別會計公債金毎ニ、別々ニ特別會計ガ立ッテ
 居ルノデアリマス、誠ニ區々ニナッテ居リマスカラ、今度之ヲ統一一致シマシテ、事業公債金ノ收入
 ト云フモノハ、此一ツノ特別會計ニ皆ナ收入致シマシテ、統一ヲ圖リタイト云フ趣旨カラ、此特
 別會計法ヲ設ケマシテ、一方ニ於テ現在ノ朝鮮特別會計法、並ニ事業公債金特別會計法ハ廢シタ
 イト云フ趣意ナノデゴザイマス、ソレカラ臨時國庫證券法中改正法律案、是ハ第一點ハ其目的ノ
 範圍ヲ擴メマシテ、聯合國ニ對シテ輸出スル、軍需品ノ代金ノ決濟ヲ便ニスルト云フコトノ外
 ニ、聯合國ノ財政ヲ援助スル爲メト云フコトニ目的ヲ擴メタイト云フノガ一ツト、又第二點ハ三
 億圓ヲ發行限度ニ止メマシテ、現在ノ五億圓ヲ八億圓ト致シマシテ、此臨時國庫證券ノ發行ノ目
 的ヲ十分ニ致シタイト云フ趣旨ナンデアリマス、次ニ朝鮮事業公債法中改正法律案、是ハ朝鮮ニ
 於キマスル海關工事費ノ増加ニ伴ヒマシテ、今年度豫算ニ計上シテゴザイマス通り、約一千萬圓
 ヲ現在ノ公債限度ノ額ニ加ヘマシテ、一億七千八百萬圓トシヤウト云フ改正案デアアルノデアリ
 マス、其次ノ臺灣事業公債法中改正法律案、是ハ臺灣ニ於キマスル鐵道ヲ複線ニ致サウト云フ、
 臺灣ニ於キマスル鐵道事業ノ發展ニ伴ヒマシテ、鐵道ノ建設費ヲ増加スル必要カラ致シマシテ、
 約二千萬圓近クヲ現在ノ發行限度ニ加ヘマシテ、七千三百五十萬圓ト云フノヲ、九千二百五十萬
 圓ト改メタイト云フノガ一點デアリマス、ソレカラ他ノ點ニ於キマシテハ、此公債法ハ早キ以前
 ニ制定セラレマシタモノデ、稍、今日ノ事情ニ適シナイ簡條ガゴザイマスカラ、之ヲ改正致タイ
 ト云フノデゴザイマス、何卒御審議ノ上御協賛アラント願ヒマス

次テ右案委員ノ選舉ハ一括シテ議長指名(十八名ノ同一委員)ニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ

同月二十七日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ引續キ審査ニ著手シ(一)乃至(九)及該案委
 員ニ併セ付託シタル造幣局据置運轉資本増加及設備擴張費ニ關スル法律案(一九)ノ七案ハ孰レモ
 之ヲ可決シ(一〇)修正ヲ加ヘフヘキモノト決シ二月八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(一〇)委員會報告書

(小字及——ハ委員會修正)

臺灣事業公債法中左ノ通改正ス

第一條 臺灣ニ於ケル事業費支辨ノ爲政府ハ從前募集シタルモノヲ通シテ九千二百五十萬圓ヲ限リ公債ヲ募集スルコトヲ得
 第一條中「七千三百五十萬圓」ヲ「九千二百五十萬圓」ニ改ム

第二條

第三條 削除

第五條第一項中「此ノ場合ニ於ケル利率ハ政府之ヲ定ム」ヲ削除

第六條及第七條ヲ削ル

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前募集シタル臺灣事業公債ノ元金ノ消滅時效ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

二月十日前顯七案及造幣局据置運轉資本増加及設備擴張費ニ關スル法律案(一九)ヲ一括シテ其ノ
 第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長粕谷義三君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

日程第四ヨリ第十一マデ、都合八案ゴザイマスルガ、順次此日程ノ順序ニ從ッテ御報告申上ゲタ
 イト思ヒマス、各案トモ大體其多クハ悉ク皆ナ豫算ニ關聯致シタ法案デゴザイマスル、日程第四
 ハ作業會計法中改正法律案デゴザイマスガ、是ハ既ニ御承知ノ如ク、前議會ニ於キマシテ協賛ヲ
 與ヘマシタ日本爆發物株式會社買收ノ結果デゴザイマス、即チ海軍ニ於テ要シマスル所ノ火藥
 ヲ、海軍省自身ガ之ヲ直營スルト云フコトノ方法ノ爲メニ、此作業會計法ノ改正ヲ必要ト致スノ
 デゴザイマス、即チ其第一條ニ於キマシテ、海軍火藥廠ト云フ一ノ目ヲ加ヘマスルコト、此作
 業ヲ致シマスルニ付キマシテ、之ニ要スル所ノ運轉資本ヲ二百萬圓トシテ、漸次之ヲ一般會計カ
 ラ繰入レテ行クコトニスル、斯ウ云フ案デアリマス、之ヲ大正七年度ヨリ此事ヲ經營ヲ致シテ行
 クト云フ案デゴザイマシテ、之ニ付キマシテハ委員會ハ誠ニ當然ノ事ト考ヘマシテ、全會一致ヲ
 以テ可決シマシタ、日程第五ノ海軍工廠資金會計法中改正法律案、是ハ現在ノ海軍工廠ノ資金ハ
 九百五十萬圓デアリマス、然ルニ御承知ノ如ク近來鐵ノ價格モ騰貴ヲ致シテ參リマシタシ、加
 ルニ我國ノ造船造兵ノ事業モ、一年毎ニ段々大キクナツテ參リマシテ、隨テ之ニ要スル所ノ材料
 モ多キヲ要スル譯デアリマス、即チ現在ノ資金ノ百五十萬圓ハ、明治四十二年ノ制定ニナリマス
 ル所ノ制限價格デアリマスノデ、到底之ヲ以テ十分ニ此造船造兵ノ事業ヲヤツテ行クコトガ出來
 ナイト云フコトカラ、茲ニ更ニ二千萬圓ニ増加シタイト云フコトノ改正案デゴザイマスル、是モ
 亦今日ノ場合已ムヲ得ザルモノト認メマシテ可決ヲ致シタノデゴザイマスル、日程第六國債整
 理基金特別會計法中改正法律案、是ハ從來特別會計カラ國債整理基金ニ繰入レマシタ金ガ、一旦
 一般會計ヲ經由シテ行クコトニナツテ居リマス、甚ダ豫算ノ形式カラ申シマシテモ、頗ル複雑ニ
 ナツテ居ルノデアリマス、ソレヲ此度改正シテ、特別會計カラ直チニ此國債整理基金特別會計ヘ
 繰入レルヤウニシテ、即チ一般會計ヲ經由スルコトヲ止メル、サウシテ豫算ノ形式ノ簡明、事務
 ノ簡捷ヲ期スルコトガ第一ノ目的、又モウ一ツノ目的ハ、國債ノ整理基金法ニ依リマス國債ノ元
 金ノ償還ニ充テマス爲メニ、國債整理基金ノ萬分ノ百十六ヲ年々積立ッテ行カナケレバナラヌ、
 此基金ノ方ヘ繰入レテ行カナケレバナラヌ制度ニナツテ居リマス、然ルニ臨時國庫債券ハ、御承

知ノ如ク全ク一時ノ金融ノ爲メニ保有サル、ノデアリマスカラ、此臨時國庫證券ダケヲ一ノ全
 ク國債トシテ別ノ扱ニスル、即チ大藏證券ト同様ナ扱ニスルト云フコトノ必要カラ、此整理基金
 法ニ改正ヲ加ヘテ、唯今申上ゲタヤウナ趣意ヲ以テ、此改正ヲスルト云フノガ、此案ノ要旨デア
 リマス、最モ相當ナル議ト認メラレテ、全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、日程第七事業公債金特
 別會計法案、是ハ此度新ニ制定ニナリマシタ法案デアリマス、此法案ノ制定ト同時ニ、是マデア
 リマシタ所ノ朝鮮事業公債金特別會計法、ソレカラ事業公債及鐵道特別會計法、此二ツノ法律ハ
 廢止サレル結果ニナリマス、是ハ要スルニ其目的ハ事業公債ノ特別會計ヲ統一スル、斯ウ云フ目
 的カラ今度此法律ヲ制定シヤウト云フノデアリマス、即チ前ニモ申上ゲマシタ如ク、朝鮮ノ事業
 公債ニ對シマシテハ、朝鮮事業公債特別會計法アリ、又臺灣デアルトカ、或ハ其他ノ事業公債ニ
 對シマシテハ、今申上ゲタ事業公債及鐵道特別會計法ト云フモノガアル、而シテ此二種ノ特別會
 計ノ間ニ於キマシテモ、互ニ其一致シナイ點モアルノデアリマス、更ニ又均シク事業公債ヲ以テ
 支辨致シマスル事柄デモ、何等特別會計等ノ規定ノナイ所ノモノモアル、即チ彼ノ樺太ノ事業公
 債ノ如キ、或ハ又前議會ニ於テ御決メニナリマシタ電氣事業ノ如キモサウデアリマス、是等ニ對
 シテ別ニ特別會計ト云フモノハ設ケテナイノデアアル、ソレ故ニ是等ノ總テノ事業公債ニ屬シマ
 スモノハ、今度制定シマス所ノ事業公債特別會計法ニ依リマシテ、之ヲ統一ヲ致シテ行キタイ、
 斯ウ云フ精神カラ此法案ヲ制定セントセラレルノデアリマス、是モ誠ニ適切ナル立法ト認メマ
 シテ、委員會ハ全會一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、次ハ日程ノ第八、臨時國庫證券法中改正法律
 案、御承知ノ通り臨時國庫證券ノ發行最高額ハ、現在ニ於キマシテハ五億圓ト定メラレアルノ
 デアリマス、ソレヲ今度ノ改正案ニ於キマシテハ、更ニ三億圓ヲ増加致シマシテ、其第二條ノ五
 億圓ヲ八億圓ニ改メタイ、是ガ一ツ、ソレカラモウ一ツハ其目的ニ一ノ追加ヲスルノデアリマ
 ス、即チ此第一條ニ臨時國庫證券募集ノ目的ガゴザイマスガ、即チ此輸出爲替資金ノ疏通ヲ計ル
 コト、ソレカラ聯合與國ニ對スル輸出品ノ代金ノ決済、此二ツガ今日マデ臨時國庫證券募
 集ノ目的ニナツテ居タノデアリマス、更ニ此度モウ一ツ目的ヲ追加スル、斯ウ云フコトデ「聯合國

ノ財政ヲ援助スル爲ニ「斯ウ云フ」ノ目的ヲ加ヘタイト云フノガ、今回提出サレタ改正案ノ要旨デアリマス、此三億圓ノ増加ノ必要ハ申スマデモナク、世界ノ戰局ハ既ニ終リヲ告ゲタヤウナモノデアリマスケレドモ、貿易其他ノ關係ニ於キマシテ、尙ホ本年ニ於キマシテモ、我國ニ正貨ノ受取勘定ニナルベキ所ノモノガ、約四億圓ヨリ五億圓ニ達スルデアラウト云フヤウナ次第デアリマス、固ヨリ此本年ニ於ケル正貨ノ受入勘定ト云フモノハ、全ク見込ニ過ギナイノデアリマスガ、是ガ調節ヲ圖リマス上ニ於テ、若干此臨時國庫證券發行限度ヲ増加スルト云フコトモ、亦是レ已ムヲ得ナイ事ニ相成リマス、更ニ又聯合國ノ財政ヲ援助スル目的ヲ加ヘマス必要ハ、今日民間ニ於キマシテ、戰時中ニ英國ノ國庫證券ナリ、或ハ佛國ノ國庫證券ナリ、或ハ大藏證券ナリ、斯ウ云フ種類ノモノヲ民間ニ於テ引受ケテ居リマス高ガ、約二億圓ニ達シテ居リマス、是等ノモノハ本年内ニハ期限ガ到著致スノデアアル、此場合ニ於テ果シテ聯合國ガ是等ヲ現金ヲ以テ償還スルカドウカ、ソレモ分ラヌコトデアアル、而シテ若シ其時ニ至ッテ、民間ノ經濟事情ガ其借換ヲ便トシナイト云フヤウナ事情ガ起ッテ來タ場合ニ於テ、政府ハ之ニ對シテ內國債ヲ募集シテ、此借換ノ場合ニ於テ、ソレヲ政府ノ方デ引受ケテヤルト云フ必要モ、亦茲ニ起ッテ來ルカモ知レナイ、ソレ故ニソレコレノ必要カラ、國庫證券ノ本年度ニ於ケル募集額ヲ更ニ三億圓ヲ増加シテ貰ヒタイト云フノガ、即チ此改正ノ要旨デアアルノデアリマス、是モ委員會ニ於キマシテハ、慎重ニ審議ヲ盡シマシタ、其審議中ニ於キマシテ、一委員ヨリシテ、國庫證券ノ發行ハ、動モスレバ通貨ノ膨脹ヲ促スコトニ相成ルノデアアルカラ、政府トシテハ、務メテ之ヲ避ケテ貰ヒタイ、而シテ之ニ代ユルノニ郵便貯金ノ利子ヲ引上げ、或ハ又彼ノ勸業債券ヲ募集スルト云フヤウナ方法ニ依ッテ、務メテ民間ノ零碎ノ資金ヲ吸收シタナラバ、無論國庫證券ヲ募集シナイデモ、ソレ等ノ資金ニ依ッテ、十分ニ其目的ヲ達スルコトガ出來ラウト云フヤウナ意見モアリマシタ、併ナガラ政府ト致シマシテハ、郵便貯金ノ利子ヲ引上ゲルト云フコトハ、民間ノ金融事情、或ハ又銀行業トノ關係モ十分考慮シナケレバナラヌノデアリマスカラ、政府ハ郵便貯金ノ利子ノ引上ト云フコトニ向ッテハ同意ヲ表セラレナイ、而シテ出來得ル限り零碎資金ヲ集メテ、サウシテ是等ノ目的ニ

供スルト云フコトニ付テハ、從來モ政府ハ務メテ居ルコトデアリマセウガ、更ニ今後ニ於テモ是等ニ副フコトヲ十分ニ務メルト云フコトデアリマシテ、政府ノ此言明ヲ信賴致シマシテ、原案ヲ全會一致ヲ以テ可決ヲシタヤウナ次第デアリマス、次ニ日程ノ第九、朝鮮事業公債法中改正法律案、是ハ朝鮮ニ於キマシテ、釜山及元山、此二箇所ノ海關工事ヲ擴張スルト云フヤウナ計畫デアリマシテ、大部分ハ釜山ノ方ノ築港ニ用キラレル金デアリマス、乃チ此朝鮮事業公債法ニ於キマシテ、現在一億六千八百萬圓トアリマスモノヲ、一千萬圓ヲ増加致シテ、一億七千八百萬圓ニ改メマス、斯ウ云フ案デアリマス、是モ審議ノ末原案ヲ可決致シマシタ、日程ノ第十、臺灣事業公債法中改正法律案、此案ノ内容ハ二三點ゴザイマスガ、大體ハ即チ臺灣ノ事業ノ爲メニ、公債ヲ募集スベキ制限額七千三百五十萬圓ヲ九千二百五十萬圓ニ改メル、即チ此千九百萬圓ダケヲ更ニ増額ヲシヤウト云フ案デアリマス、デ此公債ヲ必要ト致シマスル理由ハ、既ニ決定ニナッテ居リマスル所ノ、臺灣ノ地方ノ鐵道ノ建設、及ビ更ニ此中港ト大肚間ニ於ケル所ノ海岸線ヲ一ツ設ケルト云フ趣意デアリマス、即チ此中港大肚間ハ丁度海岸線ガ出來マスルカラ、複線ニナリマスル計畫デアリマス、之ニ要スル資金ヲ兩方合セテ千九百萬圓ダケヲ、更ニ此公債ニ依ッテ募集スルコトノ出來ルコトニスルト云フノガ、即チ此改正ノ趣意デアリマス、尙ホ其他ニ此臺灣事業公債法ハ、其制定ガ最モ舊イノデアリマシテ、其等ノ條項ヲ改正ヲ致シマシテ、大體ハ此國債ニ關スル法律ニ依ルヤウニ致シタイト云フノガ、即チ此幾多ノ條項ニ於テ改正ヲ加ヘラレテ居ル點デアリマス、委員會ニ於キマシテハ、此政府提案ノ各修正ノ箇所ニ對シマシテハ、何等異議ナク政府案ヲ可決ヲ致シマシタ、而シテ更ニ委員會ト致シマシテハ、尙ホ其上ニ修正ヲ加ヘル必要アリト認メマシテ、第一條ニ於テ斯様ナ修正ヲ決議致シマシタノデアリマス、第一條ハ現行ノ法律ニ依リマスルト、臺灣ニ於テ公債ヲ募集シ得ベキ金額ノ制限ヲ定メマシテ、更ニ此公債事業ノ種類ガ一カラ六マデ列舉サレテアルノデス、此列舉サレテアル所ノ幾多ノ目的ト云フモノハ、今日ニ於テハ既ニ大部分ハ結了シタモノガ多イノデアアル、加フルニ臺灣ニ於テハ、將來尙ホ幾多ノ公債ヲ以テ支辨スベキ所ノ事業ト云フモノガアルカラシテ、此ニ此目的ヲ列舉スルコトハ廢メテ

シマウ、第一條ヲ斯様ニ改メタイト云フノデアリマス「臺灣ニ於ケル事業費支辨ノ爲政府ハ從前募集シタルモノヲ通シテ九千二百五十萬圓ヲ限リ公債ヲ募集スルコトヲ得」斯様ニ修正ヲ致シマシタ...

第十一、造幣局据置運轉資本増加及設備擴張費ニ關スル法律案、是ハ段々此造幣局ノ事業モ殖エテ參リマシテ、到底此現在ノ資本ヲ以テ、十分ニ仕事ヲヤツテ參ルコトガ出來ナイト云フ狀況ニ立至リマシタ、殊ニ御承知ノ如ク戰時ニ非常ニ補助貨ガ拂底シマシタ爲メニ、彼ノ小額紙幣ナルモノガ發行サレテアリマス、其等ガ約九千百萬圓許リニナツテ居ルノデアリマス、是等ノモノハ近キ將來ニ於テ、補助銀貨ト引換ヲシナケレバナラヌノデアリマス、旁、此造幣局ノ設備ヲ擴張スル必要ガアリマシテ、造幣局ノ資本ノ中へ二百六十一萬圓一般會計カラ繰入レテ、其繰入レタ中ノ百一十一萬圓ト云フモノハ、造幣局設備擴張ノ爲メニ之ヲ使用シ、百五十萬圓ハ据置運轉資金ノ方ヘ増加致シタイト云フ案デアリマス...

原案ヲ可決致シマシタ次第デアリマス院議(四)乃至(九)ノ六案ハ二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ(一〇)及(一九)ノ兩案ハ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ修正議決シ即日各案全部ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月七日八案孰レモ之ヲ可決奏上シ三月十八日法律第三號(一〇)三月二十四日法律第八號(四)第十號(五)第十四號(六)第十五號(七)第十八號(八)第十六號(九)第九號(一九)ヲ以テ孰レモ公布セラル

一一 道路法案

道路法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ一般交通ノ用ニ供スル道路ニシテ行政廳ニ於テ第二章ニ依ル認定ヲ爲シタルモノヲ謂フ

第二條 左ニ掲クルモノハ道路ノ附屬物トシ道路ニ關スル本法ノ規定ニ從フ但シ命令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

- 一 道路ヲ接續スル橋梁及渡船場
- 二 道路ニ附屬スル溝、竝木、支壁、柵、道路元標、里程標及道路標識
- 三 道路ニ接スル道路修理用材料ノ常置場
- 四 前各號ノ外命令ヲ以テ道路ノ附屬物ト定メタルモノ

第三條 本法ニ於テ橋梁又ハ渡船場ト稱スルハ前條第一號ノ橋梁又ハ渡船場ヲ謂フ

本法ニ於テ渡船場ト稱スルハ渡船ヲ包含ス

第四條 本法ニ於テ他ノ工作物ト稱スルハ堤防、堰堤、護岸、鐵道用橋梁其ノ他命令ヲ以テ定ムル工作物ヲ謂フ

第五條 本法ニ於テ道路ニ關スル工事ト稱スルハ道路ノ新設、改築及修繕ニ關スル工事ヲ謂フ

第六條 道路ヲ構成スル敷地其ノ他ノ物件ニ付テハ私權ヲ行使スルコトヲ得ス但シ所有權ノ移

轉又ハ抵當權ノ設定若ハ移轉ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第七條 道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ニ關スル本法ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ新ニ道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

第二章 道路ノ種類、等級及路線ノ認定

第八條 道路ヲ分チテ左ノ五種トス

- 一 國道
- 二 府縣道
- 三 郡道
- 四 市道
- 五 町村道

第九條 道路ノ等級ハ前條記載ノ順序ニ依ル

第十條 國道ノ路線ハ左ノ路線ニ就キ主務大臣之ヲ認定ス

- 一 東京市ヨリ神宮、府縣廳所在地、師團司令部所在地、鎮守府所在地又ハ樞要ノ開港ニ達スル路線
- 二 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル路線

第十一條 府縣道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ府縣内ノモノニ就キ府縣知事之ヲ認定ス

- 一 府縣廳所在地ヨリ隣接府縣廳所在地ニ達スル路線
- 二 府縣廳所在地ヨリ府縣内郡市役所所在地ニ達スル路線
- 三 府縣廳所在地ヨリ府縣内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 四 府縣内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、渡津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

- 五 府縣内樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 六 府縣内樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線
- 七 數郡市ヲ連結スル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

第十二條 郡道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ郡内ノモノニ就キ郡長之ヲ認定ス

- 一 郡役所所在地ヨリ隣接郡市役所所在地ニ達スル路線
- 二 郡役所所在地ヨリ郡内町村役場所在地ニ達スル路線
- 三 郡役所所在地ヨリ郡内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 四 郡内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

五 郡内樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
六 郡内樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線
七 數町村ヲ連結スル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

第十三條 市道ノ路線ハ市内ノ路線ニ就キ市長之ヲ認定ス

第十四條 町村道ノ路線ハ町村内ノ路線ニ就キ町村長之ヲ認定ス

第十五條 市町村長ハ市町村ノ爲特ニ必要アル場合ニ限り市町村外ノ路線ニ就キ地元市町村長ノ意見ヲ聞キ路線ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ路線ニシテ市長ノ認定シタルモノハ市道ノ路線、町村長ノ認定シタルモノハ町村道ノ路線トス

第十六條 上級ノ道路ト下級ノ道路ト路線カ重複スル場合ニ於テハ其ノ重複スル部分ハ上級ノ道路トス

第三章 道路ノ管理

第十七條 國道ハ府縣知事、其ノ他ノ道路ハ其ノ路線ノ認定者ヲ以テ管理者トス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ其ノ市内ノ國道及府縣道ハ市長ヲ以テ管理者トス

第十八條 道路ニシテ行政區劃ノ境界ニ係ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依ル管理者タル關係行政廳ノ一ヲ以テ管理者ト爲スコトヲ得

道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テハ其ノ道路及工作物ノ管理ニ付前項ノ規定ヲ準用ス但シ私人ヲ管理者ト爲スコトヲ得ス

第十九條 道路ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第二十條 道路ノ新設、改築、修繕及維持ハ管理者之ヲ爲スヘシ

第二十一條 道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テハ管理者ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得但シ河川法第十條第一項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第二十二條 他ノ工事又ハ行爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ハ管理者其ノ工事執行者又ハ行爲者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第二十三條 前二條ノ規定ニ依ル場合ノ外特別ノ事由アル場合ニ於テハ管理者タル行政廳ハ下級行政廳又ハ私人ヲシテ道路ノ修繕ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十四條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ道路ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ

道路ノ維持ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工事ハ管理者道路ニ關スル工事ト共ニ之ヲ執行スルコトヲ得

第二十六條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ一定ノ期間橋錢又ハ渡錢ヲ徴收スルコトヲ得ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得

前項ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ハ徴收期間内橋梁又ハ渡船場ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ
第二十七條 管理者ハ特別ノ事由アル場合ニ限り橋錢又ハ渡錢ヲ徴收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得

第二十八條 管理者ハ交通ヲ妨ケサル限度ニ於テ道路ノ占用ヲ許可又ハ承認スルコトヲ得
國ノ事業ニ付テハ當該官廳ハ主務大臣ト協議シテ前項道路ノ占用ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得
管理者ハ道路ノ占用ニ付占用料ヲ徴收スルコトヲ得但シ前二項ノ規定ニ依ル占用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 前條第一項ノ規定ニ依ル占用カ法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル公共ノ利益トナルヘキ事業ニ係ルモノナル場合ニ於テ管理者正當ノ事由ナクシテ其ノ許可若ハ

承認ヲ拒ミ又ハ不相當ナル占用料ヲ定メタルトキハ主務大臣ハ事業者ノ申請ニ依リ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ占用料ヲ定ムルコトヲ得

第三十條 管理者ハ其ノ管理ニ屬スル道路ノ臺帳ヲ調製スヘシ
臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 道路ノ構造、維持、修繕及工事執行方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 道路ノ管理ノ爲必要ナル吏員ノ設置及其ノ職務權限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 道路ニ關スル費用及義務

第三十三條 主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外道路ニ關スル費用ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔トス但シ行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ關スル費用ノ負擔ニ付テハ關係行政廳ノ協議ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ決定ス

第三十四條 前條ノ場合ニ於テ道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌルモノナルトキハ其ノ費用ノ負擔ニ付テハ前條第二項但書ノ規定ヲ準用ス但シ河川法第三十條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第三十五條 第三十三條第二項ニ規定スル費用ニシテ國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得特別ノ事由アル場合ニ於テ府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

第三十六條 第二十四條ノ規定ニ依ル道路ニ關スル工事若ハ道路ノ維持ニ要スル費用又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ設クル橋梁若ハ渡船場ニ關スル費用ハ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ負擔トス

第三十七條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ノ費用ハ管理者他ノ工事又ハ行爲ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシム

第三十八條 特別ノ事由アル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ニ依ル道路ノ修繕ニ關スル工事又ハ道路ノ維持ニ要スル費用ハ管理者同條ノ下級行政廳ノ統轄スル公共團體又ハ同條ノ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十九條 道路ニ關スル工事ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ管理者ハ其ノ者ヲシテ利益ヲ受クル限度ニ於テ道路ニ關スル工事ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第四十條 特ニ道路ヲ損傷スル原因ト爲ルヘキ事業ヲ爲ス者アル場合ニ於テ管理者ハ之カ爲ニ要スル道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ノ一部ヲ其ノ事業者ニ負擔セシムルコトヲ得

第四十一條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

第四十二條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依ル義務ヲ履行スル爲必要ナル費用ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外義務者ノ負擔トス

第四十三條 道路ニ關スル費用ノ負擔金ハ費用負擔者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ス場合ヲ除クノ外第三十三條第一項ノ國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノニ在リテハ國庫、其ノ他ノモノニ在リテハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス

前項ノ費用負擔者カ公共團體ナル場合ニ於テ之ヲ統轄スル行政廳又ハ行政廳タル管理者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ストキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ費用負擔者之ヲ爲スモノト看做ス

第四十一條ノ規定ニ依ル負擔金ハ前二項ノ例ニ依リ國庫又ハ公共團體ノ收入トス

第四十四條 道路ノ占用料其ノ他道路ヨリ生スル收益ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス但シ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ得テ徵收スル橋錢又ハ渡錢ハ其ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ收入トス

第四十五條 道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ管理者ハ沿道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ヲ爲サムトスルトキハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外豫メ土地ノ占有者ニ通知スルコトヲ要ス

第四十六條 非常災害ノ爲必要アルトキハ管理者ハ道路附近ニ居住スル者ヲ使役シ、道路附近ノ土地ヲ一時使用シ又ハ土石、竹木其ノ他物品ヲ使用若ハ收用スルコトヲ得

第四十七條 前二條ノ規定ニ依ル立入、使用、使役又ハ收用ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ立入、使用、使役又ハ收用ノ後三月内ニ管理者ニ對シ補償ヲ請求スルコトヲ得

第四十八條 沿路ノ土地、竹木又ハ工作物ノ管理者ハ其ノ土地、竹木又ハ工作場ノ道路ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第四十九條 道路ノ使用又ハ道路若ハ其ノ交通ノ保全ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム沿道ノ土地ニ於ケル工作物ノ建設其ノ他ノ作爲又ハ不作爲ノ制限ニシテ道路又ハ其ノ交通ノ保全ノ目的ヲ以テスルモノニ付亦同シ

第五十條 沿道ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第五章 監督及罰則

第五十一條 左ニ掲クル場合ニ於テハ管理者ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル許可承認ヲ取消シ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、道路ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築除却セシメ若ハ之ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

- 一 道路ニ關スル法令ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 道路ニ關スル法令ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ノ條件ニ違反シタルトキ
- 三 詐欺ノ手段ヲ以テ道路ニ關スル法令ノ規定ニ依ル許可ヲ得タルトキ
- 四 道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキ
- 五 公益上必要ト認ムルトキ

前項第五號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ管理者ハ道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ主務大臣カ第二十九條ノ規定ニ依リテ其ノ爲シタル許可若ハ承認ヲ取消シ、其ノ效力ヲ停止シ又ハ其ノ條件ヲ變更スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ハ第一號ニ在リテハ行政廳ニ於テ、其ノ他ニ在リテハ管理者ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ主務大臣ハ輕易ナル事件ニ限り

命令ヲ以テ認可ヲ受ケシメサルノ定ヲ爲スコトヲ得

一 國道以外ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト

二 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定ムルコト

三 道路ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト

四 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコト

五 第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ヲ爲スコト

六 第二十五條ノ規定ニ依リ他ノ工事ヲ執行スルコト

七 第二十七條ノ規定ニ依リ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコト

八 第二十八條ノ規定ニ依リ道路ノ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ道路ノ占用料ヲ徵收スルコト

九 第三十七條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ費用ヲ負擔セシムルコト

十 前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコト

第五十三條 監督官廳ハ監督上必要ト認ムルトキハ前條ノ行政廳又ハ管理者ニ對シ前條各號ニ掲クル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ヲ命シ其ノ他命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 行政執行法第五條及第六條ノ規定並之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キ

テ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ管理者カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ義務ニ屬スル負擔金、占用料、橋錢、渡錢其ノ他ノ費用ハ管理者國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位並其ノ追徵還付及時效ニ付テハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル

第五十六條 私人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ一年以下ノ懲役若ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 許可ヲ得スシテ道路若ハ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路若ハ其ノ附屬物ヲ占用シタルトキ

二 許可ヲ得スシテ橋梁又ハ渡船場ノ使用ニ對シ橋錢、渡錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタルトキ

三 道路ノ使用ニ對シ路錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタルトキ

四 詐欺ノ手段ヲ以テ許可ヲ得タルトキ

五 正當ノ事由ナクシテ第四十六條ノ規定ニ依ル管理者ノ命ニ從ハサルトキ
六 第四十八條又ハ第二條及第四十八條ノ規定ニ違反シテ道路又ハ其ノ附屬物ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲ササルトキ

第六章 訴願及訴訟

第五十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第五十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五十九條 第四十七條ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者補償請求後三月内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ補償ニ不服アルトキハ通知後六月内ニ、補償請求後三月内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケサル場合ニ於テハ其ノ期間經過後六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第七章 雜則

第六十條 本法中府縣、府縣知事、府縣廳又ハ府縣道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ道、道廳長

官、道廳又ハ地方費道ニ關シ市、市長、市役所又ハ市道ニ關スル規定ハ北海道及沖繩縣ニ付テハ區、區長、區役所又ハ區道ニ關シ郡役所ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ支廳、島ニ付テハ島廳ニ關シ之ヲ適用ス

第六十一條 北海道ニ付テハ道路ノ種類、等級及路線ノ認定並第三十三條乃至第三十六條、第四十三條、第四十四條及第五十二條ノ規定ニ關シ沖繩縣ニ付テハ郡道ニ關シ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 道路ノ路線ノ認定ノ變更廢止其ノ他ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件並材料器具機械等ノ管理及處分ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ變更廢止ノ場合ニ於テ道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件ハ勅令ヲ以テ定ムル期間ノ滿了スル迄第六條ノ規定ヲ之ニ準用シ土地收用法中第六十六條ノ規定及之ヲ準用スル規定ノ適用ニ付テハ不用ニ歸セサルモノト看做ス

第六十三條 左ニ掲クル法令ノ規定ハ本法ニ依ル道路ニ關シ之ヲ適用セス

一 明治四年十二月十四日布告治水修路架橋等運輸ノ便利ヲ興ス者ニ税金取立方許可ニ關スル件

- 二 明治十一年七月二十二日達郡區町村編制府縣會規則地方稅規則施行順序ニ關スル件第十
二項
- 三 明治十二年二月二十七日達河港道路堤防橋費ヲ舊慣ニ因リ支辨シ得ル件
- 四 陸地測量標條例第二條
- 五 水路測量標條例第二條
- 六 電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條
- 七 軍用電信法第四條第二項ノ規定ニ依リ準用スル電信線電話線建設條例第一條、第四條及
第五條
- 八 河川法第十條第二項、第十一條及第三十二條
- 九 砂防法第八條及第十六條
- 十 私設鐵道法第四十二條
- 十一 輕便鐵道法第五條ノ規定ニ依リ準用スル私設鐵道法第四十二條
- 十二 電氣事業法第九條
- 十三 大正三年法律第三十七號

附則

第六十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 左ニ掲クル法令ハ之ヲ廢止ス

- 一 明治五年第三百二十五號布告
- 二 明治六年第四百十六號布告
- 三 明治六年第四百十三號達
- 四 明治九年第六十號達
- 五 明治十八年第一號布達
- 六 明治二十年勅令第二十八號

第六十六條 本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令
ニ牴觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス

第六十七條 本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケヘキ事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スル
モノハ本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス但シ管理者ハ本法施行ノ日
ヨリ三月内ニ六月ヲ下ラサル期間ヲ指定シ其ノ期間經過後ハ許可又ハ承認ノ效力ヲ失フヘキ
旨ヲ告示スルコトヲ得

第六十八條 本法施行前爲シタル處分ニ關スル訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

八年一月二十九日本院ニ之ヲ提出ス二月一日本案ノ第一讀會ヲ開キ床次國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、道路ニ關スル法規ノ制定ハ多年ノ懸案デゴザイマシタガ、是マデ屢々計畫サレタニモ拘ラズ、今日マデ未解決ニナツテ居ル次第デアリマス、道路ノ現況竝ニ將來ノ必要ニ付キ考慮ヲ致シマスレバ、今日ハ最早本法制定ヲ要スル時期ト考ヘマスノデアリマス、道路ニ關シタ法令ハ、今日マデハ明治九年太政官達第六十一號、外一ニ單行法令アルノミデゴザイマス、固ヨリ其規定頗ル不完全ノモノデ、遺憾ノ點少クナイノデアリマス、然ルニ道路ノ管理、維持及費用負擔等ニ關スル規定ハ、判明ヲ缺イデ甚ダ適切ナラザルモノガアルノミナラズ、不備ナル點ガ多イノデアリマス、仍テ此法案ニ於キマシテ、是等ノ點ヲ明確ニ適切ナラシメ、以テ道路ノ制度ヲ完備シ、鐵道ノ建設改良ト相俟ツテ、交通施設ノ整然ヲ期シタイト思フノデアリマス、何卒御協賛アラントヲ望ミマス

右終ルヤ大口喜六君、小山松壽君、丸山嵯峨一郎君ハ質疑ヲ爲シ床次國務大臣之ニ應答ス

大口喜六君ノ質疑

此際本案ノ根本ノ主義ニ付テ政府ニ質問致シタイト思ヒマス、唯今内務大臣ノ御説明ニ依リマシテ、本案ヲ提出サレマシタ大體ノ御趣意ハ了解致シマシテ、至極御同感ニ存ズルノデアリマス併ナガラ本案ヲ一通リ拜見致シマス、此道路ナルモノハ、五種類ニ分タレテ居リマシテ、其五種類ノ道路ト云フモノハ、何レモ國家直接ノ營造物ト看做サレテ居ルヤウデアリマス、國道ハ國家ガ直チニ之ヲ管理致シマスルシ、府縣道ハ府縣デ之ヲ管理致シ、郡道ハ郡デ之ヲ管理シ、市町村道ハ市町村デ之ヲ管理スルト定メテアリマスガ、此管理者ナルモノハ、自治體ヲ代表シテ居ル

所ノ人デハナイノデアリマシテ、即チ國家直接ノ事務ヲ扱フ所ノ市町村デアリマスルシ、國家ノ管掌事務トシテ之ヲ扱フノデアリマス、故ニ假令市町村ガ管理致シマシテモ、ソレハ國家ノ管理ト同ジ事務ニ於テ之ヲ管理シテ居ルヤウニ思ヒマス、即チ國家ガ直接ニ道路ヲ營造物ト致シマシテ、市町村等ニ至ルマデモ、國家ガ之ヲ直チニ管理シテ、而シテ其費用ダケハ何處カラ出サセルカト云ヘバ、是ハ市町村トモニ郡府縣ト云フヤウナ自治體ニ負擔セシムルコトニナツテ居ルノデアリマス、即チ此自治體ノ方ノ立場カラ見マス、道路ハ國家ガ自由ニ之ヲ定メル、又自由ニ之ヲ修繕スル、而シテ費用ダケハ自治體ガ之ヲ負ハナケレバナラヌ、財務ダケハ國家カラ委任サレル、自治體カラ見マス、何等ノ管理ナクシテ獨リ費用ダケ負擔スル、國家カラ財務ノミヲ委任サレル、斯ウ云フ事ニナツテ居ルヤウデアリマス、私共熟考ヘマス、國家ノ基礎ヲ鞏固ニスル所以ハ、一面ニ於テハ選舉權擴張ノ如キモ必要デアリマスガ、一面ニハ又自治體ノ發達ト云フ事モ望マナケレバナラヌト思フノデアリマス、然ルニ近來政府ノ遣方ヲ見マス、次第々々ニ自治體ノ持ツテ居ル權利ガ縮小サレテ、中央ニ集メラル、ヤウナ形ガアルヤウニ私共思フノデアリマス、是ハ甚ダ遺憾ナ事デアルト常ニ思ツテ居リマスガ、唯今ノ内務大臣ハ、曾テ内務省ニ居ラレマシタ頃カラ、私共ハ殆ド同ジ御意見ヲ持ツテ居ラル、御方ノヤウニ承知致シテ居リマシタ、頗ル是ニハ望ヲ屬シテ居ル次第デアリマスガ、此道路法案ノ上カラ見マス、依然トシテ自治體ト云フモノ、權限ヲ縮メラレテ、殆ド自治體ハ道路ニ對シテ何等ノ權限モ持タナイ、唯、財務ノミヲ委任サレテ、國家ノ言フガ儘ニ費用ダケヲ負擔シナケレバナラヌト云フコトニナルノハ、蓋シ自治體ノ發達ヲ阻碍スル所以デハナカラウカト深く憂フルノデアリマス、併ナガラ是ニハ理由ガアツテ御提出ニナツタコト、思ヒマスガ故ニ、其邊ノ根本ノ思想ノ在ル所ヲ伺ツテ置キタイ、斯様ニ信ジマス爲メニ、此點ヲ質問スルノデアリマス

床次國務大臣ノ應答

御答致シマス、大體地方ノ權限ヲ引上ゲテ、中央ニ成ベク持ツテ來ヌヤウニト云フ御話ハ、私モ御

同感ニ存ジマス、今度ノ道路法案ニ於テ、道路ヲ國ノ營造物ト見タト云フ事ニ付テハ、今御話ノ如キ問題ヲ惹起スルダケノ事柄デハナイト思ウテ居リマス、唯今デモ御承知ノ如ク、道路ハソレゾレ地方公共團體ノ負擔ニナツテ居ルノデアリマシテ、今度ノ法律ニ於テモ、其點ニハ一向變リハゴザイマセヌ、唯、道路其物ハ國ノ營造物デアルト云フコトヲ決メタダケノ事デアリマス、丁度學校等ガ國ノ營造物デアツテ、而シテ地方公共團體ガ之ヲ經營スルト同ジ事デアリマス

小山松壽君ノ質疑

本案ニ付テ三四質シテ見タイト思ヒマス、道路ノ種類ヲ定メマシテ之ヲ明ニ整理統一シテ、現行ノ法規ノ缺陷ヲ補フ其目的ヲ遂行スルト云フ事ニ於キマシテハ、産業上カラ考ヘマシテモ、又軍事上カラ考ヘマシテモ、此法規ノ制定ヲ見ントスルコトニ於テ、其必要ナル點ニ於テハ同感デアリマス、唯、第一ニ質シテ見タイト思ヒマスノハ、道路ノ等級ハ種類記載ノ順序ニ依リマシテ、國道ヲ最トスル、而シテ國道ノ路線ハ、第十條ノ規定ニ依リマシテ、即チ「東京ヨリ神宮ニ至リ云云」ソレカラ「主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル路線」斯様ニ示シテアリマシテ、主務大臣ノ認可ヲ規定シテアリマス、此點ニ於テ更ニ第二ノ質問ニ移ルノデアリマスガ、道路ニ關スル費用及ビ義務ノ負擔ニ於キマシテ、之ヲ明ニシテ置クノ必要アリト認ムルノデアリマス、即チ第三十三條「主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス」トアリマス、其指定ハ第一問ニ於テ致シマシタル、第十條ノ路線ノ範圍内ニ在ルモノト認メラレルノデアリマス、果シテ然リト致シマスレバ、其指定ノ範圍及ビ方針ハ、如何ナル御考ヲ有セラル、モノデアリマセウカ、其範圍及ビ程度ト云フコトノ問題ニ關シマシテ、事ガ大藏省ノ所管ト至大ノ交渉關係ヲ有スルコトデアツタト云フコトデ本案ガ今日マデ遷延シ來ッタノデアルト聞イテ居リマス、故ニ此點ニ對シテハ、明瞭ニ御答ヲ伺テ置キタイト思ヒマス、而シテ既ニ御提出ニナリマシタ以上ハ、必ズ此十數年來懸案ニナツテ居リマシタル所ノ研究ノ結果ハ、御解決ニナツテ居ルコト、思フノデアリマス、故ニ此御方針ト範圍ト其程度ト云フコトハ、帝國財政ノ上ニ至大ノ關係ヲ有スル事

デアリマスカラ、重ネテ此事ヲ申上ゲテ置キマス、ソレカラ第三ニ義務ノ負擔ニ關スル事デアリマスルガ、是ハ第三十九條「道路ニ關スル工事ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ管理者ハ其ノ者ヲシテ利益ヲ受クル限度ニ於テ道路ニ關スル工事ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得トアリマス、其次ノ第四十條ニ「特ニ道路ヲ損傷スル原因ト爲ルヘキ事業ヲ爲ス者アル場合ニ於テ管理者ハ之ガ爲ニ要スル道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ノ一部ヲ其ノ事業者ニ負擔セシムルコトヲ得」トアリマス、此點ハ第一ノ場合ニ於キマシテ、即チ第三十九條、此場合ニ於テハ其道路ノ新設若クハ改築ニ當リマシテ、其市町村若クハ公共團體ガ、之ニ依ツテ直接ノ利益ヲ受クル場合ヲ想像シ、若クハ其道路ノ新設若クハ改修ニ依リマシテ、其道路ニ沿フ所ノ直接ノ利益ヲ受クル者ノ場合ヲ想像シタモノト思ヒマス、若シサウデアツタト致シマシタナラバ、此三十九條ニ依リマシテ、其負擔ヲセシムルコトヲ定メラレタルモノデアリマスルガ、之ニ對シテハ如何ナル方法ニ依テ其負擔ヲセシメラレルノデアルカ、固ヨリ「セシムルコトヲ得」トアリマスルカラ、サセル場合モアリ、サセヌ場合モアルト解釋スルモノデアラウト思ヒマスルガ、主トシテ此負擔ヲセシムルコトノ御方針デアルト云フコトハ疑ナイト思ヒマス、是ハ如何ニシテ負擔ヲセシメラレルノデアリマセウカ、而シテ次ノ第四十條、此場合ニ直接ノ例ヲ舉ゲテ御質問ヲ致ス方ガ明瞭デアラウト思ヒマス、例ヘバ電鐵ヲ敷設シ、若クハ自動車ノ運轉ヲ許可致シマシタ等ノ場合ニ於テ、著シク其道路ノ損傷ヲ爲スモノデアリマスガ、之ニ對スル其負擔費用ヲ負擔セシムル御方針デアラウト思ヒマス、是ハ如何ナル方法ニ依リ、其費用ノ負擔ヲ要求セラレル事デアラウト、其御方針ヲ承ツテ置キタイト思ヒマス、ソレカラ第四道路ノ等級順序ニ依リマシテ定メラレタル所ノ第三郡道、此郡道ノ新設若クハ改築ニ依リマスル所ノ支辨ノ方法ニ屬シマスルコトデアリマスルガ、從來縣費支辨ヲ以テ致シテ居リマスル地方ガ多々アラウト思ヒマス、若シ本案制定ニ依リマシテ、此路線ニ依ル所ノ順序ニ依リマシテ、其管理者ニ於テ其支辨ヲ爲スト云フコトノ方針ニナリマスレバ、從來縣費ノ支辨ニ依ツテ爲シテ居リマシタル所ノ郡道ノ新設若クハ改修ト云フコトニ於キマシテ、其郡ノ負擔上到底堪ヘ得ラレザル場合ガ多々アラウト思ヒマス、此場合ニ於テ結局

其郡道ノ新設若クハ改修ハ、不可能ニ終リハシマイカトノ虞ヲ有スルノデアリマスルガ、此點ニ對シテ如何ナル御方針ヲ御執リニナルノデアリマセウカ……以上四點ニ付キマシテ明瞭ニ御答ヲ請ヒマス

床次國務大臣ノ應答

國道ハ主務大臣ガ認定致シマスルノハ、即チ第十條ノ一項二項トニ掲ゲテアルノデアリマシテ、尤モ全ク新ニ造ル譯デアリマセヌ、今日既ニ國道ト名稱サレテ居ルモノガアリマス、先ヅ大體ハソレガ認定サレル譯ト御考下サツテ宜シウゴザイマス、而シテ費用ノ負擔ハ、國道ニナレバ直チニ國庫ノ負擔デアルカト云フ御疑問デアリマスガ、ソレハ左様デアリマセヌ、第三十三條ニ「國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス」——「主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス」——特ニ內務大臣ニ於テ指定致シマスレバ、其道路ノ新設改築ハ國庫ノ負擔トスル積リデアリマス、併ナガラ然ラザルモノハ總テ府縣ヲ管轄行政廳トシテ、即チ其府縣ノ負擔ニ歸スル積リデアリマス、是ハ今日ト敢テ異ラヌノデアリマス、ソレカラ郡道ノ御話デシタナ——サウデシタラウ、ソレカラ先ヘ御答シマセウ(中略)極ク大體ヲ申上ゲマスルガ凡ソ斯ノ如キモノデアアル國道ニシテ國ヨリ見レバ極メテ必要ナモノデアアルガ、併シ地方的カラスレバ格別必要ガ無イ、サウ云フヤウナモノハ、國ノ費用ニスル外アルマイカト思フノデス、ソレカラ例ヘバ軍事上ノ目的カラ必要ナル道路デモ、地方カラ見レバ餘リ利害ノ關係ハ無イガ、國カラ見レバ極メテ大事デアルト云フヤウナ類ハ、自然此三十三條ニ依ラナケレバナルマイト思ヒマス、大略其様ナ事デ、尙ホ精シキ事ハ委員會デ御話致シマセウ……例ヲ舉レバ道路ガ改築セラレタルガ爲メニ、鑛山業者ガ其製品搬出ニ著シク利益ヲ受ケルガ如キ場合ハ、本條ヲ適用スル、又新ニ道路ヲ築造セル爲メニ、之ニ併行スル堤防ノ改築ヲ要セザルニ至レルガ如キ場合、サウ云フ類ガアリマス、大體右様ナ事デアリマス、ソレカラ郡道ノ指定ヲ致スニ付キマシテハ、御心配ノ如キ事ハ、極メテ深キ注意ヲ致シテ指定シナケレバナルマイト思ヒマス、併シ今日ニ於テ

モ郡自ラ道路工事ヲヤツテ居ル所モアリマス、甚シク御心配ニナルヤウナコトハアルマイト考ヘマス

丸山嵯峨一郎君ノ質疑

從來ハ此國縣道ノ事ニ付キマシテハ、舊イ規程ヲ適用セラレテ、ソレガ爲ニ隨分不都合ナ事ガ多イノデアッタノデ、幸ニ今回此道路法ガ提出サレタノデアリマスルガ、私ハ唯僅カナ點ニ付テ質問ヲ致シテ置キマスルノハ、此道路法中ノ道ノ種類ヲ五種ニ別ツテ居ッ、其列記シテアル所ヲ見マスル所ガ、マダ甚ダ遺憾ナ點ガアルノデアリマス、ソレハ御承知ノ通り、國道及府縣道、國道ノ方ハ明白ニ性質ガ分ツテ居リマス、府縣道及郡道ト云フモノニナリマスルト、ドウモ内容ガ錯雜シテ、例ヘバ府縣廳所在地カラシテ、府縣内ノ樞要ノ地ト斯ウアリマスルケレドモ、郡モ亦府縣内デアリマスカラ、郡内樞要ノ地カラシテ——郡役所所在地ヨリ郡内樞要ノ地ト云フヤウナ場合ハ、甚ダ其資格ヲ區別スルニハ、困難デアラウト思フノデアリマス、唯、或ハ其道路ノ道幅トカ或ハ工事ノ程度デ制限ヲ立ルカハ知ラヌケレドモ、是デハ必要ナ程度ニ應ジタ道路ヲ定ムル、之ガ標準ニハナラヌト思フノデアリマス、寧ロ私ノ考デハ、モウ少シ郡道ト云フ方ヲ明カナル標準ヲ立テ、府縣道ノ方ヲ廣クシテ置イタ方ガ宜シイデハナイカト云フ私ハ考ヲ持ツテ居ルノデアリマス、其點ニ付テ一應質問致シマス、モウ一ツハ、此限ラレタル道路ノ外ニ、地方ニ依ッテハ、生産上必要ナル道路ガ多々アルノデアリマス、今日府縣會ナドニ於テ、隨分騒ガシキ議論ガ起ルガ多クハ此府縣廳所在地ヨリ樞要ノ地ト云フヤウナコトニ當倅マラヌ處デ、地方ノ生産ニ向ッテ、必要ナ道路ガ澤山アルノデアリマス、此大體ヲ見マスルト云フト、全ク生産上ノ關係ヲ除却シテシマツテ、唯、道路ノ種類ヲ限ッテアルヤウニ思ハレマスルノデ、甚ダ此點ハ遺憾デアリマスルガ、是カラ先キノ道路ト云フモノハ、今日マデハ此大體ノ道路ガ出來テ居リマスカラ此上ハ先ヅ主ニ此生産上ノ爲メニ必要ナル道路ヲ開鑿スルノガ、最モ注意スベキ事デアラウト思フノト、モウ一ツハ停車場ニ達スル線路ガ大分澤山アリマスケレドモ、鐵道ノ敷設シテナイ場合ニハ、殆ド府

縣郡道ヲ造ル處ガ無イノデアリマス、是等ノ點ヲ補フニハ、如何ナル方法ヲ以テスルノデアルカ、一應御説明ヲ願フテ置キタイノデアリマス
床次國務大臣ノ應答

丸山君ノ御尋ハ、主トシテ路線ノ選定方ニ關シテ御説デアリマスガ、是ハ自然逐條審議ノトキニ能ク承リマシテ、漏レタ所ガアルナラバ、追加致スモ宜シウゴザイマスガ、併シ唯今御話ノ如キ事ハ、唯今ノ箇條デ十分出來ル積リデアリマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(二十七名)ニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月三日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シ同月十九日次ニ協議ノ爲ノ特別委員ヲ設ケ遂ニ原案ニ修正ヲ加フヘキモノト決シ二月十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及一ハ委員會修正)

道路法案中左ノ通修正ス

第十一條 府縣道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ府縣内ノモノニ就キ府縣知事之ヲ認定ス

- 一 府縣廳所在地ヨリ隣接府縣廳所在地ニ達スル路線
- 二 府縣廳所在地ヨリ府縣内郡市役所所在地ニ達スル路線
- 三 府縣廳所在地ヨリ府縣内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 四 府縣内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

線

- 五 府縣内樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 六 府縣内樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線
- 七 數郡市ヲ連結スル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

八 地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線

第十二條 郡道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ郡内ノモノニ就キ郡長之ヲ認定ス

- 一 郡役所所在地ヨリ隣接郡市役所所在地ニ達スル路線
- 二 郡役所所在地ヨリ郡内町村役場所在地ニ達スル路線
- 三 郡役所所在地ヨリ郡内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 四 郡内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 五 郡内樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
- 六 郡内樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線
- 七 數町村ヲ連結スル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

八 地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線

第三十三條

○主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他

主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外道路ニ關スル費用ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔トス但シ行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ關スル費用ノ負擔ニ付テハ關係行政廳ノ協議ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ決定ス

第四十七條

前二條ノ規定ニ依ル立入、使用、使役又ハ收用ニ因リ○損害ヲ受ケタル者ハ立入、使用、使役又ハ收用ノ後三月内ニ管理者ニ對シ補償ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條

行政執行法第五條及第六條ノ規定並之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ管理者カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條

本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依ル私人ノ義務ニ屬スル負擔金、占用料、橋錢、渡錢其ノ他ノ費用ハ管理者國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位並其ノ追徵還付及時效ニ付テハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル

第五十六條

私人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ一年以下ノ徵役若ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 許可ヲ得スシテ道路若ハ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路若ハ其ノ附屬物ヲ占用シタルトキ者
 - 二 許可ヲ得スシテ橋梁又ハ渡船場ノ使用ニ對シ橋錢、渡錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタルトキ者
 - 三 道路ノ使用ニ對シ其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタルトキ者
 - 四 詐欺ノ手段ヲ以テ許可ヲ得タルトキ者
 - 五 正當ノ理由ナクシテ第四十六條ノ規定ニ依ル管理者ノ命ニ從ハサルトキ者
 - 六 第四十八條又ハ第二條及第四十八條ノ規定ニ違反シテ道路又ハ其ノ附屬物ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲ササルトキ者
- 第五十九條 第四十七條ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者補償請求後三月内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ補償ニ不服アルトキハ通知後六月内ニ、補償請求後三月内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケサル場合ニ於テハ其ノ期間經過後六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

同月二十五日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長廣岡宇一郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

道路法案ノ委員會ノ終始顛末ヲ御報告致シマス、本案ハ道路ニ關スル從來ノ法規ガ、散漫且ツ不備デアリマスルガ爲メニ、之ヲ補足シ整理シ統一シタモノデアリマス、隨テ本法ニ於テハ道路ノ種類、等級及ビ路線ノ認定、並ニ指定及ビ道路ノ管理、之ニ對スル費用、並ニ義務ノ負擔等ヲ規定致シマシテ、合計六十八箇條ニ互ル相當詳細ヲ極メタル法案デアリマス、委員會ハ前後七回ニ互リマシテ開會ヲ致シマシテ、三四ノ修正ヲ致シマシテ、原案ヲ可決シタノデアリマス、修正ニ關スル概略ヲ玆ニ御紹介ヲ致シタイト思フノデアリマス、其第一ハ第十一條並ニ十二條ニ於キマシテ、府縣道並ニ郡道ノ認定ニ付テノ標準ヲ掲ケテアリマスルガ、未開ノ土地ニシテ將來產業發展ノ爲メニ、新ニ道路ノ新設ヲ要スル場合ノ規定ガ缺ケテ居ルト思フノデアリマス、併ナガラ單ニ此地方若クハ產業開發ノ爲メ必要ナリト致シマシテ、路線ヲ認定スルコトニナリマスレバ、際限ガアリマセヌカラシテ、是ニハ相當ナル制限ヲ置クノ必要アルト認メマシテ、斯ノ如キ路線ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スベキ路線、即チ最初ノ草案ニ記載サレテ掲ゲテアルガ如キ條項ニ該當スベキ見込アル路線ニ限ツテ、新ナル道路ノ設置ヲ認定スルコトガ出來ル、斯ウ云フ意味ヲ加ヘンガ爲メニ「第七」ノ次ヘ「八」ヲ置キマシテ「地方開發ノ爲メ必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スベキ路線」ト云フ一項ヲ加ヘタノデアリマス、第二ハ第二十三條國庫ノ負擔ニ屬スベキ國道ノ指定ハ、一ニ主務大臣ノ自由ナル裁量ニ任シテアルノデアリマスケレドモ、本法第十條ニ規定致シテアリマスル、主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル路線ハ主務大臣ノ指定ヲ俟ツマデモナク、其新設並ニ改築ニ關スル費用ハ、國庫ノ負擔トナスベキガ當然デアルト云フ見地カラ致シマシテ、本條ヲ修正致シマシタ、ソレカラ四十七條ニアリマスル所ノ四十五條及四十六條ニ依ツテ、沿道ノ土地ニ立入り、及ビ物件ヲ使用シ、及ビ其附送ニ住居スル人ヲ使役致シタル場合ニ、之ニ因テ生ジタル損害ニ付テハ、當然之ヲ賠償スルノガ相當デアラウト思ハレルノデアリマス、然ルニ原案ノ

如ク是等ノ損害ヲ受ケタル者カラ請求ヲ爲シテ、始メテ是ガ賠償ヲナスト云フコトニナリマスレバ、僅カノ金額ニ對シテ非常ニ面倒ナル手數ヲ要スルガ爲メニ、却テ其權利ヲ拋棄スルガ如キ結果ヲ生ズル虞ガアルノデアリマス、ソコデ進ンデ管理者ガ是ガ賠償ヲ爲スベシト云フ規定ヲ置クノ相當ナルヲ認メマシテ即チ管理者カラ働キ掛ケニ之ヲ補償スルト云フ規定ニ改メタノデアリマス、此第四十七條ヲ修正致シマシタル結果トシテ、第五十條ニ多少ノ修正ヲ加ヘタノデアリマスルガ、更ニ第五十四條、五十五條、五十六條此三箇條ニ「私人」ト云フ文字ヲ使ッテアリマス此文字ハ從來ノ立法例ニ於テ、餘リ多クヲ見ザル文字ナルノミナラス、此文字ヲ使ヒマシタルガ爲メニ、解釋上往々疑義ヲ生ズルノ虞ガアルノデアリマス、寧ロ之ヲ削除スル方ガ當然デアラウト信ジマシテ、此三箇條ニ互ル「私人」ト云フ文字ヲ全部削除致シマシタ、其結果トシマシテ第五十六條ニ「トキハ」トアルモノヲ、全部「者」ト改メルコトニ致シマシタ、尙ホ一ツハ第五十六條ノ制裁ト致シマシテ、草案ニハ一年以下ノ懲役ニ處スルノ規定ガアリマスルガ、是等ノ各號ヲ點檢致シマスルニ、何レモ體刑ヲ以テ俟ツベキダケノ重大ナル所爲ト見ル事ガ出來ヌノデアリマス、故ニ單ニ「二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス」ト云フコトノ規定ニ改メタノデアリマス、以上修正ニ付テハ政府ハ全然之ニ同意ヲ表シタノデアリマス、法文ノ上ニ別ニ修正ハ加ヘマセヌガ、尙ホ御報告ラセナケレバナラヌコトハ、第二章ノ道路ノ認定若クハ指定ニ關スル事柄デアリマス、第八條ノ國道以下町村道ニ至ルマデ、是ガ認定ハ總テ政府ニ於テ致スコトニ相成ッテ居リマス、認定管理ハ政府之ヲ致シマスルガ、改築若クハ新設ニ關スル費用ハドウスルカト云ヘバ、或ル少數ノモノヲ除クノ外ハ、總テ地方公共團體ノ負擔ニ相成ッテ居ルノデアリマス、地方公共團體ノ意思ヲ尊重セザルノミナラス、後日是ガ費用ヲ決スベキ場合ニ於テハ、總テ公共團體ノ決議ニ俟ツベキモノデアリマスカラ、最初ニ地方公共團體ノ意志ヲ十分ニ斟酌セザル時ニハ、費用負擔ノ時ニ於テ、一大障礙ヲ來スノ虞ガアルノデアリマス、故ニ此後日費用負擔ノ際ニ起ルベキ障礙ヲ除却スベキ方法ト致シマシテモ、亦地方公共團體ノ意思ヲ尊重スル上カラ見マシテモ、此認定ヲナス場合ニ、豫メ公共團體ノ意見ヲ尋ネルト云フ事柄ガ、最モ穩當ナル方法デアラウト云フコト

カラ致シマシテ、府縣道以下ノ路線ノ認定ヲナスニ當ツテハ、此公共團體ニ諮詢スルト云フコトニ定メタイト云フ意見デアリマス、若夫レ國道ニ至リマシテハ、一國道路ノ主幹ヲ運輸交通ハ言フニ及バズ、一般文明ノ進歩ニ最モ重大ナル關係ヲ有シ、殊ニ國道ノ或ル部分ニ於テハ、其經費ハ國庫ノ負擔ニ歸スルノデアツテ、其認定若クハ指定ノ如何ニ依リマシテハ、一國財政上ニモ重大ナル關係ヲ有スルノデアリマス、之ヲ單ニ主務大臣ノ自由裁量ニ一任スルト云フコトハ、道路ノ政策ヲ輕視スル虞アルノミナラズ、大臣ノ交代毎ニ其方針ガ變ルト云フコトガアリマシテハ、種種ノ障害ヲ來ス虞ガアルコトヲ信ジマシテ、玆ニ一ノ機關ヲ設ケテ、認定並ニ指定ヲナスニ付テモノヲ設ケ、之ニ諮詢ヲ致シマシテ、以テ國道ノ新設並ニ修繕ニ關シテ主務大臣ノ認定ヲ助ケルト云フコトニシタラ宜カラウ、併シ是等ノ事柄ヲ本法ニ規定スルコトハ却テ錯雜ヲ來シマスノデ、之ヲ命令ニ讓ツテ、別ノ規定ヲ以テ是等ノ希望ヲ達シタイト云フ、委員會ノ希望デアリマシテ、政府ハ之ニ對シテモ全然同意ヲ表シマシテ、必ズ別ノ法令ヲ以テ是等ノ規定ヲナスベキコトヲ言明サレマシタノデ、委員會ハ政府ノ言明ヲ諒ト致シマシテ、本法ニ對シテハ修正ヲ施サズ、此儘可決致シマシタ、唯、玆ニ最終ニ於テ、委員會ニ於ケル異ナタル意見ノ現レタノガゴザイマス、即チ第十二條ニ關スル郡道ニ付キ、郡道ノ有ラザル府縣ガ多數アリマス、是等ノ府縣ニ於キマシテハ、本法ニ於テ郡道ニ該當スベキ路線ハ、其一部ハ府縣道トナリ、其一部ハ市町村道ニナツテ居ルノデアリマシテ、是等ノ市町村道ノ經費ハ、特ニ府縣費ヲ以テ之ヲ支辨致シテ居タノデアリマス、斯ノ如キ從來ノ慣例ガアルニ拘ラズ、俄ニ本法ヲ實施シテ新ニ郡道ナルモノヲ認メルト云フコトニナリマスレバ、郡ノ經費ガ急激ナル膨脹ヲ來シ、其郡ノ財政上ニ困難ヲ來スカラ寧ロ郡道ト云フモノヲ廢スルコトガ出來ヌカ、若シ廢スルコトガ出來ヌトスレバ、何等カ之ニ對シテ緩和スル方法ハナイカト云フ、希望ガアリマシタ、政府ノ意見ヲ聽キマシテモ既ニ國道縣道郡道市町村道ト云フ如ク、之ヲ系統的ニ規定シテ居ル、本法ニ於キマシテ特ニ郡道ト云フモノヲ廢スルコトハ出來ナイ、唯、本法施行ニ付テ斯ノ如キ舊慣アル土地ニ付テハ、十分之ヲ斟酌シテ、急激

ナル變化ヲ來サルコトニ、政府當局トシテ十分ノ配意ヲ拂フト云フコトノ言明ガアッタノデアリマス、併ナガラ尙玆ニ新ナル修正ノ意見ガ提出サレタノデアリマス、即チ第六十四條ノ次ニ、新ニ六十五條ヲ設ケ「本法ニ依リ郡道ニ該當スル路線ニシテ從來府縣費ヲ以テ其費用ヲ負擔シタルモノハ本法施行後ト雖モ府縣知事之ヲ管理シ其費用ハ府縣ノ負擔ト爲スコトヲ得」ト云フ、斯ウ云フ修正意見ガ出タノデアリマスガ、採決ノ結果少數ニテ消滅ヲ致シマシタ、此段御報告致シマス

院議本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ高田耘平君ハ修正動議ヲ提出シ磯部尙君ハ原案ニ賛成ノ演說ヲ爲ス

高田耘平君ノ修正動議

私ノ修正說ハ唯今委員長ヨリ概要御報告ニナツテ居リマス、即チ大體ノ意味ハ郡道ノ管理及費用ノ支辨ニ付テ、本法中或ル取除ケラ設ケントスルノ案デアリマス、而シテ私ノ修正ノ理由ハ其一部ハ唯今委員長ヨリ御報告ニナツテ居リマスケレドモ、尙ホ其他ニ相當ノ理由ガゴザイマス、第一ハ郡制ノ存廢如何ト郡道設置ノ關係デゴザイマス、郡制ノ廢止ト云フコトハ、現内閣ノ原首相ガ從來長ク唱道シ來リタル所デゴザイマス、併ナガラ本法ノ郡道ヲ認ムルコトニ致シマシテ郡費負擔ノ増額ヲ來シマスレバ、郡制廢止ノ意見ヲ徹底スルニ不都合ニナルガ故ニ、本法ニ於テ郡制ヲ認ムルト同時ニ、郡制廢止ノ意見ヲ打切タモノデアラウ、斯ウ云フ考ヲ私ハ持チマシテ、政府ハ郡制廢止ノ見込如何ト云フコトヲ質問致シマシタ、所ガ床次内務大臣ハ、郡制ノ廢止ハ尙ホ宜シキ事ト考ヘテ居ルト、斯ウ云フコトヲ御明言ニナツテ居リマス、サウスレバ政府ハ近キ將來ニ郡制廢止ノ提案ヲ爲サルベキモノト想像スルノガ當然デアラウト信ジマス、ソコデ本法ヲ施行セバ、全國ノ有ラユル郡ニ郡道ガ認定セラレマシテ、郡經營ノ事業ハ益、膨大スルコトハ明カデアリマス、即チ郡制廢止ハ益、困難トナルノデアリマス、既ニ郡制廢止ト云フコトヲ、現内閣ハ前

提トシテ置キナガラ、郡ノ事業ヲシテ益、繁多ナラシメントスルガ如キ政策ヲ執ルト云フコトハ遺憾ナガラ矛盾デアルト云フ誹ハ免レマイト私ハ思フノデアリマス、若シ郡制廢止ノ意嚮ガ近キ將來ニ在ルモノトスレバ、本員ノ修正説、即チ本法ニ依ッテ郡制トナルベキ道路ノ費用ヲ、府縣ガ支出シタル慣例ノ有ル地方ニ於テハ其儘ニ置イテ、サウシテ本法ヲ施行スル方ガ、詰マリ郡制廢止ト云フコトヲ徹底スベキ政策ニナルコトデアラウト思ヒマス、郡制ヲ廢止シタ場合ニ、其郡道ヲドウスルカト云フコトヲ質問致シマシタル所ガ、土木局長ハ其場合ニハ、町村組合ノ事業ニ移スベキモノナリト是モ言明セラレタ、然レドモ是ハ餘程困難ナコトデアラウト思ヒマス、從來縣費ヲ支辨セシモノヲ、一旦此法律ニ依ッテ郡費ノ負擔ニ移シテ、尙又更ニ郡制廢止ニ依ッテ之ヲ町村組合ニ移スト云フコトハ、到底私ハ不可能ト思フノデアリマス、第一ノ理由ハ本法施行ノ結果ハ、府縣郡ノ負擔ニ大變革ヲ來スコトハ甚ダ宜シクナイカラ、修正説ヲ以テ此取除ヲ規定シテ置ク必要ガアルト云フコトデアリマス、今日ノ狀態ニ於テ郡制ヲ施行セシ郡ニ於テ、郡費ヲ以テ道路ノ費用ヲ負擔セシメアル郡ト、負擔セシメザル郡トノ比較ヲ調査シテ見ルト、内務省ノ調査ニ依レバ、郡制施行ノ郡ガ總數五百三十六郡デアリマス、内郡費支辨ノ道路ヲ有スルモノガ二百三十七郡デ、郡費支辨ノ道路ヲ有セザルモノガ二百九十九郡デアリマス、ソレデ更ニ又郡費支辨ノ道路ノ無イ縣ガ、東京、大阪外十六縣アル、又内務省ノ調査致シマシタル最近三箇年間ニ於ケル、郡道ノ爲メニ郡ガ支出致シマシタル最近三箇年平均ノ費用ヲ調べテ見ルト、僅カ百餘萬圓ノ金デアリマス、而シテ最モ僅少ナノハ、群馬縣ガ十九圓、宮城縣ガ二百二十一圓、郡道ノ名ハアリマシテモ甚ダ僅少ナ支出ヲシテ居ル郡ガ多イ、又岡山縣、大分縣、宮城縣等ノ此三縣ニ於テハ、一縣ガ殆ド千圓二千圓ノ郡費デアリマス、斯ウ云フ狀態デハ成程郡費ヲ以テ道路ノ費用ヲ負擔シテ居ル郡ハ多クゴザイマスケレドモ、今日マデ支出シテ居ル所ノ郡ノ數ハ、支出シナイ郡ヨリモ少ナクシテ、尙ホ費用モ極ク僅々タルモノデアリマス、然ルニ若シ此法律ヲ施行致シマシテ、各縣ヲ通ジテ此郡道ヲ設クルト云フコトニナリマスレバ、今日マデ支出シテ居リマス所ノ百萬圓許リノ金ハ、忽チニ五百萬乃至千萬圓ノ多キニ達スルト云フコトハ、明カナ事デアラ

ウト私ハ思フノデアリマス、更ニ又從來少シモ郡費負擔ノ道路ガ無カリシ所ノ東京、大阪外十六縣、郡費ノ増加ヲ來スト云フコトハ、是亦明カデアリマス、郡費ノ徵收ハ其郡内ノ各町村ニ、其町村ノ國縣稅ノ比例ヲ以テ分賦スル方法ニナッテ居リマス、是ハ甚ダ租稅ノ徵收法トシテハ、私共不完全ナモノデアルト思フノデアリマス、併ナガラ今日ノ如ク郡費ノ負擔ハ極ク少額デアル場合ハ差支ゴザイマセヌケレドモ、之ヲ若シ今日ノ負擔ニ五倍十倍致シマシテ、各町村ニ分賦スル金額ガ増加シタ場合ニ於キマシテハ、郡ノ狀況ニ依リマシテハ非常ニ不公平ナ結果ヲ見ルコトハ明カデアリマス、ソレガ爲メニ郡ノ經濟ニ非常ナル變更ヲ來スト同時ニ、或ハ郡自治ノ紛擾ヲ起サユナ事モ必ズ私ハ起ルト思フノデアリマス、更ニ又此法律施行ニ依ッテ成程府縣費ノ負擔ハ幾分確カニ減少致シマス、併ナガラソレト反對ニ、郡費ノ負擔ハ非常ニ龐大スルノデアリマス、ソレガ各郡平均ニ負擔ガ殖エマスレバ宜シウゴザイマスケレドモ、然ラズシテ或郡ハ非常ニ郡費ノ龐大ヲ來シ、或郡ハ極ク僅少ナル郡費ノ負擔デ澤山デアアル、斯ウ云フ現象ニ相成ル事モ、地方々々ニ依ッテアル事ハ明カデアリマス、結果、郡費ノ非常ニ龐大ヲ來シタ郡ニ於テハ、改築修繕スベキ費用ノ負擔ニ堪ヘズシテ、其修繕等ヲ等閑ニスル事モ、是モ實際上出來得ベキ事デアラウト私ハ信ズルノデアリマス、此點ニ付テ私ハ堀田土木局長ニ質問ヲ致シマス、ト、サウ云フ場合ニハ縣費ヨリ相當ノ補助ヲ爲サシメテ之ヲ救濟スル、斯ウ云フ御答辯デアアル、是モ一應御尤デアリマス、併ナガラ此縣ヨリ郡、或ハ町村ニ補助ヲスルト云フコトニ付テハ、大分其補助額ニ付テ政府ガ八釜敷シイ事ヲ言ヒマシテ、中々大ナル補助ヲ出サセマセヌ、政府委員ハ成ルベク、急激ナル變化ヲ避ケテ、郡道ヲ設置スル事ヲ望ム所ハ宜イケレドモ、望マナイ所ニハ敢テ郡道ノ認定ヲ強イナイト答辯シテ居リマス、併ナガラ是ハ私ハ實行出來ナイ事デアラウト思フノデアリマス、若シソレガ實行出來、而シテ政府ガ之ヲ實行セントスル意思アルナラバ、私ノ修正説ニ同意シテ置ク方ガ寧ロ穩當ダラウト思フ、或ハ從來府縣費ヲ以テ本法ニ依リ郡道タルベキ道路ノ負擔ヲ郡ニ移シテ、縣費ヲ減ラサシメルト云フコトガ、本法制定ノ骨子ニナッテ居ルニ非ズヤト思フ點ガアルノデアリマス、第三ニハ、此法律案ハ明治二十年頃ヨリノ懸案

デアリマシテ、二、三回議會ニ提出サレマシテ、否決或ハ握潰シノ運命ニ遭遇シタ案デアリマス、隨テ此法律案ノ關係スル所ハ餘程多イノデゴザイマス、德斯カル場合ニ於テハ急激ナル變化ノ來ルヲ避ケンガ爲メニ、私ノ修正説ノ如ク、從來縣費ヲ以テ郡道トナルベキモノヲ、管理或ハ費用ノ負擔ヲ爲シ來ツタ所ハ、其儘保存シテ置クト云フコトガ、極ク穩健ナル遣方デアラウト信ジマス、以上ヲ以テ本員ノ修正説ノ理由ト致シマス……

磯部尙君ノ演説

明治二十一年來ノ懸案デゴザイマシテ、色々政治上ノ歴史ニモ色彩ラレタル道路法案ガ、此度殆ド吾々ノ望ミマスル完全サノ程度ヲ以テマシテ通過スル事ニナリマシタ事ハ、誠ニ御同慶ニ堪ヘザル所デゴザイマス、申上ケルマデモナク道路法制定ノ精神ハ、道路ノ種類、資格ヲ確定致シマシテ、其ノ費用ノ負擔ヲ公平ナラシメ、其管理方法ヲ改善セシムルト云フコトガ、根柢ノ主義精神ニナツテ居ルノデゴザイマス、即チ本法ハ道路ノ種類ヲ五ツニ分タレマシテ、國道以下ソレ道ト申シマスノハ在來法律上認めテ居ッタモノハゴザイマセヌ、ケレドモ今日ハ明ニ府縣、郡、市町村ト云フ階級ト云フモノガ認めラレテ居リマシテ、又之ニ伴ウテ道路モソレ々種類、資格ハ一定サレテ居ルノデアリマス、現ニ今日我國ニ於キマシテ、郡道ト云フ制度コソハ認めラレテ居リマセヌケレドモ、郡道ヲ以テ目スベキ郡費支辨里道ト申シマスモノハ、全國ヲ通ジマシテ六千有餘里ニナツテ居ルノデゴザイマス、即チ郡道ト云フ一ノ種類資格ノ道路ヲ造ラナケレバナラヌ必要ノ迫ツテ居ルト云フコトハ、此事實ノミヲ以テ致シマシテモ、洵ニ明確疑ヲ容レヌノデゴザイマス、既ニ郡道ト云フモノヲ認めマサル以上ハ、茲ニ高田君ノ御希望ニナリマスルカ如キ、一ノ變例ヲ認めベキヤ否ヤト云フコトガ、問題ニナツテ來ルノデゴザイマス、郡道ハ郡ガ其費用ヲ支辨シナケレバナラヌト云フ茲ニ精神モ確乎トシテ立ツテ居ルシ、道理モ備ハツテ居ル、然ルニ偶々從來府縣ノ費用ヲ以テ其管理ヲ爲シ來リタルノ故ヲ以テ、永ヘニ之ヲ矢張府縣ノ管理ニ屬セ

シメ、府縣ノ費用ニ負擔セシムルト云フコトハ、法ノ根本ノ精神ヲ破壞スル事ニナリハセヌカト云フコトヲ、私共ハ憂フルノデゴザイマス、床次竹二郎君ガ、稍、郡制廢止ノ方ガ理窟ニ適フカノ如キ口吻ヲ漏ラサレマシタコトハ事實デゴザイマス、私不肖モ亦郡制廢止意見モ持ツテ居リマス併ナガラ政治家ト致シマシテハ、今日郡制ト云フモノヲ廢止スベキヤ否ヤト云フコトハ、慎重ニ考慮ラシナケレバナラヌ問題デアルト思ヒマス、ノミナラズ假ニ政治家ノ經綸トシテ、嘗テ一度口ニモシタ事デアルカラ、郡制ヲ廢止シナケレバナラヌト致シマシタ所ガ、今日郡制廢止案ヲ提出スルト云フ意思ハ毛頭無イト云フコトモ、亦内務大臣トシテ床次君ノ言明セラレタ所デゴザイマス、然ラバ今日既ニ府縣郡市町村ト云フ階級ガ劃然、儼然トシテ存シテ居リマス以上ハ、之ニ則ツテ道路法モ制定スルノガ至當デゴザイマシテ、郡制廢止ト云フモノヲ、理窟ノ上ニ正シイト致シマシタ所ガ、其法律ノ出マス曉ト云フモノヲ今日カラ豫想ヲシテ、郡道ト云フモノヲ今日廢止シテ本法ヲ制定スルト云フ理由ハ、毫末モ存シテ居ラヌト私ハ考ヘルノデゴザイマス、一應費用負擔ノ點ニ付キマシテ、高田君ノ御心配ニナリマス事ハ、洵ニ御尤デアルト私共モ御同情ヲ致ス所ガゴザイマスケレドモ、ソレハ民意尊重ニ則リマシテ、總テ諮問機關ニ諮問ヲ致シ、慎重ナル考慮ヲ重ネ、ソレハ上級ノ監督機關ニ依ツテ監督ノ實ヲ擧ゲルコトヲ言明致シテ居リマスル此政府委員ノ意思ト云フモノガ、明カニナリマシタ以上ハ、姑ク此政府委員ノ言明ニ御信賴ヲナサイマシテ、本法ノ折角出來上リマシタル白壁ニ對シ、微瑕ヲ造ルガ如キ御異議ノ出デザランコトヲ私ハ希望スルノデゴザイマス、本法ハ委員長報告通り御可決アランコトヲ希望致シマス

院議第二讀會ニ於テ高田君ノ修正案ヲ否決シ委員長報告通(修正通)確定ス茲ニ於テ直チニ第三讀會ヲ開キ第二讀會議決ノ通修正議決ヲ爲シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十一日可決奏上シ四月十日法律第五十八號ヲ以テ公布セラル

一一 北海道舊土人保護法中改正法律案

北海道舊土人保護法中左ノ通改正ス

第五條 北海道舊土人ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ自費治療スルコト能ハサル者ハ之ヲ救

療シ又ハ之ニ藥價ヲ給スルコトヲ得

第六條中「疾病」ヲ「傷痍、疾病」ニ改ム

附則

本法ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

八年一月二十九日本院ニ之ヲ提出ス二月一日本案ノ第一讀會ヲ開キ床次國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

北海道舊土人ノ爲メニハ、特ニ保護法ガ制定セラレテ、種々保護ノ途ガ加ヘラレテ居ルノデゴザイマスルガ、何分衛生ノ思想ニ乏シイ、生計ノ程度モ低ク、又醫療機關モ十分デナイ爲メデアリマセウ、全國ニ比較シテ見マスルト、舊土人ニ於テハ死亡率ガ高イノデアリマス、殊ニ肺結核患者ガ多イノデアリマス、之ヲ今日ノ儘ニ放任シ置ク譯ニ參ラヌト考ヘマスルノト、又其儘ニ致シテ置キマスルト、其病毒ガ一般ニ傳播スル虞モアリマスノデ、此度此改正ヲ致シマシテ、舊土人ノ爲メニ、簡易ノ病院ヲ造ツテ救療ノ途ヲ開キ、又傷痍ヲ受ケタ者デアツテ、自費ノ治療ノ出來ナイ者ガアレバ、救療或ハ救助ノ途ヲ開イテ、保護ヲ全クシタイト思フノデアリマス、ドウゾ御協賛ヲ望ミマス

小西和君及伊東知也君ハ左ノ質疑ヲ爲シ床次國務大臣ハ之ニ應答ス

小西和君ノ質疑

此法律案ハ、現行ノ法律ニ一步ヲ進メルモノデゴザイマスカラ、其趣意ニ於テハ誠ニ結構ノ事柄ト思ヒマス、併ナガラ單ニ一步ヲ進メルニ過ギナイノデアリマシテ、私ノ見ル所ヲ以テ致シマスレバ、土人ノ保護ハモウ少シ徹底的ニ、根本的ニアリタイト思フノデアリマス、御承知ノ如ク北海道ノ舊土人ハ、有エル方面カラ壓迫ヲ被ツテ居リマシテ、極メテ悲慘ノ状態ニ陥ッテ居ルノデアリマス、所ガ此舊土人ハ、我國歴史ノ上ヨリ見マシテ、極メテ大切ナ種族デアリマス、又人類學者古學ノ上カラ見マシテモ、捨テ置キ難キ種族デアリマス、此理由ニ於テ、土人ヲ徹底的ニ保護シ永久ニ彼等ヲ保存スルノ途ヲ立テ、置ク必要ガアルト思ヒマス、殊ニ人道ノ上ヨリ見マシテ、彼等ヲシテ今日ノヤウナ状態ニ置クト云フコトハ、最モ日本ノ國民トシテ、甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス、政府ハ根本的ニ彼等階級ノ、安全ニ愉快ニ生存シ得ルダケノ保護法ヲ講ズル御考ガアルヤ否ヤ、此點ヲ伺ヒタイ、又此機會ニ於テ今一ツ伺ツテ置キタイ事ハ、北海道ノ舊土人ト殆ド同ジ關係同ジ状態ニ在ル所ノ樺太ノ舊土人ハ、如何ニ爲サル御積リデアリマスカ、樺太ノ舊土人、ソレハ「アイヌ」其他「ギリヤーク」、「ワリヤーク」、此三種族ガアリマス、此種族ガ我國ノ領土ニ復歸致シマシテ以來、業ニ既ニ餘程生活上ノ慰安ヲ奪ハレ、危惧ノ念ニ陥ッテ居ルヤウニ見ユルノデアリマス、之ニ對シテモ又適當ノ方法ヲ採ル必要ガアラウト考ヘマスガ、政府ノ此邊ニ付テノ御考ハ如何デアラウカ、承リタイト思ヒマス

床次國務大臣ノ應答

唯今小西君カラ、徹底的ノ保護法ヲ立テタラドウカト云フ御尋デアリマシタガ、其御答ヲスル前ニ、唯今ヤツテ居ル事ヲ、此處デ御承知ノコト、思ヒマスケレドモ申上ゲ置キマス、土地ノ無償下附、農業ニ從事スル者、又ハ從事セントスル者ニ對シ、一戸ニ付一萬五千坪以內ヲ無償下附スル

コト、ソレカラ農具種子ノ給與ヲ致シテ居リマス、ソレカラ今日マデモ藥價ノ給與ヲ致シテ居リマス、救助米、埋葬料ノ給與、授業料ノ給與、小學校維持及建設ト云フヤウナモノ、彼様ナモノデ保護ヲ加ヘテ居ル次第デアリマスガ、是デハマダ足ラヌト思フ、デ、今度ノ改正ヲ出シタ次第デアリマス、ソレ以外ニ今當局者ハ考ヲ持ッテ居リマセヌガ、此外ニ徹底的ノ案ガゴザイマスナラバ、委員會ニ於テ篤ト拜聽シタウゴザイマス、樺太ノ方ハ本案ニ關係ガゴザイマセヌカラ、何レ主務大臣カラ更ニ御答致シマス

伊東知也君ノ質疑

「傷痍者又ハ疾病」ト云フ事ガアル、是ハ矢張地方長官ガ、何カ検査官デモ置イテ調べタ上ニ、御許ニナル御方針デゴザイマセウカ、如何ナモノデゴザイマセウカ、又小西君ノ御質問中ニ、私ハ甚ダ解シ難イ事ガアリマスカラ、一應小西君ニ御聽シタイト思フ、初メハ人類學上ノ參考品トシテ保護シナケレバナラヌト云フ文句ガアルカト思フト、今度ハ人道上ノ問題デアルカラ助ケナケレバナラヌト言フ、ドウモ帝國ノ臣民ハ、縦シヤ「アイヌ」デアッテモ、人類學上ノ參考品トシテ保護スルナド、言ハレルノハ、甚ダ奇怪ニ思フデアリマス、此點ハ小西君ハ聊カ御反省ニナッタラ如何カト思ヒマス、ソシテ事ハ更メテ答辯ニハ及ビマセヌガ、御互ニ注意スルコトデゴザイマス、政府ハ疾病傷痍ノ診査其他ノ方法ニ付テ、御成案ハ無イノデアリマスカ、簡單デゴザイマスカラ、其席カラ御答ヲ願ヒマス

床次國務大臣ノ應答

御答致シマス、北海道廳ニ於テ専ラ世話ヲ致シマスガ、實際ニ於テハ町村役場デソレニ當ッテ居リマス、ソレナラバ間違ナイ積リデアリマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長ハ之ヲ指名ス委員ハ同月三日委員會ヲ開キ委員

長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同月十日報告書ヲ議長ニ提出セリ同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ヲ續會ヲ開キ委員長佐々木平次郎君ハ委員會ノ經果及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

北海道舊土人保護法中改正法律案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、本案ノ要旨ハ極メテ簡單デアアルノデアリマシテ、從來此北海道ノ舊土人ヲ保護スル所ノ法律ハ、制定サレテアルノデアリマスガ、更ニ其法律ノ内容ニ一歩ヲ進メテ、最モ有效ニ便宜ヲ與ヘヤウト云フノニ外ナラヌノデアリマス、即チ要點ヲ擧ゲマスレバ、天災其他ノ事由ニ依ッテ傷痍ヲ受ケ、若クハ疾病ニ罹ッタ時ニ當ッテ、自費ヲ以テ治療スルコトノ出來ナイ者ニ對シテ治療シ、又之ニ藥價ヲ與ヘヤウトスルノデアリマス、聞ク所ニ依リマスレバ、現在ノ北海道ニ於ケル舊土人ハ、約一萬八千人程居ルサウデアリマス、而シテ最近ニ至リマシテ、死亡率ハ此内地ノ人ニ較ベマスルト云フト、比較的多イノデアリマス、又衛生状態モ極メテ不良デアアルノデアリマス、殊ニ肺結核ニ依ッテ死亡スル者ガ非常ニ多イノデアリマス、之ガ救済又ハ救濟ノ規定ヲ加ヘルト云フトハ、人道ノ上カラ言ヒマシテモ、最モ緊要ノ案デアルト云フ下ニ於キマシテ、委員會ハ滿場一致ヲ以テ原案ヲ可決シタノデアリマス、此段御報告申上ゲマス

院議異議ナク讀會ノ順序ヲ省略シテ可決確定シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月七日可決奏上シ三月二十四日法律第六號ヲ以テ公布セラル

一三 開墾助成法案

開墾助成法

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

第一條 土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ左ニ掲クル事業ヲ行フ者ニ對シ主務大臣ハ豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付スルコトヲ得

一 開墾、湖海ノ埋立若ハ干拓又ハ開田

二 前號ニ掲クル事業ニ伴フ灌漑排水ニ關スル施設又ハ道路堤塘ノ新設若ハ變更

第二條 助成金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工事開始ノ年ヨリ工事終了後四年ニ至ル期間内ニ於テ之ヲ交付ス

前項助成金ノ年額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ爲其ノ交付ノ日迄ニ支出シタル總金額ノ百分ノ六以内トス

第三條 助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ最後ノ交付ノ年ノ翌年ヨリ起算シ二十年内ニ於テ其ノ受ケタル助成金ヲ返還スヘシ

第四條 助成金返還ノ義務アル者助成金交付ノ土地、事業又ハ事業ニ依リテ生シタル設備ヲ讓渡セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ國ニ讓渡スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 助成金交付ノ土地、事業又ハ事業ニ依リテ生シタル設備ノ移轉アリタルトキハ移轉前ニ交付アリタル助成金ノ返還ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ承繼人前者ト連帶シテ其ノ返還

ノ義務ヲ負フ但シ國カ承繼人タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 主務大臣ハ助成金ノ交付ヲ受クル者又ハ助成金返還ノ義務アル者ニ對シ助成金交付ノ土地、事業又ハ事業ニ依リテ生シタル設備ニ關シ報告ヲ命シ、當該官吏若ハ吏員ヲシテ書類會計物件若ハ工事ヲ検査セシメ又ハ監督上必要ナル命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ主務大臣ハ助成金ノ交付ヲ受クル者又ハ助成金返還ノ義務アル者ニ對シ助成金ノ交付ヲ停止シ若ハ廢止シ又ハ助成金ノ全部若ハ一部ノ即時返還ヲ命スルコトヲ得

一 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

二 事業ノ全部又ハ一部ノ停止又ハ廢止アリタルトキ

三 助成金交付ノ土地又ハ事業上ニ依リテ生シタル設備ヲ農業上ニ利用セサルニ至リタルトキ

四 助成金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

五 詐欺ノ手段ヲ以テ助成金ノ交付ヲ受ケタルトキ

第八條 私人ノ助成金返還ニ付テハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第九條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ

得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ北海道ニ之ヲ施行セス

八年一月二十九日本院ニ之ヲ提出ス二月一日本案ノ第一讀會ヲ開キ山本國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

唯今議題トナリマシタ開墾助成法案ニ付テ、提出ノ理由ヲ大體申述ベマス、國民食料品ノ需要ニ對シマシテハ、將來安全ナル供給ノ方法ヲ立テマスルコトハ、國ノ生計、國家ノ存立上缺クベカラザル事項デアリマシテ、是ガ供給ノ根本ハ、生産ノ増加ニ在ルコトハ申スマデモアリマセヌガ就中耕地ノ擴張ヲ爲シ、地盤ノ面積ヲ擴張スルコトガ、最も重要ナル關係ヲ有スルコト、存ジマス、政府ハ既ニ大正七年度ヨリ土地利用ノ調査計畫ニ著手致シマシテ開墾ノ見込ノ地ニハ、是マデ技術者ヲ派遣シテ、開發ノ方法等ニ付テ十分ノ調査ヲシツ、アルノデゴザイマス、併シ是等ノ調査ヲ利用シテ、開墾ノ事業ヲ確實ニ現實ニセントスルニハ、開墾當初收益未ダ十分ナラザル相當年限間、投入資本ニ對シマシテ、不足補給ノ趣旨ヲ以テ、相當助成金ヲ交付ススルト云フコトハ、最も有效ニシテ適切ナル獎勵方法ト認メル次第デゴザイマス、是ニ依リマシテ速ニ相當ノ新耕地ヲ開墾シテ、他ノ施設ト相待ッテ國民食糧ノ供給ヲ潤澤ナラシメ、併セテ農村ノ振興ニ資セントスル次第デゴザイマス、之ガ提出ノ大體ノ理由デアリマスル故ニ、願クハ慎重審議ノ上御協賛アランコトヲ望ミマス

田中萬逸君、藤井善助君、秋田寅之介君及高田耘平君ハ各質疑ヲ爲シ山本國務大臣ハ之ニ應答ス
田中萬逸君ノ質疑

現今問題トナッテ居リマスル此食糧ノ潤澤、言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、産米ノ増加ヲ圖ルベキ此開墾助成法案ヲ提出ニナリマシテ、其提出ノ理由ノ大體ハ、唯今拜聽致シマシタ、頗ル有效ニシテ適切ナル施設デアルトハ存ジマスガ、扱仔細ニ此法案ヲ一覽シテ見マスルト、甚ダ不徹底、又甚ダ姑息デアルト云フ感ジラ致スデアリマス、其最も私ノ遺憾ニ存ジマス點ハ、此助成金ノ交付ニ就テ、百分ノ六以内ニ限ラレタコトデアリマス、此百分ノ六ハ、一町歩ニ致シマシテ僅カ九圓ノ助成金ニシカナラナイ、而モ之ガ五十町以上ノ土地ニ限ラレテ居ル、此御方針ハ甚ダ私等ハ了解ニ苦シムノデアリマス、今日日本ノ農業ヲ見マスルノニ、小農殊ニ此自作農ノ獎勵ヲ圖ラレルト云フコトハ、最も的確ニ産米ノ多量ヲ期セラル、最良ノ方法デアルト私ハ確信シテ居リマス、然ルニ僅ニ一町歩ニ對シテ九圓ノ助成金ヲ與ヘテ、五十町歩以上ヲ開墾スルニ非ズンバ此本案ノ恩典ニ浴スルコトガ出來ナイト限ラレテ居ルノハ、如何デアラウカト思フデアリマス、私カラ見マスレバ、百分ノ十、百分ノ十五、是位デモ尙ホ少ナシト思フデアリマス、此點ニ付テ明瞭ニ御答ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレト從來スル法案ニ類似ノモノニハ、地方費ヨリ保護サレルコトニナッテ居リマスガ、此案ハ地方費ヨリ更ニ保護サセルコトニ爲サルノデアリマスカ、如何デアリマスカ、此點ニ付テ御答ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラモウ一ツハ此勞力ノ關係デアリマス、今日工業ガ非常ニ發達致シマシテ、國家ノ爲メニハ誠ニ喜ブベキ現象デアリマスケレドモ、農村ニ居住シテ居リマスル者ヨリ見タナラバ、此工業ノ振興ノ爲メニ、農村ニ於テ勞力ニ非常ニ拂底ヲ致シテ居リマス、自作農デアルトカ、小作農トカ云フモノハ、滔々トシテ此工業方面ニ走ッテ、農村ニ於キマシテハ、勞力ガ非常ニ拂底ヲ致シテ居ル、ソレガ爲メニ從來一段歩ヨリ一石若クハ二石位ノ收穫ノアッタ所ハ、三割四割ノ減少ヲ見ルト云フヤウナコトデ、産米ノ高ガ是等ノ關係ヨリ非常ニ減ジテ居リマスノミナラズ、或地方ニ於キマシテハ、小作農者ノ如キハ、一日二

圓ノ勞銀ヲ工業ニ依ッテ得ラレルケレドモ、農作ヲ致シタナラバ、僅カ四五十錢ニシカナラナイ、ソレガ故ニ相率キテ工業方面ニ走ッテ、耕耘栽培ノ事ハ閑却シテ居ル、サウシテ收穫米ノ少ナカッタ曉ニハ、地主ニ迫ッテ——カヲ以テ地主ニ追ッテ之ヲ免除シ、若クハ輕減サセレバ宜シイト云フヤウナ惡傾向ガアリマシテ、ソレガ爲メニ延テ産米ガ非常ニ減少ヲ致シテ居ルト本員ハ見テ居ルノデアリマス、強チ耕地ノ増加ヲセラレルト云フコトガ、今日ノ状態ヨリ見テ、産米ヲ増加スルト云フ適切ナ方法デアルトハ、存ジ得ラレナイノデアリマス、此耕地ノ増加ト共ニ勞力ヲ按排シテ、而シテ小作農ト地主トノ間ノ圓滑ヲ圖ルトカ、自作農ノ獎勵ヲスルト云フコトニ付キマシテモ、何カノ考慮ヲセラレテ宜カラウト存ズルノデアリマスガ、此點ニ付キマシテ明瞭ニ御答ヲ願フノデアリマス

山本國務大臣ノ應答

此案ノ中ニ六朱ノ補助ヲスルト云フコトニ付キマシテ餘リ補給ガ少クッテ、之ヲ一割若クハ一割五分ト云フ如キモノニ、何故シナイカト云フコトデアリマス、先ヅ開墾ニ付キマシテ常ニ苦シミマスルコトハ、御承知ノ如ク開墾ナルモノハ、直チニ收益ガ收ラヌノデアリマス、之ニ就テ自ラ開墾ヲ致シマスレバ、或年限ノ間ハ資本ヲ下シテ、而シテソレニ付テハ利子ガ生ジナイト云フコトガ生レルノデゴザイマス、故ニ此開墾ハ非常ナル苦痛ヲ感ズルノデゴザイマス、併シ此法ニ依リマスルト、先ヅ開墾ヲシテ後四箇年ノ間ハ、六朱ノ補助ヲ與ヘルト云フコトニナッテ居リマス、故ニ其開墾ノ間——四年五年ト云フ開墾ノ間、其上ニ尙ホ四箇年間六朱ノ補助ヲスルト云ヘバ、丁度七八年ノ間ハ何等ノ利子ヲ入レズ、無利子ノ資本ヲ以テ開墾ヲスルコトニ相成リマス、故ニ此位ノモノナラバ適當デアラウト云フコトデ、六朱トシタノデゴザイマス、此六朱ナルモノハ、御承知ノ通りニ、普通ノ公債ガ五朱デゴザイマス、又ハ確實ナル債券ノ如キモノモ、六朱前後ノモノガ多イノデゴザイマス、故ニ先ヅ此所等アタリガ適當デアラウカト云フ考、ソレカラ小農ニ行カズシテ、先ヅ五十町歩ノ如キモノヲヤルト云フ考デアリマスコトハ、小サナ開墾デアリマスル

ト、小農ガ自然ニヤルノデゴザイマスルガ、ドウモ大開墾ニナリマスルト、兎角資本ガ餘計要リマシテ、是マデ未開墾ノアル場所ハ、多ク坪數ノ多イ所ガアリマス、故ニドウカサウ云フ所ノ官有地、或ハ公有地ナドニテ、約十五箇年ノ間ニ二十五萬町歩ヲ當テニシマシテ、ヤリタイト云フ考デゴザイマス、故ニ斯ク決メテ次第デゴザイマス、ソレカラ此補助ナルモノハ地方費デヤルカ或ハ中央費カト云フ御質問デアリマスガ、是ハ地方費ニハ依ラズシテ、中央政府ヨリ補助ヲ爲スト云フ考デゴザイマス、第三ニハ兎角地方ニハ勞力缺乏デアッテ、甚ダ産米ノ如キ物ガ少クナル傾ガアルト云フ御質問デゴザイマスガ、成程地方ニ於テ、勞力ガ次第ニ減少ノ傾ヲ持ツト云フコトハ、是ハ工業製造ノ如キ、或ハ鑛山ノ如キ自然ニ進歩發達ヲ來タスト云フ上ニ付テハ、已ム得ナイ傾向デアアルノデゴザイマス、已ム得ナイ傾向デアリマスガ斯ノ如キ事ハ防ギ得ルナラバ、成タケ防ギタイト云フ考ヲ持タナケレバナリマセヌ、乃チ此開墾助成法ノ如キモノヲシテ、サウシテ開墾ヲ政府ヨリ獎勵スルト云フコトハ、地方ニ於テ成タケ此農民ガ都會ニ出デ、色々變化スルヤウナルコトヲ成タケ防イデ、サウシテ御質問ノ産米ヲ成タケ餘計ニシ、サウシテ勞働者ガ地方デ斯ノ如キ開墾ヲシテ、成タケ地方ニ足ガ留マルヤウニト云フ方ノ途ヲ執ル次第デゴザイマス、而シテ此勞力ニ付テ之ヲ地方ニ留メルト云フ方ニ付テハ、外ニ何カ考モ無イカト云フ事デゴザイマスガ、此所ニ於キマシテハ、此開墾助成法ダケノ如キ説明ヲ申上ゲテ置キマス

藤井善助君ノ質疑

唯今政府ノ御説明ニ依リマシテ、目下ノ急務タル食糧問題ヲ解決スベキ恆久的ノ施設トシテハ、本案ノ如キモノハ頗ル必要ヲ認メルノデアリマス、斯ノ如キ必要ナル目的ヲ遂行スル上ニ於キマシテハ、其方法ノ設定ニ付テ、萬遺憾ナキ考慮ヲ拂ハナケレバナラヌト思フノデアリマスガ、今此法案ヲ一讀致シマスルト、第一條ノ目的、即チ開墾湖海ノ埋立、若クハ干拓又ハ開田、是等ノ事業ヲ爲ス者ニ對シテ補助金ヲ與ヘル——助成金ヲ交付スル、是ガ本案ノ趣意ニナッテ居ルノデアリマスガ、過去及現在ノ是等事業ノ狀況ノ上カラ見マスルト、開墾事業ニ付テハ、此事業ヲ施

行シマスル隣接地主ノ同意、又ハ湖海ノ埋立、若クハ干拓事業ノ如キハ、或ハ治水ノ關係、若クハ水産業者ノ現在得テ居ル利益ヲ喪失スル報償、或ハ漁業權者、殊ニ定置漁業ナドヲヤル所ノ定置漁業權者ナドノ、是等ニ對スル支障ノ案件等ガ、自然ニ斯ノ如キ事業遂行ノ上ニ付キマシテハ、故障トナツテ、是等ノ事業ノ目的ガ達セラレヌ事實ガ、往々ニシテ過去及現在ニ於テアルノデアリマス、本案ニ於テハ、唯、僅カノ助成金ヲ交付スルト云フコトニ依ツテ、開墾ヲ助成シヤウト云フコトニ、本案ノ趣意ガナツテ居ルノデアリマスガ、唯今申述ベルガ如ク、水産業者ノ故障ヲ排除スル、若クハ隣接地主ノ同意ヲ要スルガ如キ、或ハ土地收用令ニ準據シタルモノヲ適用スルガ如キ、若クハ水産漁業者ノ如キ者ニ對スル報償金ヲ、政府ハ是等ノ事業施行者等ノ間ニ介在シテ報償金ヲ査定スルガ如キ、斯様ナ事業施行ノ上ニ對スル支障ヲ排除スルト云フ點ニハ、政府ハ考慮ヲ拂ハナカッタノデアリマセウカ、此點ニ對シテ御答ヲ——序ナガラモウ一ツ、此「又ハ開田」開田ト云フ文字ガアリマスガ、耕地整理ナドノ過去ノ事業ノ上ニ於テ、見馴レヌ開田レヌ文字デアリマスガ、此開田ノ意味ヲ伺ヒタイ

山本國務大臣ノ應答

唯今ノ第一ノ御質問ハ御尤デアリマシテ、政府ニ於キマシテモ、此邊ノ妨ニナルコトハ、是マデ屢、ソレニ關係シマシテ、ドウカシタイト云フコトデゴイマス、此度耕地整理ノ法律ノ改正案ヲ出シマスガ、此耕地整理ノ改正案ニ付キマシテハ、其事ハ總テ取除ケル意味ヲ以テ改正案ヲ出スコトニナツテ居リマス、ソレデ御承知ヲ願ヒマス、ソレカラ第二ノ開田、是ハ畑ヲ水田ニ直スト云フ意味デアリマス

秋田寅之介君ノ質疑

唯今議題トナツテ居リマス議案ハ、國民必需ノ食糧問題デアリマシテ、至極同感スル次第デアリマス、之ニ付キマシテ、少シ政府ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、兎ニ角勞働者ノ都市集中ハ、人

口ノ増加ニ付テ、家屋ノ増設ト相反シテ、年々田畑ヲ減ズルコトハ全國ヲ通ジテ僅少デナイト思ッテ居ルノデアリマス、然ルニ政府ノ發表ノ米產額豫想表ハ、毎年五千四百五十萬石内外デアアル、固ヨリ農業ノ研究改良等ニ依ツテ、多少ノ增收等ハアルトシテモ、一面ニハ農ヲ捨テ、工商ニ走り、今ヤ山間僻地マデモ、將ニ愈、荒レントスル折柄デアリマス、尙ホ此際ニ當ツテ、政府ハ矢張同様ノ結果ノ報告ヲシテアルヤウデスガ、政府ハ田畑ノ漸減ノ事實ノ調査セラレテ居ルカ、ドウデアアルカト云フコトヲ第一ニ聽キタイ、……萬一周到ナル調査ガ無クシテ、單ニ收穫ノ豫想ヲ以テ食糧問題ノ計畫ヲ立テラレルト云フコトナラバ、之ニ依ツテ生ズル國民ノ食糧問題ハ、大ナル齟齬ヲ來タスモノデハナイカト思フノデアリマス、第二ハ開墾ノ助成金デアリマスガ、曩ニ田中君モ述ベラレマシタガ、百分ノ六ト云フコトデアリマスルガ、是ハ無イヨリハ、無論優ツテ居ルト云フコトハ論ヲ俟タヌ話デアリマシテ、又實ニ好案デモアリマス、併ナガラ此僅少ナ額ノ助成案ガ、果シテ效果ガアルデアリマセウカ、否ナ本員ハ頗ル此ノ效果ノ有ルカ無イカト云フコトヲ疑フノデアリマス、(中略)仍テ政府ハ今日社會重大問題ヲ決スルニ當ツテ將來ヲ慮リ、此際一大英斷ヲ以テ、唯今提案サレテ居ルヨリ以上ノ補助金ヲヤル、其上ニ助成ヲ爲シテ、目的ヲ貫徹セシムルト云フ御考ガ無イカト云フコトヲ承リタイ、而シテ此助成法ノ理由書ニ「北海道ニ施行セス」トアマスガ、固ヨリ北海道ニ施行セヌトアリマスカラ、朝鮮臺灣ニハ、當然此令ハ施行セザルモノト考ヘテ居リマスガ、是ハ左様心得テ間違ガアリマセウカ、又同様ノ必要ガアルト政府ハ御考ニナツテ居ルカドウカ、ソレカラ是ハ一寸之ニ關聯スル事デアリマスガ、此開墾ヲヤルト云フコトニ付キマシテ、資金ノ固定スルト云フコトハ、是亦何人モ承知シテ居ル所デアリマスガ、是等ハ特殊銀行即チ農工銀行トカ、勸業銀行等ガ相當ノ便宜ヲ與ヘルコトデナケレバ、逆モ民間ニ於テ、嚮ニ農相カラ御答ニナリマシタ御話中ニ、十五箇年ニ二十五萬町歩ヲ開拓スルト云フ、斯ル大町歩ノモノヲ作リマスノニ、逆モ個人ノ手デ容易ニ是等ガ行ハレルト云フコトハ、政府ニ於テハ御考ガアリマスカ知レマセヌガ、吾々ノ考ヘル所デハ、是亦甚ダ疑フ所デアリマス、ソレデ是等ニ付テハ、政府ハ其特殊銀行ニ向ツテ相當ノ便宜ヲ與ヘルヤウニ、御命令デモ爲サル御考ガアルカト云フコト

ヲ承リタイノデアリマス、ソレカラ次ニ此段別ガ此法案ニハ書イテアリマセヌガ、段別ノ大小ヲ問ハズ助成ニナルト云フ御考デアルカ、併セテ承リタイノデアリマス

山本國務大臣ノ應答

御答致シマスガ、政府ニ於キマシテハ、大正五年ニ於テ一通リ調査ヲ致シマシタ、其當時ニ於キマシテ、大正五年ニ於テ約七千町歩程減ズルコトニナッテ居ル、併シ又其減ズルト同時ニ、一方デハ開墾ガ殖エツ、アリマス、故ニ此減ズルモノト殖エルモノトヲ差引キマシテ、約三萬町歩餘ハ、矢張開墾ガ殖エテ行クト云フコトニナッテ居ルノデゴザイマス、先ツ差引キマスレバ、約コナモノデアラウト云フコトデゴザイマシテ、尤モ是ハ大正五年ニ於テ調べマシタノデゴザイマシテ、其後年々増加セラレテ居ルト云フコトニ相成ッテ居リマス、ソレカラ開墾ニ付テノ六分ト云フコトニ付テハ、甚ダ薄イモノデアル、故ニ此外ニ補助ヲ與フルコトハドウカト云フ御質問デゴザイマスガ、此補助ヲ與ヘテ如何ニスルカト云フ事ハ、實ハ案ガ出テ居リマセヌガ、他ニ考ヘル事モアッテ今丁度調査中デゴザイマスガ、之ニ付テハ唯、開墾ノ助成法ニ於テ、六朱ヲ與ヘルト云フコトニナッテ居リマス、ソレニ付キマシテ、銀行ナドニ付テ融通ヲ命ズル如キ事ハアルカドウカト云フコトデアリマスガ、是ハ政府ヨリ別ニ之ニ貸セト命ズル譯ニ參リマセヌガ、併シ開墾ヲスル地方トシテハ、既ニ六朱ハ得ラレルコトデアリマスガ故ニ、銀行ナルモノハ、此資本金ヲ貸セバ、假令其田地ガ、又耕地ガ耕サレナクテモ、是ハ六朱ハ拂ヒ得ルト云フ見込ガ付キマス、故ニ銀行ニ於テモ此開墾業者ニ融通スルト云フコトハ、餘程便利ニシテ、サウシテ安心シテ斯ル途ヲ以テソレノ起ルコトデアラウト思ヒマス、又政府ニ於テハ、出來得ルダケ其方ノ途ヲ以テ勸ムル精神デアリマス、ソレカラ段別ノ事デアリマスガ、是ハ先刻御質問デ、約五十町歩位ノ所ヲ先ツ程度トシテヤッタナラバ宜カラウト考ヘテ居リマス、北海道ノ方ニ於テハ、十七年計畫デ開墾ノ方ガ出來テ居リマス故ニ施行致シマセヌガ、矢張臺灣朝鮮ニ於キマシテハ、是ハ施行スル考ガアリマセヌノデシテ、本土ニ於テヤリタイト云フ考デス

秋田寅之介君ハ更ニ左ノ質疑ヲ爲シ山本國務大臣之ニ應答ス

秋田寅之介君ノ質疑

サウスレバ私ハ茲ニ質問ガ一ツゴザイマス、十五年間ニ二十五萬町歩御拵ニナッテ百分ノ六出サレル、今大正五年度ニ於ケル三萬町歩ト申シマス、僅カノ間ニ三萬町歩増加シテ居ルト云フコトデアリマスカラ、十五箇年スレバ、四十五萬町歩ノモノガ殖エルト云フ意味ニ考ヘマスガ、左スレバ此助成法案ナルモノハ、先ヅ前ニ申シマシタ如ク、無イニ優ル、無イヨリハ無論宜シイノデアリマスガ、此三萬町歩ト云フモノハ、三千町歩ノ御間違デハアリマセヌカ、又一箇年間ニ増加シテ居ルノデスカ、ソレヲ聽キタイ

山本國務大臣ノ應答

今御質問ノ二十五萬町歩ト云フモノハ、其殖エルト云フ三萬町歩ガ此中ニ入ッテ居ルノデナイノデ、ソレハ是マデノ自然ニ委シテ置イテ、今申ス如キ結果ヲ生ジテ居ルノデゴザイマス、尙ホ其上ニ之ニ依ッテ進メタイト云フ考デヤッテ居ルノデス、而シテ如何ニモ小サイヤウデアリマスガ、是ハ十五箇年ニナリマス、ト云フト、政府ノ補助トシテ出シマス金ニ於テ、丁度補給致シマスル其金ノ高ガ四千五百萬圓ニナル、初メハ洵ニ小サイヤウニ思ヒマスガ、段々大キクナッテ行キマスカラシテ、是ガ若シ實行サレマシタナラバ、相當ナル效果ヲ得ルコト、信ジテ居リマス

此ノ時岩崎勳君ハ質疑終結ノ動議ヲ提出シ院議異議ナク之ヲ採用シ質疑ハ茲ニ終結ス次テ委員ノ選舉ハ議長指名(二十七名)ト決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ同日三日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ着手シ更ニ二月十二日修正案ニ付協議ノ爲特別委員ヲ選定シ審査ノ末原案ニ修正ヲ加フヘキモノト決シ同月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

開墾助成法

第一條 土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ左ニ掲クル事業ヲ行フ者ニ對シ主務大臣ハ豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付スルコトヲ得

一 開墾、湖海ノ埋立若ハ干拓又ハ開田

二 前號ニ掲クル事業ニ伴フ灌溉排水ニ關スル施設又ハ道路堤塘ノ新設若ハ變更

第二條 助成金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工事開始ノ年ヨリ工事終了後四年ニ至ル期間内ニ於テ之ヲ交付ス

前項助成金ノ年額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ爲其ノ交付ノ日迄ニ支出シタル總金額ノ百分ノ六以内トス

第三條 助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ最後ノ交付ノ年ノ翌年ヨリ起算シ二十年内ニ於テ其ノ受ケタル助成金ヲ返還スヘシ

第四條 助成金返還ノ義務アル者助成金交付ノ土地、事業又ハ事業ニ依リテ生シタル設備ヲ讓渡セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ國ニ讓渡スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 助成金交付ノ土地、事業又ハ事業ニ依リテ生シタル設備ノ移轉アリタルトキハ移轉前ニ交付アリタル助成金ノ返還ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ承繼人前者ト連帶シテ其ノ返還ノ義務ヲ負フ但シ國カ承繼人タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 主務大臣ハ助成金ノ交付ヲ受クル者又ハ助成金返還ノ義務アル者ニ對シ助成金交付ノ土地、事業又ハ事業ニ依リテ生シタル設備ニ關シ報告ヲ命シ、當該官吏若ハ吏員ヲシテ書類會計物件若ハ工事ヲ検査セシメ又ハ監督上必要ナル命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ主務大臣ハ助成金ノ交付ヲ受クル者又ハ助成金返還ノ義務アル者ニ對シ助成金ノ交付ヲ停止シ若ハ廢止シ又ハ助成金ノ全部若ハ一部ノ即時返還ヲ命スルコトヲ得

一 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

二 事業ノ全部又ハ一部ノ停止又ハ廢止アリタルトキ

三 助成金交付ノ土地又ハ事業ニ依リテ生シタル設備ヲ農業上ニ利用セサルニ至リタルトキ

四 助成金交付ノ條件違反シタルトキ

五 詐欺ノ手段ヲ以テ助成金ノ交付ヲ受ケタルトキ

第八條 私人ノ助成金返還ニ付テハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特

權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス
第九條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ北海道ニ之ヲ施行セス

同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長田中隆三君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

開墾助成法案ノ委員會ニ於ケル經過並ニ結果ヲ申上ゲマス、御承知ノ通り我國民生活ノ必需品タル米及麥ハ、國內ノ生産ヲ以テ國民ノ需要ニ供給スルニ足リナイト云フコトハ、最も顯著ナル事實デアリマス、又他ノ一面ニ於テハ、我が國民ノ増加ガ誠ニ顯著デアリマスルガ故ニ、是等人口ノ増加ト云フコトヲ勘定ニ入レテ、將來我國ニ於ケル米麥等ノ不足ヲ計算シテ見マスト、中々莫大ナル數字ニ上リマス、將來十年後ニ於テハ、米ニ於テ約九百萬石、二十年後ニ於テ千九百萬石、三十年後ニ於テハ三千萬石以上、麥モ之ニ準ジマシテ、十年後ニ於テハ三百八十萬石、二十年後ニ於テハ八百二十萬石、三十年後ニ於テハ千三百萬石ト云フヤウナ廣大ナル不足ヲ見ルト云フコトハ、統計上顯著デアリマス、唯今申上ゲマシタ數字ハ、人口ノ増加ニ因ルダケノ不足額デゴザイマシテ、其人口ノ増加ニ因リマスル不足額ニ、最初申上ゲマシタ年々ノ不足額ヲ合算スルノガ全體ニ於ケル不足ノ數字ニナリマスカラ、更ニ其數額ガ殖エル譯ニナリマス、其補充策ノ一トシテ、此開墾助成法ト云フモノガ出テ參リマシタノデアリマス、固ヨリ此現在耕地整理等ニ依ッテ、此產額ヲ増進スルト云フコトニ付テ、官民共ニ力ヲ戮セテ其改良ヲ圖ッテ居ルコトモゴザイマス。

又他ノ一面ニ於テハ、肥料、或ハ種子、或ハ耕耘ノ方法ニ改良ヲ施シテ、自然ニ其增收額ヲ進メルト云フヤウナコトモ、怠ラズ力メテ居ルヤウナコトモゴザイマス、又他ノ一面ニ於テハ、朝鮮其他カラシテ、當然剩餘米ガ移入スルヤウナコトモゴザイマス、ケレドモ到底ソレデハ足リマセヌ、ソレ故ニ差當ッテ最モ適切ナル緊急ノ方法トシテ、開墾助成法ト云フモノガ出マシテ、將來此十五年ニ互ッテ、約二十五萬町歩ト云フモノヲ新タニ開墾セントスルノガ、即チ此法案ノ骨子ニナッテ居ル譯デアリマス、而シテ此二十五萬町歩ヲ年々開墾シテ、其開墾スル費用ノ年六分ニ當ルダケノ利息金ヲ開墾者ニ貸渡ス、無論國民生活ノ安定ヲ期スル上ニ於テ、又國家自營ノ根柢ヲ固ウスル上ニ於テ、固ヨリ緊急必要ノ事デゴザイマスカラ、何人ニモ異議ノアル譯デハゴザイマセヌ、其法案ノ重大ナルガ故ニ、委員會ニ於キマシテハ、政府當局トノ間ニ質問應答ヲ十分ニ重ネマシテ、慎重ナル審議ヲ盡シマシタ末ニ、各派ヲ代表スル所ノ修正案等ノ御提出モアリマシタガ、其各修正案ハ、目的一致シテ居リマス、又各細目ニ於テモ、格別ノ距離ガアル譯デハアリマセヌ、ソレ故ニ更ニ各派ヨリ委員ヲ選ミマシテ、小委員會ヲ開キマシテ、サウシテ熟議ヲ遂ゲマシタ結果、一ノ成案ヲ得タノデゴザイマス、其修正ノ主タルモノハ、此助成金ヲ一時交付シテ、後トデ租稅徵收ノ手續ニ依ッテ返還セシムルト云フノガ原案デアリマスケレドモ、是ハ總テ交付シ切リニスル、詰マリ之ヲ補助金トシテ開墾者ニ交付シテ、後トデ返サウト云フコトハ止メルト云フノガ、一番主タル改正デアリマス、(中略)此第一條ノ「豫算ノ範圍内」ト云フ文字ヲ削ルコトハ、法律トシテ別ニ深い意味ハ無イノデアリマス、無論政府ノ仕事ハ、總テ豫算ノ範圍内ニ於テ動カナケレバナラヌノデゴザイマスカラ、此一句ガ有ルト無イトニ依ッテ差異ノアル譯デハナイ、此政府ノ最初ノ提案ノ趣旨ハ、此開墾ト云フモノヲ、五十町歩以上ノ集團地ニ限ルト云フヤウナ政府ノ御心持デアッタ、法律ニハアリマセヌガ、施行細則ニ於テサウ云フ風ニ御取決メニナルト云フ御考ガアッタノデアリマス、併ナガラ委員會ニ於テ段々審議討論致シマシタ結果、是ハ五町歩以上五十町歩ト云フ腹案ガ五町歩ト云フ、モット小サイ區域ニ改メルコトニナリマシテ、政府モ其點ニ就テ御同意ニナッテ居リマス、而モ其五町歩ト云フモノモ、必シモ一ツデ五町歩ト云フ譯デハ

ナイ、所謂集團地——開墾スベキ集團地、或ハ互ニ密接シテ居ルコトモゴザイマセウシ、又或ル程度マデ離レテ居ルヤウナコトモゴザイマセウ、併ナガラ密接スルト離レタルトヲ問ハズ、兎モ角モ一企業地トシテ、一區畫地トシテ、此開墾ノ目的ヲ達スルコトノ出來ルヤウナ場所ハ、皆ナ此法律ノ範圍内トシテ、政府ガ相當ノ補助ヲスルト云フ意味ニナルノデアリマス、其結果トシテ段々政府ノ手數ガ殖エルコトハ無論デアリマス、豫定ヨリハ願書ノ數モ殖エマセウ、監督者モ固ヨリ殖サナケレバナラナイ、諸般ノ費用モ殖エテ來ルニ相違アリマセウ、又政府ノ豫想ニ依レバ、開墾ノ出願ガ今年カラ段々殖エテ來ルヤウニナツテ居リマスケレドモ、委員各自ノ見ル所ニ依ッテハ、此最初ノ内ニハ、寧ロ餘計ノ出願ガアルダロウト云フ考デゴザイマス、今御承知ノ通り米價モ非常ニ高クナツテ居リマス、其場合ニ於テ政府ガ又斯ウ云フ補助案ヲ提出セラレテ、此開墾ヲ獎勵セラレルト云フコトニナレバ、國民ガ此政府ノ施設ト相俟ッテ、サウシテ此開墾ノ目的ヲ達シヤウト云フコトニ、勃然トシテ其氣風ガ起ッテ來ルニ相違ナイ、サウ云フコトニナリマスルト云フト、ドウシテモ豫算ト云フモノハ、政府ノ最初御目論見ニナツテ居ルノトハ違ッテ、寧ロ初メノ方ノ年度ニ於テ、餘計ナモノヲ支出セラレルヤウナ必要ガ起ッテ來ルニ相違ナイ、又サウ云フ事ノ起ルコトハ吾々ノ最モ希望スル所デアアル、即チ此法案ノ目的ガ速成セラレル譯ニナリマスルカラ、是ハ何人モ欣ンデ之ニ應ジテ宜イ事ト思フ、サウ云フ場合ニ於テハ、僅カノ金デアリマスレバ、或ハ豫備金ヲ以テ是ノ不足分ニ充テルト云フコトモアルカモ知レナイ、又今年末ニ於テ、追加豫算ヲ出シテ戴クト云フヤウナコトガアルカモ知レナイ、又固ヨリ大正九年度ノ豫算ニ於テハ、政府ノ見込ノ如ク十九萬圓位デハ連モ駄目ダ、モット餘計ノモノガ要ルニ相違ナイト思フノデアリマス、無論餘計要ルモノニシテモ、豫算ガ無ケレバ實行ノ出來ナイ譯デアリマスケレドモ、併ナガラサウ云フ場合ニハ是非トモ政府ニ於テモ、欣ンデ是等ノ豫算ノ不足ヲ補充スル途ヲ講ジテ戴キタイ、其意味ヲ間接的ニ——極メテ間接デアリマセウケレドモ——間接的ニ現ス意味ニ於テ、此第一條ノ「豫算ノ範圍内ニ於テ」ト云フ一句ハ如何ニモ目障リデアアル、ソレ故ニ之ヲ削ラウト云フノデアリマス、別ニ法案ノ實體ニ、法律上何等ノ關係アル譯デナイト思ヒマスケレドモ、

其趣意ニ於テハサウ云フ次第デ、此一句ヲ削除スルト云フコトニナツタノデアリマス、ソレカラモウ一ツノ今申上ゲマシタ此「貸渡金」ヲ「交付金」ニスルト云フコトハ、別ニ特ニ説明ヲ申上ゲル程ノ必要ナイ程顯著ナ事デゴザイマセウ、是ハ詰マリ政府ノ豫定案ニ致シマシテモ、最モ多ク助成金ヲ交付スル年デ、二百五十六萬四千圓ト云フコトニナツテ居リマス、併シ是ハ三百五十六萬圓ヲ唯、貸シテ、後トデ租税ト同様ニ取立テルト云ツタノデハ、其補助ト云フモノハ甚ダ輕イコトニナル、御承知ノ通り政府ノ金ニハ、先ヅ大體ニ於テ利息ハ附カナイ、之ヲ借入金トシテモ、公債ニ依ッテ總テノ利息ノ附ク金デ假リニ御保護ニナルモノト見マシテモ、僅カ十七萬圓カ十八萬圓、サウシテ其開墾ノ爲メニ人民ガ費スル所ノ資本ハ幾ラデアアルカト申シマス、五千九百四十萬圓、殆ド六千萬圓ニナル、六千萬圓ノ資本ヲ投ズル開墾事業ニ對シテ、僅カ十萬トカ十七萬圓ヲ補助シタ——十七萬圓モ今申上ゲタ通り實際ニ於テ要ラナイ、利息ガ掛ルト見テモソレダケノ補助ト云フノデ、如何ニモ補助ノ程度ガ輕イノデアリマス、又他ノ事業ニ對スル補助ノ割合カラ考ヘマシテモ、權衡ヲ得テ居リマセウ、ソレ故ニ是ハドウシテモ全部補助金トシテ下渡スト云ツタ方ガ誠ニ他ノ法律トノ權衡モ取レテ居リマスルシ、又固ヨリ此開墾ノ目的ヲ達スル上ニ於テ非常ニ效力ガアラウト、斯ウ云フ意味デ出來タノデアリマス、ソレカラ是ハ法文ノ中ニハゴザイマセウケレドモ、先程モ一寸申上ゲマシタヤウナ五十町歩以上ニスルトカ、何町歩以上ニスルカト云フヤウナコトニ付テハ、中々各派ヨリシテ熱心ナル御希望モアツテ、出來ルダケ之ヲ區域ヲ狹メタイト云フコトハ、固ヨリ皆ナノ希望スル所デアリマシタケレドモ、餘リ之ヲ小サク致シマスルト、徒ラニ手數バカリ殖エマシテ、却テソレガ爲メニ仕事ノ遲延ヲ來スヤウナ虞モアリ、又實際問題トシテ考ヘテ見マシテモ、假リニ之ヲ一町歩トカ何トカ云フ數字ニシテ、其補助ガ幾ラカト云フト、一町歩ニ對シテ僅カ年額三十圓ノ補助ニシカナラナイ、サウ云フ小サイ事ハ、何レ各府縣ナリ或ハ町村ナリニ於テ、又之ヲ別ニ獎勵保護スル途モアラウシ、兎モ角モ先ヅ法律案ノ施行ノ上ニ於テハ、前申上ゲマシタ通り、五町歩位デ宜カラウト云フコトデソレニ納マリマシテ結局總テノ法案ニ就テ、委員ハ滿場一致デ之ヲ可決致シマシタノデアリマス、此修正案ニ付テハ、

農商務當局ニ於テハ、進ンデ御賛成ノ意ヲ表セラレマシタ……

院議異議ナク第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ修正議決ヲ爲シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月十八日之ヲ可決奏上シ四月四日法律第四十二號ヲ以テ公布セラル

一四 裁判所ノ設立ニ關スル法律案

- 埼玉縣南埼玉郡越ヶ谷町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ越ヶ谷區裁判所ト稱ス
- 千葉縣印旛郡佐倉町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ佐倉區裁判所ト稱ス
- 千葉縣長生郡一宮町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ一宮本郷區裁判所ト稱ス
- 茨城縣稻敷郡龍ヶ崎町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ龍ヶ崎區裁判所ト稱ス
- 栃木縣足利郡足利町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ足利區裁判所ト稱ス
- 群馬縣吾妻郡中之條町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ中之條區裁判所ト稱ス
- 静岡縣富士郡傳法村ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ吉原區裁判所ト稱ス
- 山梨縣南巨摩郡鵜澤町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ鵜澤區裁判所ト稱ス
- 新潟縣西頸城郡糸魚川町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ糸魚川區裁判所ト稱ス
- 大阪府泉南郡岸和田町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ岸和田區裁判所ト稱ス

- 兵庫縣水上郡柏原町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ柏原區裁判所ト稱ス
- 奈良縣北葛城郡高田町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ葛城區裁判所ト稱ス
- 滋賀縣甲賀郡水口町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ水口區裁判所ト稱ス
- 愛知縣中島郡一宮町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ一宮區裁判所ト稱ス
- 愛知縣知多郡半田町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ半田區裁判所ト稱ス
- 愛知縣南設樂郡新城町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ新城區裁判所ト稱ス
- 三重縣飯南郡松阪町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ松阪區裁判所ト稱ス
- 岐阜縣郡上郡八幡町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ八幡區裁判所ト稱ス
- 福井縣南條郡武生町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ武生區裁判所ト稱ス
- 富山縣東礪波郡出町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ出町區裁判所ト稱ス
- 廣島縣賀茂郡竹原町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ竹原區裁判所ト稱ス
- 廣島縣比婆郡庄原町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ庄原區裁判所ト稱ス
- 山口縣厚狹郡船木町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ船木區裁判所ト稱ス
- 愛媛縣西宇和郡八幡濱町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ八幡濱區裁判所ト稱ス
- 佐賀縣西松浦郡大坪村ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ伊萬里區裁判所ト稱ス

福岡縣朝倉郡甘木町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ甘木區裁判所ト稱ス
 福岡縣浮羽郡吉井町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ吉井區裁判所ト稱ス
 熊本縣宇土郡三角町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ三角區裁判所ト稱ス
 鹿兒島縣始良郡加治木町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ加治木區裁判所ト稱ス
 北海道空知郡岩見澤町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ岩見澤區裁判所ト稱ス
 北海道上川郡名寄町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ名寄區裁判所ト稱ス
 附 則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

一五 大正二年法律第九號中改正法律案

大正二年法律第九號中左ノ通改正ス
 別表裁判所管轄區域表中浦和區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

埼玉縣ノ内
 北足立郡ノ内
 浦和町 蕨 町 川口町 鳩ヶ谷町 與野町 大宮町

浦和	上尾町	桶川町	鴻巣町	原市町	志木町	大和田町
	六辻村	土合村	美谷本村	笹目村	戸田村	芝 村
	青木村	横曾根村	南平柳村	神根村	野田村	尾間木村
	谷田村	三室村	片柳村	木崎村	大久保村	馬宮村
	植水村	三橋村	大砂土村	宮原村	日進村	指扇村
	平方村	大谷村	大石村	上平村	小室村	小針村
	加納村	川田谷村	石戸村	馬室村	中丸村	常光村
	田間宮村	箕田村	小谷村	吹上村	七里村	膝折村
	片山村	内間木村	新倉村	白子村		
入間郡ノ内	鶴瀨村	南畑村	宗岡村	水谷村	三芳村	
北埼玉郡ノ内	加須町	騎西町	志多見村	鴻莖村	三田ヶ谷村	高柳村
	大越村	禮羽村	原道村	種足村	元和村	村君村
	田ヶ谷村	東 村	不動岡村	利島村	水深村	三俣村
	川邊村	樋遣川村	大桑村	豊野村	笠原村	
南埼玉郡ノ内						

菅蒲町	久喜町	綾瀬村	須賀村	篠津村	平野村
大山村	江面村	三箇村	小林村	栢間村	清久村
太田村	鷺宮村				
北葛飾郡ノ内					
幸手町	杉戸町	栗橋町	静村	豊田村	櫻田村
行幸村	上高野村	高野村	權現堂川村	吉田村	八代村
田宮村	櫻井村	豊岡村			

埼玉縣ノ内

南埼玉郡ノ内

越ヶ谷町	岩槻町	粕壁町	大澤町	潮止村	八幡村
八條村	川柳村	大相模村	蒲生村	出羽村	増林村
新方村	櫻井村	大袋村	荻島村	新和村	和土村
柏崎村	川通村	武里村	豊春村	内牧村	慈恩寺村
黒濱村	河合村	百間村	日勝村		
北足立郡ノ内					
草加町	新郷村	谷塚村	新田村	安行村	戸塚村

大門村	春岡村				
北葛飾郡ノ内					
吉川町	幸松村	豊野村	堤郷村	松伏領村	旭村
三輪野江村	彦成村	早稻田村	戸ヶ崎村	八木郷村	寶珠花村
富多村	南櫻井村	川邊村	金杉村		

同表中川越區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

埼玉縣ノ内					
入間郡ノ内					
川越町	所澤町	豊岡町	入間川町	坂戸町	越生町
飯能町	芳野村	古谷村	南古谷村	仙波村	高階村
福岡村	大井村	柳瀬村	松井村	富岡村	小手指村
三ヶ島村	宮寺村	元狭山村	金子村	東金子村	藤澤村
入間村	堀兼村	福原村	奥富村	日東村	大田村
田面澤村	山田村	三芳野村	勝呂村	入西村	大家村
川角村	毛呂村	山根村	梅園村	山口村	吾妻村

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

名細村	鶴ヶ島村	高萩村	高麗川村	高麗村	東吾野村
霞ヶ關村	柏原村	水富村	元加治村	加治村	精明村
植木村	原市場村	南高麗村	中山村	伊草村	三保谷村
比企郡ノ内	今宿村	小見野村	八ッ保村	須加村	
出丸村					
秩父郡ノ内					
名栗村	吾野村				

同表中熊谷區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

埼玉縣ノ内	大里郡	兒玉郡			
北埼玉郡ノ内	忍川町	羽生町	井泉村	川俣村	廣田村
	埼玉村	新郷村	太井村	持田村	星宮村
	星河村	屈巢村	下忍村	北河原村	荒木村
					長野村

熊谷

須影村	成田村	岩瀬村	手子林村	南河原村	太田村
中條村	中島村				
比企郡ノ内	松山町	小川町	大岡村	福田村	宮前村
	菅谷村	七郷村	八和田村	大河村	竹澤村
	玉川村	明覺村	龜井村	高坂村	野本村
	南吉見村	西吉見村	北吉見村		東吉見村
秩父郡ノ内	大柵村	槻川村	大河原村		

同表中千葉區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

千葉縣ノ内	千葉郡	市原郡ノ内			
	姉崎町	五井町	八幡町	鶴舞町	千種村
	市原村	海上村	菊間村	市東村	市西村
					養老村
					東海村

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

同表中宇都宮區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

鹿島町	大同村	中野村	波野村	豐郷村	豐津村
高松村	中島村	輕野村	若松村	矢田部村	東下村

栃木縣ノ内

宇都宮市 河内郡

上都賀郡ノ内

宇都宮

鹿沼町

今市町

日光町

菊澤村

北犬飼村

北押原村

南押原村

南摩村

加蘇村

東大蘆村

西大蘆村

小來川村

板荷村

落合村

鹽谷郡ノ内

氏家町

栗山村

藤原村

三依村

船生村

大宮村

阿久津村

同表中栃木區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

栃木縣ノ内

栃木

下都賀郡

上都賀郡ノ内

栗野町

西方村

清洲村

永野村

粕尾村

眞名子村

栃木縣ノ内

足利郡

上都賀郡ノ内

足尾町

同表中高崎區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

群馬縣ノ内

高崎市

群馬郡ノ内

碓氷郡

倉賀野町

金古町

室田町

佐野村

岩鼻村

大類村

瀧川村

京ヶ島村

新高尾村

中川村

塚澤村

六郷村

長野村

久留馬村

倉田村

車郷村

箕輪村

相馬村

上郊村

堤ヶ岡村

國府村

清里村

桃井村

片岡村

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

四百四十一

中之條	多野郡ノ内 藤岡町 八幡村 入野村 日野村 美原村 吾妻郡 群馬縣ノ内	新町 美土里村 美土里村 美九里村 三波川村 多胡村 鬼石町 平井村 美原村 美九里村 三波川村 多胡村 吉井町 神流村 小野村
-----	----------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

同表中沼津區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

沼津	静岡縣ノ内 駿東郡 田方郡
吉原	静岡縣ノ内 富士郡

同表中甲府區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

甲府	山梨縣ノ内 甲府市 西山梨郡 東山梨郡 東八代郡 中巨摩郡 北巨摩郡
----	------------------------------------------------------

歙澤	山梨縣ノ内 南巨摩郡 西八代郡
----	-----------------------

同表中松本區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

松本	長野縣ノ内 松本市 東筑摩郡 南安曇郡
----	------------------------------

同表中木曾區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

木曾	長野縣ノ内 西筑摩郡
----	---------------

同表中高田區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

高田	新潟縣ノ内 高田市 中頸城郡 東頸城郡
----	------------------------------

糸魚川	新潟縣ノ内 西頸城郡
-----	---------------

同表中堺區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

大阪府ノ内	堺市	泉北郡ノ内	向井町	湊町	高石町	濱寺町	五箇莊村	舩松村
			三寶村	鳳村	神石村	踞尾村	取石村	鶴田村
			北上神村	東百舌鳥村	美木多村	上神谷村	西陶器村	久世村
			深井村	東陶器村	八田莊村	西百舌鳥村	中百舌鳥村	
		南河内郡ノ内	富田林町	長野町	古市町	新堂村	喜志村	大伴村
			石川村	磯長村	山田村	白木村	中村	河内村
			赤阪村	千早村	東條村	川西村	錦郡村	彼方村
			千代田村	天神村	高向村	三日月村	加賀田村	天見村
			川上村	金岡村	南八下村	北八下村	駒ヶ谷村	西浦村
			國分村	玉手村	狹山村	三都村	大草村	野田村
			日置莊村	黒山村	丹南村	丹比村	平尾村	埴生村

同表中篠山區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

高鷲村	藤井寺村	道明寺村
中河内郡ノ内	天美村	布忍村
		松原村
		三宅村
		惠我村
大阪府ノ内	泉南郡	
	泉北郡ノ内	
	大津町	信太村
	南王子村	郷莊村
	南横山村	横山村
		南松尾村
		山瀧村
		上條村
		國府村
		穴師村
		忠岡村
		北池田村
		南池田村
		北松尾村
篠山	兵庫縣ノ内	
	多紀郡	
柏原	兵庫縣ノ内	
	氷上郡	

同表中奈良區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

奈良	奈良縣ノ内 奈良市	添上郡 生駒郡 山邊郡 磯城郡
葛城	奈良縣ノ内 北葛城郡	高市郡 南葛城郡

同表中五條區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

五條	奈良縣ノ内 宇智郡 吉野郡ノ内	上市町 下市町 十津川村 大淀村 天川村 野迫川村
	賀名生村 大塔村 白銀村	秋野村 丹生村 中莊村
		上北山村 黒瀧村 國樺村
		下北山村 中龍門村 龍門村 川上村
		吉野村 宗檜村

同表中大津區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

大津	滋賀縣ノ内 大津市	滋賀郡 栗太郡 野洲郡 高島郡
水口	滋賀縣ノ内 甲賀郡	

同表中名古屋區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

名古屋	愛知縣ノ内 名古屋市 知多郡ノ内 有松町	愛知郡 東春日井郡 西春日井郡 海部郡
一宮	愛知縣ノ内 中島郡 丹羽郡 葉栗郡	
	愛知縣ノ内 知多郡ノ内	

半田町	龜崎町	大府町	横須賀町	岡田町	大野町
常滑町	西浦町	内海町	豊濱町	師崎町	河和町
武豊町	成岩町	阿久比村	東浦村	上野村	八幡村
旭村	三和村	鬼崎村	小鈴谷村	野間村	篠島村
日間賀島村	富貴村				

同表中豊橋區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

愛知縣ノ内	豊橋市	渥美郡	實飯郡
八名郡ノ内	下川村	石卷村	
愛知縣ノ内	南設樂郡	北設樂郡	
八名郡ノ内	大野町	七郷村	山吉田村
	賀茂村	豊津村	橋尾村
			三上村
			舟着村
			八名村
			金澤村

同表中安濃津區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

三重縣ノ内	津市	安濃郡	河藝郡	鈴鹿郡	一志郡
三重縣ノ内	飯南郡				
多氣郡ノ内	東黒部村	下御絲村	大淀村	上御絲村	明星村
	相可村	西外城田村	佐奈村	津田村	丹生村
	川添村				五ヶ谷村
					齋宮村

同表中岐阜區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

岐阜縣ノ内	岐阜市	稻葉郡	羽島郡	本巢郡	山縣郡	武儀郡
加茂郡ノ内	田原村	富岡村				

同表中福井區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

八幡	福井	武生
岐阜縣ノ内 郡上郡	福井縣ノ内 福井市 丹生郡ノ内 越廼村	福井縣ノ内 南條郡 丹生郡ノ内 朝日村 宮崎村 常磐村
	足羽郡 吉田郡 坂井郡	今立郡
	下岬村 國見村 殿下村 西安居村 三方村	立待村 吉川村 豐村 吉野村 大虫村
		城崎村 四箇浦村 織田村 萩野村
		糸生村 志津村 天津村

同表中高岡區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

出町	高岡
富山縣ノ内 東礪波郡 西礪波郡ノ内 石動町 松澤村 石黒村 東太美村 簸波村 大瀧村	富山縣ノ内 高岡市 西礪波郡ノ内 福岡町 福田村 醍醐村 小勢村 山王村 立野村 東五位村 西五位村
福光町 若林村 南蟹谷村 吉江村 水島村 鷹栖村 是戸村 林村 高波村	射水郡 氷見郡
津澤町 戸出町 荒川村 子撫村 宮島村 埴生村	石堤村 赤丸村 五位山村
廣瀨村 廣瀨館村 西太美村 太美山村	
東石黒村 西野尻村 東蟹谷村 北蟹谷村	

同表中廣島區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

廣島縣ノ内		廣島市	安佐郡	山縣郡
安藝郡ノ内		海田市町	矢野町	熊野町
戸坂村		温品村	府中村	仁保村
畑賀村		中野村	坂村	矢賀村
佐伯郡ノ内		廿日市町	嚴島町	草津町
古田村		河内村	八幡村	觀音村
栗谷村		砂谷村	水内村	上水内村
四和村		井口村	石内村	原村
大野村		玖波村	玖島村	木野村
津田村		吉和村		油見村
賀茂郡ノ内		西條町	西高屋村	東高屋村
郷田村		寺西村	川上村	西志和村
				賀永村
				板城村
				造賀村
				淺原村
				三和村
				地御前村
				五日市町
				小方村
				友原村
				平良村
				己斐町
				大竹町
				上瀨野村
				下瀨野村
				船越村
				奧海田村
				牛田村

廣島

下三永村	御藪宇村	吉川村	熊野跡村	志和堀村	原村
下見村					
豊田郡ノ内					
大河村	戸野村	竹仁村	乃美村	川源村	榎梨村
豊田村	入野村	久芳村	小谷村		

同表中吳區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

廣島縣ノ内		吳市	安藝郡ノ内	音戸町	江田島村	佐伯郡ノ内	三高村	津久茂村	賀茂郡ノ内
				警固屋町	渡子島村	倉橋島村	大柿村	深江村	飛渡瀨村
				吉浦町	上蒲刈島村	下蒲刈島村	高田村		
				木庄村	燒山村	大屋村	中村		
							鹿川村		

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項

法律案

同表中尾道區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

阿賀町	仁方町	上黒瀬村	中黒瀬村	下黒瀬村	廣村
郷原村	乃美尾村				
廣島縣ノ内					
賀茂郡ノ内					
竹原町	内海町	三津町	川尻村	内海跡村	三津口村
早田原村	下野村	東野村	莊野村	野路村	中切村
豐田郡ノ内					
忠海町	御手洗町	大乘村	豊濱村	久方村	大崎南村
西野村	本郷村	南方村	吉名村	木谷村	中野村
東野村	大長村	田万里村	沼田西村	小泉村	下北方村
上北方村	善入寺村				
廣島縣ノ内					
尾道市					
御調郡					
世羅郡					
豐田郡ノ内					

同表中三次區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

瀨戸田町	大草村	高坂村	長谷村	沼田東村	佐江崎村
西生口村	南生口村	東生口村	北生口村	鷺浦村	船木村
田野浦村	順波村	高根島村	名荷村		
沼隈郡ノ内					
松永町	瀨戸村	津之郷村	赤坂村	金江村	山南村
神村	本郷村	東村	西村	今津村	柳津村
藤江村	浦崎村	百島村	高須村	山波村	
廣島縣ノ内					
雙三郡					
高田郡					
比婆郡ノ内					
口南村	口北村	下高野山村	上高野山村		
廣島縣ノ内					
比婆郡ノ内					
庄原町	西城町	東城町	高井村	美古登村	八鉾村

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案 四百五十五

同表中下關區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

小奴可村	八幡村	田森村	久代村	帝釋村	本村
峯田村	敷信村	山内東村	山内西村	比和村	山内北村

山口縣ノ内
下關市 豊浦郡

船木
山口縣ノ内
厚狹郡

同表中大洲區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

大洲	愛媛縣ノ内 喜多郡
八幡濱	愛媛縣ノ内 西宇和郡

同表中長崎區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

長崎縣ノ内 長崎市	西彼杵郡ノ内	長崎
上長崎村	小ヶ倉村	土井首村
高島村	蚊燒村	高濱村
爲石村	川原村	茂木村
大草村	伊木力村	長與村
龜岳村	大串村	崎戸村
多以良村	瀬戸村	松島村
三重村	式見村	福田村
北高來郡ノ内		雪浦村
古賀村		神浦村
		浦上山里村
		西浦上村
		深堀村
		野母村
		日見村
		矢上村
		喜々津村
		長浦村
		七釜村
		黒崎村
		香燒村
		脇岬村
		樺島村
		伊王島村

同表中大村區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

長崎縣ノ内	東彼杵郡ノ内
-------	--------

第二章 議事
 第四節 議案
 第二款 議案ノ討議
 第四項 法律案

大村

大村町 三浦村 鈴田村 大村 西大村 萱瀬村
 竹松村 福重村 松原村 千綿村 彼杵村 川棚村
 下波佐見村 上彼佐見村
 北高來郡ノ内
 諫早町 諫早村 北諫早村 小栗村 小野村 森山村
 有喜村 江ノ浦村 田結村 戸石村 眞津山村 本野村
 長田村 深海村 小江村 湯江村 小長井村

同表中武雄區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

武雄

佐賀縣ノ内
杵島郡

藤津郡

伊萬里

佐賀縣ノ内
西松浦郡

同表中福岡區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

福岡

福岡縣ノ内

福岡市

筑紫郡

粕屋郡

宗像郡

早良郡

糸島郡

甘木

福岡縣ノ内
朝倉郡

同表中久留米區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

久留米

福岡縣ノ内
久留米市

三井郡

三潞郡ノ内

荒木村

安武村

大善寺村

西牟田村

犬塚村

三潞村

吉井

福岡縣ノ内
浮羽郡

同表中熊本區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

熊本縣ノ内

熊本市

飽託郡

熊本	菊池郡ノ内 大津町 原水村 津田村 瀬田村 陣内村 平真城村 護川村 北合志村 泗水村 合志村 西合志村 田島村 阿蘇郡ノ内 錦野村 山西村 上益城郡ノ内 白水村 下益城郡ノ内 松橋町 小川町 海東村 河江村 小野部田村 當尾村 豊福村 豊川村
三角	熊本縣ノ内 宇土郡 下益城郡ノ内 守富村 杉合村 天草郡ノ内 登立村 維和村 上村 中村 湯島村

同表中鹿兒島區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

鹿兒島	鹿兒島縣ノ内 鹿兒島市 鹿兒島郡 熊毛郡 日置郡ノ内 下伊集院村 中伊集院村 上伊集院村 郡山村 日置村 吉利村 永吉村 伊作村 田布施村 阿多村
加治木	鹿兒島縣ノ内 始良郡 伊左郡 贈嶽郡ノ内 財部村 末吉村

同表中札幌區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

札幌	北海道ノ内 札幌區 札幌郡 千歳郡 石狩郡 厚田郡 濱益郡 北海道ノ内
----	-------------------------------------------

岩見澤

夕張郡 樺戸郡
 空知郡ノ内
 岩見澤町 瀧川町 沼貝村 北村 幌向村 栗澤村
 砂川村 蘆別村 歌志内村 三笠山村 江部乙村

同表中室蘭區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

室蘭

北海道ノ内
 室蘭區 有珠郡 幌別郡 白老郡
 虻田郡ノ内
 虻田村 辨邊村
 勇拂郡ノ内
 苫小牧町 安平村 厚真村 鵠川村 似灣村 累標村
 穂別村 邊富内村

同表中旭川地方裁判所ノ部ヲ左ノ如ク改ム

北海道ノ内

旭川

旭川	旭川	旭川	旭川
旭川區	旭川區	旭川區	旭川區
空知郡ノ内	空知郡ノ内	空知郡ノ内	空知郡ノ内
音江村	音江村	音江村	音江村
南富良野村	南富良野村	南富良野村	南富良野村
雨龍郡ノ内	雨龍郡ノ内	雨龍郡ノ内	雨龍郡ノ内
深川町	深川町	深川町	深川町
秩父別村	秩父別村	秩父別村	秩父別村
勇拂郡ノ内	勇拂郡ノ内	勇拂郡ノ内	勇拂郡ノ内
占冠村	占冠村	占冠村	占冠村
北海道ノ内	北海道ノ内	北海道ノ内	北海道ノ内
上川郡 <small>(天鹽國)</small>	上川郡 <small>(天鹽國)</small>	上川郡 <small>(天鹽國)</small>	上川郡 <small>(天鹽國)</small>
中川郡 <small>(天鹽國)</small> 枝幸郡	中川郡 <small>(天鹽國)</small> 枝幸郡	中川郡 <small>(天鹽國)</small> 枝幸郡	中川郡 <small>(天鹽國)</small> 枝幸郡
紋別郡ノ内	紋別郡ノ内	紋別郡ノ内	紋別郡ノ内
紋別村	紋別村	紋別村	紋別村
雨龍郡ノ内	雨龍郡ノ内	雨龍郡ノ内	雨龍郡ノ内
幌加内村	幌加内村	幌加内村	幌加内村
增毛	增毛	增毛	增毛
北海道ノ内	北海道ノ内	北海道ノ内	北海道ノ内
名寄	名寄	名寄	名寄
渚滑村	渚滑村	渚滑村	渚滑村
瀧上村	瀧上村	瀧上村	瀧上村
興部村	興部村	興部村	興部村
雄武村	雄武村	雄武村	雄武村

同表中釧路地方裁判所ノ部ヲ左ノ如ク改ム

釧路	釧路	稚内	增毛郡
	釧路ノ内	北海道ノ内	留萌郡
釧路	釧路郡	宗谷郡	苫前郡
釧路ノ内	北海道ノ内	天鹽郡	
釧路	白糠郡	利尻郡	禮文郡
釧路ノ内	北海道ノ内	阿寒郡	
釧路	川上郡	川上郡	厚岸郡
釧路ノ内	北海道ノ内	上川郡 <small>(十勝國)</small>	
釧路	厚岸郡	中川郡 <small>(十勝國)</small>	十勝郡
釧路ノ内	北海道ノ内	足寄郡	
釧路	河東郡	廣尾郡	
釧路ノ内	北海道ノ内	網走郡	
釧路	斜里郡	紋別郡ノ内	
釧路ノ内	北海道ノ内	下湧別村	
釧路	常呂郡	上湧別村	
釧路ノ内	北海道ノ内	網走郡	
釧路	網走郡	根室郡	
釧路ノ内	北海道ノ内	國後郡	
釧路	下湧別村	藥取郡	

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前從前ノ管轄裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

(參照略)

一六 不動産登記法中改正法律案

不動産登記法中左ノ通改正ス

第八條ノ二 司法大臣ハ一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル事務ヲ其他ノ登記所ニ委任スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右各案ハ孰レモ八年一月二十九日本院ニ之ヲ提出ス二月一日右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ鈴

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案 四百六十五

本政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

唯今議題ニ上リマシタ三案ニ對シマシテ、其提出ノ理由ヲ申上ゲマスル、大正二年行政整理ノ結果廢止セラレマシタル區裁判所中六十四箇所ハ、昨年マデノ議會ニ於キマシテ、御協賛ヲ得マシテ既ニ復活シタノデアリマス、併ナガラ未ダ是ノミヲ以テハ、民衆ノ便利ヲ完ウスルコトガ出來マセヌカラ、茲ニ三十一箇所ヲ擇ビマシテ、本案ヲ提出致シマシタル次第ゴザイマス、而シテ斯ク區裁判所ヲ復活スルノ結果、管轄區域ヲ變更致サナケレバナリマセヌカラ、大正二年法律第九號ノ改正案ヲ提出致シマシタ、而シテ區裁判所ヲ復活致シマスルト云フト、不動産登記ヲ致シマスル出張所ニ付キマシテハ、却テ遠隔ノ場所ヲ生ジマシテ、區裁判所ノ復活アリシガ爲メニ、却テ登記事務ニ付テハ、不便ヲ來スト云フヤウナル結果ヲ見ルコトガアリマスルカラシテ、爰ニ不動産登記法ノ中ニ一箇條ヲ加ヘマシテ、一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル事務ヲ他ノ登記所ニ委任スルト云フトノ法律ヲ設ケマシテ、其不便ヲ補ハウト考ヘタ次第デアリマス、提案ノ理由既ニ斯ノ如クデゴザイマスカラ、何卒御審議ノ上御協賛ヲ希望致シマス

前川虎造君ハ質疑ヲ爲シ鈴木政府委員之ニ應答ス

前川虎造君ノ質疑

裁判所復活ノ事ハ、唯今司法當局ノ御話ノ通り、ドツチカト云ヘバ議會全體ガ屢々要求シタ結果デアリマシタ、私共洵ニ此點ハ時宜ヲ得タモノト思フノデアリマス……此提出ノ理由ニ依リマス、土地ノ狀況交通ノ便否ニ鑑ミテ、是ダケノモノヲ置クノダト云フトコトガアルノデアリマス、如何ニモ吾々ノ要求シタ——區裁判所増設ヲ要求シタ趣意モソコニ在ルノデアリマス、併ナガラ置カレタ區裁判所ノ位置ヲ見マスルトイフト、土地ノ狀況ニ甚ダ反シ、又交通ノ便否ニ甚ダ副ハナイ箇所ガ、是マデノ中ニ現ニ在ルノデアリマス、(中略)司法當局ハ復舊デアルガ故ニ、是マデアツタ場所ニ置ク、併シ追々裁判所ガ成立シテ十分ニ出來上ツタ上ニハ、相當ノ時間ヲ假ッテ其間ニ整理ヲスルトイフト

云ハレテ居ル、是ハ委員會デサウ言ハレテ居ル、其特別委員會ニ於テ、ドウセ整理サレルナラバ、置カヌ先キニ整理ヲ爲スツテ、一年間ト云フ考慮ノ時間ガアルカラ、再ビ又面倒ヲ見ナイヤウニ、今度新設サレル分ハ、ドウカンソレラモ加味シテ貰ヒタイト云フ事ヲ要求シタガ、出來得ラレルダケハヤルト云フ御話デアツタ、所ガ一ツモ是ニハ加味サレテ居ラナイ、併シ是ハ時間短カカッタカラ、サウ云フ事ヲヤル暇ガナカッタト云フナラ宜シイガ、將來是等ノ土地ノ狀況及便否ト云フト十分御審査ニナツテ此置カレタ所ノ九十五箇所ノ區裁判所ハ、適當ニ今後整理ナサル御考ガ有ルカ無イカト云フ御答ヲ承ツテ置キタイト思ヒマス、モウ一箇條序ニ承リタイノハ、國民ガ區裁判所ノ増設ヲ要求シタト云フ意味ハ、強チ土地ノ狀況便否バカリデハナイノデ、裁判事務ノ澁滞ト云フト恐レテ、成ベク速ニ裁判事務ヲ進捗シテ貰ヒタイト云フノモ、此事ニ含マレテ居ルノデアリマス、然ルニ近來選舉法ナドデハ、略式トカ何トカ云フ方法デ敏捷ニ御取扱ニナルガ其他僅カナル犯罪ニシテモ同一デアツテ、裁判ハ成ベク慎重ニ爲サラナケレバナラヌト云フ事ハ同一デアラウト思フガ、然ルニ近來ノ裁判事務ノ進捗ヲ見マスト、ドウセ有罪無罪ニ拘ラズ、僅カナ事柄ニ三年モ引張ラレテ居ルトカ、甚シキハ三年ノ後ニナツテモ、マダ解決シナイト云フ事モアル、是ハ色々法律上面倒ナル事件ガアツテ、サウ云フ事件ニ依ツテ長引クカ知リマセヌガ、極ク簡單ニシテ極ク明瞭ナ事スラ、中々運バヌノデアリマス……現政府ハ屢々行政事務ノ簡捷ト云フトコトヲ言ハレテ居ルカラ、裁判所ノ事務モ簡捷ト云フトコトニ御考慮ヲ煩サレ、將來斯様ナ事ノ無イヤウニ、成ベク事務ヲ進捗サレルト云フ事ニ御注意下サルカドウカ、サウ云フ御意見ヲ持ッテ居ラル、カドウカ、ソレカラ序デゴザイマスガ、一體裁判官ハ終身官デアアル、故ニ進退ノ保障ガ著イテ居ルカラ中々長ク居ラル、長ク居ラル、カラ相當ナ場所へ皆ナ舊イ人ガ占領シテ居ッテ、若イ新進氣鋭ノ手腕アル人ガ判事ニナツテモ、進級ノ途ガナイ、是等ガ抑、一ノ支障ト相成ッテ、相當ナル判事及檢事ヲ得ルコトガ出來ナイト思フ、故ニ之ニ對シテハ何トカ考慮ヲ煩サレテドン〜新シキ新知識ヲ續々御登庸ニナルト云フト相成ツタナラバ、判事檢事ハサウ不自由ナキヤウニ御持ニナルコトガ、出來ル時代ガ來ルト思ヒマス、此點ニ付テモ司法當局ハ御考慮ニ

ナツテ居ルカ、此三要点ニ向ッテ、其場合明ニ司法當局ノ御意嚮ヲ承ッテ置キタイト思ヒマス
鈴木政府委員ノ應答

前川君ノ御質問ニ御答致シマス、第一ノ御質問ニ付キマシテハ、昨年ノ議會ニモ承リマシタ問題
デアリマシテ、其當時私カラ詳細御答申シテ置イタ筈デアリマス、現今ノ地方裁判所ノ配置、若
クハ區裁判所ノ配置ニ於キマシテハ、地理上ノ關係、或ハ事件關係、便否ノ關係、經濟上ノ關係等
ニ付キマシテ、全ク其完全ヲ得テ居ルモノナリト斷言スルコトノ出來ナイノハ、前川君ノ御説ノ
通りデアリマス、此點ニ付キマシテハ、兎ニ角ニモ配置セラレタル區裁判所ヲ復活シタル後、事
情ノ變化ガ能ク定ツタ曉ニ於テ、整理シナケレバナラヌモノデアルト政府ハ考ヘテ居ルト云フコ
トヲ昨年ノ議會ニ於テモ御答申上ゲテ置イタ次第デアリマス、今日ニ於キマシテモ、尙ホ其考ハ
持ッテ居ルノデゴザイマス、區裁判所復活事業ガ一度完了シマシタ曉ハ、其經濟上ノ異動ノ有様
ヲ見、事件ノ工合ナリ、又交通ノ事情等ヲ考ヘマシテ、或場合ニ於テハ、二ツノ區裁判所ヲ廢止シ
テ其中央ノ場所ニ一箇所ノ區裁判所ヲ新設スルト云フコトモアリマセウシ、或ハ更ニ區裁判所
ヲ新設スルト云フヤウナコトモアリマセウシ、或ハ地方裁判所ノ位置ノ變更ヲ加ヘルト云フコ
トモアリマセウ、是等ノ事柄ハ暫ク事情ノ推移ヲ見マシテ、其整理ヲスル積リデアリマス、ソレ
カラ第二點ト致シマシテハ、裁判事務ノ進捗ニ付テ、何カ留意シテ居ル所ガアルヤ否ヤト云フ御尋
デアリマシタガ、其點ニ付テハ、即チ當局トシテハ日夜苦慮シテ居ル所ノ事デアリマス、其原因
ハ、單リ裁判所ノ責ニノミ歸スベキモノデモナカラウト思フノデアリマシテ、其原因ハ他ニモア
ラウト思ヒマス、併シ裁判所ノ側カラ申シマスレバ、事件ノ割合ニ對シテ、職員ノ數ト云フモノ
ガ誠ニ少イ、即チ一人ノ平均能率ガ今日ニ於テハ過重デアル、是ハドウシテモ人ヲ殖シテ之ヲ補
テ以テ、事件ノ處理ヲ早ク進マセルト云フ事ニシナケレバナラヌト云フコトヲ考ヘテ居リマス、
然ルニ其人ヲ得ルニ汲々苦心ヲシテ居ルノデゴザイマスガ、未ダ其全キヲ得ナイノハ甚ダ遺憾
トスル所デゴザイマス、併ナガラ昨年一昨年来デアリマスガ、昨年カラ今年ニ掛ケマシテ、追々

其人ヲ充實スルコトガ出來マスカラシテ、此遺憾トスル點ハ聽テ補フコトガ出來マスルノデ、左様御
承知ヲ願ヒタイ……ソレカラ第三トシテ司法官ノ昇進ハ何故ニ遲イ、所謂出世ノ途ガ後レルガ、
此點ニ付テ何カ考ヲ持ッテ居ルカ斯ウ云フ御尋ト承知致シマシタガ、今日ノ司法官ノ進級ガ遅々
トシテ進マズ、他ノ行政官ニ較ベマシテ、誠ニ進歩ノ遅々タルコトヲ見マスルノハ、遺憾千萬ノ
次第デゴザイマスルガ、此點ハ必ズシモ終身官ナルガ故ニ、司法官ノ進歩ト云フモノガ後レルト
ハ見ナイノデゴザイマス、成程終身官デアルカラ、上ノ方ガ罷メナケレバ、下ノ者ガ進ンデ行ク
コトガ出來ナイト、斯ウ云フ事ガ一寸一理由ノヤウニ思ヒマスルケレドモ、今日ノ俸給令制度ニ
致シマシテモ、マダ〱澤山昇リ得ル餘地ガアルノデス、昇リ得ル餘地ガアルノデアリマスルガ、
如何ニセン之ヲ昇ラシムル所ノ金ガ無イ、即チ豫算ガ無イ、斯ウ云フ事ガ一大原因ヲ爲シテ居ル、
此點ニ付キマシテハ夙ニ憂フル所ガアリマシテ、毎年皆サンノ御協賛ヲ願ッテ居ル次第デゴザイ
マス、本年モ多少デハアリマスケレドモ、幾分カノ増額ノ豫算ヲ提出シテ居リマスカラシテ、何
卒此點ニ付テハ御協賛ヲ希望スル次第デゴザイマスルガ、デ此豫算ニ向テ私ハ満足致シマセヌ、
尙ホ益、此點ニ増加ヲシ加ヘマシテ、優秀ナル人ヲ集メテ、サウシテ先程申シマシタル所ノ事件
ノ審理ヲ進マセテ行カウト、斯ウ云フヤウナ考ヲ持ッテ居ルノデゴザイマスカラシテ、左様御諒
承ヲ願ヒマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(十八名ノ同一委員)ニ對シ議長ハ即日之ヲ指定ス委員ハ同月三日委員
會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月十日報告書ヲ議
長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ三案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長政尾藤吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ
付左ノ報告ヲ爲ス

裁判所設立ニ關スル法律案外二件ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、御承知ノ通り大正二年行政整理ノ際、全國ニ涉リ多數ノ區裁判所ハ廢止セラレマシタ、然ルニ其後ノ經驗ニ徴シマシテ、又其後地方ノ發達ニ依リマシテ、廢止シタル區裁判所ヲ復活スル必要ノ場所モアリマスルシ、又新ニ區裁判所ヲ設ケル必要ノ起ツタ場所モアリマスルノデ、ソレ故ニ昨年ノ第四十議會ノ際ニ廢止ニナリマシタル區裁判所六十四箇所ハ、復活ニナッタノデアリマス、此度ノ案ハ尙ホ三十一箇所ノ復活、又ハ新設ニ關スルモノデアリマス、ソレカラモウ一件ハ此區裁判所ノ復活又ハ新設ニ伴ヒマシテ、別表即チ現ニ存シテ居リマスル所ノ區裁判所ノ管轄ガ變リマスルノデ、其管轄ヲ決メル所ノ別表ノ改正ノ必要ガ起リマス、ソレガ一ツ、ソレカラモウ一件ハ區裁判所ノ復活又ハ新設ニ伴ヒマシテ、登記事務ノ廢合ノ必要ガ起リマス、ソレハ新ニ出來マシタル所ノ區裁判所、又ハ其區裁判所ノ出張所トシテ出來マスル所ノ登記所ノハツレノ界ニアリマスル所ノ區裁判所、方ノ者ニ取リマシテハ、隣ノ登記所ヘ行ク方ガ、餘程便利デアルト云フ場合ガアルノデアリマス其場合ニ於キマシテハ、司法大臣ハ省令ヲ以テ、一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル事務ヲ他ノ登記所ニ委任スルコトヲ得ト、斯ウ云フ風ニ不動産登記法中ノ第八條ノ二ヲ改正致シマス、サウ云フ必要ガ起ルノデアリマス、此三件ハ何レモ委員會ニ於キマシテ、大多數ヲ以テ原案通り可決致シタノデアリマス

院議(一四)(一五)ノ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ高田耘平君ハ兩案ニ對スル修正ノ動議ヲ提出シ武藤金吉君ハ修正案ニ反對ノ演說ヲ爲ス

高田耘平君ノ修正動議

私ハ唯今第二讀會ノ議ニ上ッテ居ル裁判所ノ設立ニ關スル法律案外一件ニ付キマシテ、修正ノ動議ヲ提出致シマス、修正上ノ箇所ハ裁判所ノ設立ニ關スル法律案中第五項「栃木縣足利郡足利町ニ區裁判所ヲ置キ之ヲ足利區裁判所ト稱ス」トアルノヲ「栃木縣安蘇郡佐野町ニ區裁判所ヲ置キ

之ヲ佐野區裁判所ト稱ス」コウ云フコトノ修正デゴザイマス、即チ足利町ニ新設スベキコトヨリモ、佐野町ニ復舊スベキガ當然デアルト云フデアリマス、此第五項ノ外ニ於キマシテハ、全部原案ニ賛成デアリマス、唯今ノ法律ノ修正ノ結果ト致シマシテ、大正二年法律第九號中改正法律案中「同表中ノ栃木區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム」中「足利」トアリマスノヲ「佐野」ト修正スルノデゴザイマス、其他原案ノ通りデゴザイマス、此問題ハ御承知ノ通り昨年ノ請願委員會ノ本會議ニ於キマシテ、私ガ佐野ノ區裁判所ヲ復活スルコトニ請願委員會ガ容レマシテ、本會議ガ否決スルトキニ、私ハ佐野區裁判所復活ガ當然デアルト云フコトヲ主張シタ問題デゴザイマス、即チ前年來深キ關係ノアル問題デアリマスルガ故ニ、而シテ區裁判所ノ位置ニ關スル事トハ雖モ、苟モ嚴正公平ヲ尙フベキ司法當局者ノ發案ニ係ル問題デゴザイマシテ、之ヲ唯一區裁判所ノ問題トシテ輕々ニ看過スルコトガ出來ナイ立場ニ相成ッテ居ルノデゴザイマス、私ハ此修正ノ理由ニ關スル法律案提案ノ主タル理由ニ基イテデゴザイマス、第二ハ、此佐野ノ復活ガ當然デアルト云フ歴史上ノ理由ヨリデゴザイマス、第三ハ土地ノ便否ノ關係ヨリデゴザイマス、此三點ヨリ修正説ガ是ナリト信ズル者デアリマス、(後略)

武藤金吉君修正案反對ノ演說

裁判所設置ニ關スル法律案中、唯今栃木縣足利郡足利町ニ區裁判所ヲ置キ、之ヲ足利區裁判所ト稱スルト云フ原案ニ對シ、佐野町ニ置イテ之ヲ佐野區裁判所ニ修正スルト云フ高田君ノ修正意見ニ反對シマシテ、政府案ニ賛成ノ意見ヲ述ベタイト思フノデアリマス、諸君、此足利ト佐野ノ問題ハ、昨年ノ本議場ニ於テ問題トナッタノデアリマシテ、其要點ハ四十議會ニ於テ論議シ盡サレテ居リマスガ、唯今高田君ノ御熱心ナル修正ノ御意見ガアリマシタカラ、甚ダ申スマデモナイ事デアルト思ヒマスケレドモ、之ニ對シテ御答ヲスルト云フコトモ、亦已ムヲ得ザル事ト考ヘルノデアリマス、先ヅ此足利ト佐野ニ置ク利害便否ノコトヲ判斷ヲスルト致シマスレバ、此足利安

蘇ノ二郡ノ關係、及此地方ノ民情、風俗、産業、裁判事項等ニ付テ數字ヲ一讀シマスレバ、外ノ理由ハ説明ヲセヌデモ解決ガ著キサウニ思ヒマス、政府ガ見ル所アツテ佐野ニ區裁判所ヲ復活シナイデ、足利ニ置クト云フコトハ、洵ニ現在ノ民情ヲ穿ツタ適當ナル處置デアルト私ハ信ズルノデアリマス……此兩郡ノ生産力ヲ算ヘ、又本問題ニ最モ關係ヲ有スル裁判事件ヲ申上ゲマスレバ、民刑裁判件數ハ、足利郡ニ於テ千八百八十八件ヲ今マデ裁判所ガ無クテモ算ヘテ居リマス、安蘇郡ハ九百四十九件ヲ算ヘテ居リマス、更ニ此度政府ノ提案ニハ、此足尾町ヲ加ヘテ足利町ヲ中心トシテヤルト云フノデアリマスカラ、足利町ノ唯今算ヘマシタ件數ニ、足尾町ノ裁判事件ノ件數ヲ加ヘマスルト、足尾町ハ五百八十一件デアリマス、五百八十一件ト八百九十九件デアリマスカラ、是ハ千四百件ニ對シテ、佐野町ハ六百件シカ無イ、此件數ニ對シテ裁判所ヲ置クト云フコトハ見ナケレバナラヌ、又生産狀況カラモ之ヲ見ナケレバナラヌ、斯ノ如ク戶數ノ點カラ言ッテモ、納税ノ點カラ言ッテモ、人口戶數ノ點カラ言ッテモ、便利ノ良イ澤山ノ人ノ便利ヲスル所ニ裁判所ヲ擇ベト云フコトハ、先ヅ此數字ニ依リマシタケデモ、結論ヲ得ルコトト思フノデアリマス、(後略)

院議少數ニテ(一四)案ニ對スル高田君ノ修正案ヲ否決シ第二讀會ハ原案通確定ス
次テ高田耘平君ハ(一五)案修正ノ動議ヲ撤回ス

院議異議ナク右兩案ノ第三讀會ヲ省略シテ可決確定シ續テ(一六)案ノ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ヲ可決確定シ即日前顯三案ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月一日三案ヲ可決奏上シ(一四)ハ法律第二十二號、(一五)ハ法律第二十三號及(一六)ハ法律第二十四號ヲ以テ孰レモ三月二十五日公布セラル

一七 鐵道敷設法中改正法律案

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

第二條第一項近畿線ノ部ニ左ノ一號ヲ加フ

一 和歌山縣下和歌山ヨリ田邊新宮及三重縣下長島ヲ經テ相可ニ至ル鐵道

同項九州線ノ部ニ左ノ一號ヲ加フ

一 福岡縣下久留米ヨリ大分縣下日田ヲ經テ大分ニ至ル鐵道

第七條第一項第二號中「中岐阜縣下岐阜ヨリ太田ヲ經テ高山ニ至ル鐵道」ヲ削ル

同項第十三號中「中蘇我ヨリ松田ニ至ル鐵道及勝浦ヨリ大原ニ至ル鐵道」ヲ削ル

同項第二十二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一 近畿豫定線ノ内和歌山縣下和歌山ヨリ田邊新宮及三重縣下長島ヲ經テ相可ニ至ル鐵道

同項第二十六號中「中高知縣下山田ヨリ高知ヲ經テ須崎ニ至ル鐵道」ヲ削ル

同項第二十八號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一 九州豫定線ノ内福岡縣下久留米ヨリ大分縣下日田ヲ經テ大分ニ至ル鐵道

一八 北海道鐵道敷設法中改正法律案

北海道鐵道敷設法中左ノ通改正ス

第二條第一號中「及釧路國厚岸ヲ經テ北見國」ヲ、「釧路國釧路及北見國斜里ヲ經テ」ニ改ム

同條第三號中「厚岸」ヲ「釧路」ニ改ム

同條ニ左ノ一號ヲ加フ

一 膽振國長萬部ヨリ輪西ニ至ル鐵道

右兩案ハ孰レモ八年一月三十日本院ニ之ヲ提出ス二月一日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ床次政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

鐵道ノ改良並ニ鐵道ノ普及及速成ト云フコトハ、今日ノ時機國運ノ進展ヲ圖ル上ニ於テ、最モ必要ナル事柄ト考ヘルノデアリマス、ソレ故ニ既ニ御承知下サル如ク、鐵道豫算ヲ以テ大正八年度以降十八年度ニ互ッテ、既定額ト合セテ總額七億四千四百餘萬圓ノ、建設並ニ改良ニ關スル費額ノ御協賛ヲ仰イデ居ル次第デアリマス、右ノ中鐵道普及並ニ速成ニ要スル建設費ガ、追加ニナリマスル高一億四千四百萬圓デアリマスルガ、右申ス普及並ニ速成ノ趣意ヨリシテ、既ニ工事着手ノモノ、中デ「敦賀新舞鶴間」「今市濱田間」「濱田山口及益田萩間」「村上秋田間」「川之江西條間」「宮崎佐伯間」「伯備線肥薩線」「長岡高崎間」「西條松山間」「岐阜高山間」ノ鐵道及ビ輕便鐵道等ノ既定年割額ノ中、大正十二年度以降ニ屬スル額千六百九十餘萬圓ヲ、大正八年度以降四箇年度即チ十一年度マデニ線上ゲマシテ、ソレニ合セテ新タニ「琴平池田山田間」「和歌山相可間」「長萬部輪西間」「久留米大分間」「松田勝浦間」「高山富山間」「釧路網走間」ノ本鐵道七線、其延長五百四十六哩、之ニ合セテ輕便鐵道十一線其延長三百三十一哩、合計八百七十七哩、此線路ヲ選定致シマ

シテ、其費額ハ一億四千四百餘萬圓ニナリマスガ、之ヲ大正八年度以降十八年度ニ互ッテ追加要求ヲ致シタコトハ、既ニ御承知下サル通りデアリマスガ、即チ此本鐵道——新ニ追加致シマシタ本鐵道七線、本州ニ於テ五線、北海道デ一線デアリマス、此五線並ニ二線ヲソレ々追加センガ爲メニ、鐵道敷設法並ニ北海道鐵道敷設法中ニ追加ヲ致サンガ爲メノ改正案デアリマス

三輪市太郎君、丸山嵯峨一郎君ハ質疑ヲ爲シ床次政府委員ハ之ニ應答ス

三輪市太郎ノ質疑

議題トナリマシタル鐵道敷設法中改正法律案中ノ第七條ニ關聯致シマシタル所ノ、名古屋富山間ニ於ケル鐵道敷設ノ政府ノ御方針ノ在ル所ヲ、此機會ニ質問ヲ致シタイト思フノデゴザイマス、諸君御承知ノ如ク、此名古屋富山間ニ於ケル鐵道ノ敷設建議案ハ、私共ヨリ屢々提出ヲ致シマシテ毎度滿場一致ノ御協賛ヲ得テアル所ノ線路デゴザイマシテ、其中四十議會ニ於キマシテハ、太田高山間ヲ協賛ヲ與ヘ、其接續タル所ノ太田富山間ハ、今大臣ガ説明セラレタルガ如ク、此議會ニ提案ヲサレタノデゴザイマシテ、是ガ通過スルナラバ、名古屋富山間ト云フ線路ノ殆ド八九分通りハ、吾々ノ意見ヲ容レラレタモノデゴザイマシテ、然ルニ其太田名古屋間ノ一小部分ガ、今尙ホ提案ヲ見ルニ至ラナイノデゴザイマスルガ、當局ノ曰ク、曩ニ豫定線ニナッテ居ル所ノ岐阜多治見間ヲ四十議會ニ提案ヲ爲シタル爲メニ、其中間驛ノ太田ヨリ先ヅ以テ高山マデノ聯絡ガ取レルカラシテ、早晚名古屋ヲ起點トスベキノ時期ハアリト雖モ、今ハ左程急グ問題デナカラウト思ッテ四十議會ニハ提案ヲシナカッタト云フ政府當局ノ御説明デゴザイマシタ、併シソコハ吾々ノ見ル所ハ、其當時ノ當局ト意見ヲ異ニ致シテ居リマシテ、太田以北ノ此線路ノ工事ノ材料ヲ運搬スル等ノ上ヨリ見ルモ名古屋ヲ起點トシテ名古屋ヨリ運送スレバ、此工事ノ經費ノ上ニ於テモ、約百五十萬圓乃至二百萬圓ノ減額ヲ見ラレル、而已ナラズ、太田名古屋間ニ線路ヲ敷設スルト雖モ、諸君御承知ノ如ク、彼ノ地方ハ平坦ニシテ何等隧道ノ一箇所アルデナイ、僅ニ木曾川ノ一川アリト雖モ、是亦幸ニ其架橋ヲセントスル場所デハ、僅ニ百二十間若クハ其上流ニテ行

へ、六七十間ノ幅員ヨリナイノデゴザイマシテ、工費ハ如何ニモ飛驒線ノ如キ、多額ノ費用ヲ要スル線路ト比較致シテ見タナラバ、實ニ僅カナ金デ出來ルノデゴザイマシテ、是ハ吾々素人ノ概算カラ見レバ、三百萬圓、多クモ四百萬圓ノ經費ト見積テ居ルノデゴザイマス、ソコデ政府ニ於テモ稍、了解ガ出來マシテ、然ラバ議場ニ於テ諸君ガ同意ヲ致スナラバ、來ルベキ議會ニデモ提案ヲ致サウト云フコトニ略、交渉ガ成立チマシテ、ソコデ本會ニ建議ヲ更メテ致シタルデアリマス、所ガ此建議案ヲ提出シタル後、... 政府ハ其線路ノ必要ハナイト認メマスルト云フコトヲ、此演壇ニ於テ放言ヲサレタノデゴザイマシテ、實ニ私ハ意外ノ感ヲ持チマシタ、此中村君ノ答辯ノ爲メニ、議場ノ形勢ハ一變致シテ、其建議案ハ否決サレルカト私ハ杞憂ヲ致シタル所、却テ此線路ノ必要ナルコトハ、慎重審議ノ結果、是亦滿場一致デ通過ヲ致シタルノデゴザイマス、所ガ此度又提案ヲ見ナイノハ、甚ダ意外トスル所デゴザイマスルガ、是ハドウシテモ名古屋ガ起點デナケレバナラヌト云フコトハ、何レモ認メテ居ル問題デゴザイマスカラ、幸ニ現内閣ハ前ノ行掛モアリマセズ、殊ニ今日デハ副總裁ノ如キ最モ前ノ關係モアラセラレズ、多年鐵道ニ經驗アラセラルル所ノ副總裁ヲ戴イテ居ル所デゴザイマスデ、公平ナル見地ヨリ此名古屋太田間ノ線路ハ、至急敷設セラル、ノ必要アリヤ否ヤノ御意見ガ伺ヒタイノデゴザイマス、(後略)

床次政府委員ノ應答

御答致シマス、今ノ三輪君ノ御希望ノ線路ハ、敢テ必要ナキ線路トハ無論思ッテ居リマセヌ、外ニモマダ敷設致シタラ然ルベシト思フ線路モ多々ゴザイマスノデスケレドモ、此度ノ選定ニハ漏レタノデゴザイマス、左様御承知ヲ願ヒマス

丸山嵯峨一郎君ノ質疑

此度政府カラシテ、鐵道敷設法ノ改正案ガ出マシタ、ソレハ説明ニモアリマス通りニ、地方ノ開發及系統上豫定線及第一期線中追加改訂ヲ要スルモノガアルト云フ、斯ウ云フ御説明ニナッテ居リマス、本員等モ悉ク其意ニ賛成ヲ致シテ居ル次第デアアル、ソレ故ニ吾々ハ國家ノ爲メニ最有利ニシテ、且ツ結局政府ノ負擔ノ輕クナルヤウニシタイト云フコトカラシテ、昨年ヨリ此上越線ノ比較線ヲ見出シマシテ、之ニ就キマシテ比較調査ヲシテ吳レト云フコトヲ御願ヲシテ置イタルデアアル、其次第八信越五郡ノ人ガ最モ切望スル所ノ利害關係ノアル線路デゴザイマス、鐵道網ニモ既ニ河東線ト云フモノヲ敷設スルコトニ相成ッテ居ル、此河東線ト云フモノニ直接關係ヲ有ッテ居ルノデアリマス、私ノ質問ハ、此信越五郡ノ者ヨリ、殆ド國會ノ開設セラレタ其時カラシテ要求シテ居タ鐵道ト云フモノガ今日ニ至ルマデ尙ホ願ミラレナイノデアアル、地方ノ開發ト云フナラバ、先ヅ第一ニ此邊ニ著目セラル、デアラウト思フノガ、今日更ニ新線ノ追加ガアルニ拘ラズ、此地方ニ一指ダモ染メナイト云フノハ、果シテ此地方ノ改善ノ爲メニ、根本ノ標準ヲ立テ、居ラル、ノデアアルカドウカト云フコトヲ、私ハ承リタイト思フノデアリマス、モウ一ハ私ガ承ッテ置キタイ事ハ、此鐵道計畫ニ付キマシテ、果シテ此地方ノ便宜トカ、或ハ必要ト云フ事ガ基礎ニナッテ居ルダラウカ、或ハ又其地方カラ選出セラレタル議員ノ頭ニ依ッテ決定セラルベキモノデアラウカト云フコトガ頗ル疑ハシイノデアアル、私ガ先程申シマス通りニ、上越線ノ一部ニ就テ比較調査ヲ願フタ其結果ト致シマシテ、吾々ハ當然ニ此比較線ノ方ヲ、採ッテ吳レルモノデアラウト云フコトヲ豫期シテ居リマシタ、即チ吾々ガ年來希望スル所ノ河東線ト云フモノト、及上越線ト云フモノハ、一ニ此ニ依ッテ二ノ效用ヲ收メルト云フコトガ出來ヤウト云フ點カラ、政府ガ此河東線ニ向テ莫大ノ費用ヲ費サヌデモ、慥ニ其效用ヲ收メル鐵道敷設ガ出來ルト云フ見地カラ、頗ル政府ニ期待シテ居ッタ所ガ、其比較線ト云フモノニ付テハ、吾々ノ信ズル所ヨリモ餘程莫大ナル計算ヲ以テ、政府ハ報告セラレテ居ル、即チ一千萬圓ノ巨額ノ費用ヲ増スニ依ッテ、此比較線ハ採用ガ出來ナイト云フコトデ、上越ノ幹線ヲ南魚沼ノ谷ノ中へ葬ルノ政策ヲ執ッタノデアアル、政府ハ此比較線ニ付テハ、當年ニ於テモ請願書ノ出テ居ッタコトハ御存ジデアアル、私ハ此場合此河東線ナルモノハ、政府ニ於テ、今日尙ホ其必要ヲ聊カタリトモ認メテ居ナイカト云フコトノ質問ト、及唯今ノヤウナ、人ニ依ッテ鐵道ハ架ケルモノデアアルカ、地方ノ必要ニ應ジテ架ケルモノ

デアルカ、明白ニ爰ニ言明セラレタイ、(後略)

床次政府委員ノ應答

丸山君ニ御答致シマス、鐵道ハ丸山君ノ申サル、如ク、國ノ爲メニ敷設スルモノデアリマシテ、地方ノ開發上杯ヨリ見テ國利ヲ起サン爲メニ敷設スベキコト、思ヒマス、決シテ人ヤ情實ノ爲メニ、引込メタリ出シタリスルモノデナイト考ヘマス、今話ノ中ニ、輕便線等ノ御話ガアリマシタガ、實ハソレハ能ク了解シマセヌカラ、ソレニ隨分込入ッテ御話ノヤウデアリマスカラ、是ハ能ク委員會ニ於テ問答ヲ致シタ方ガ、事情ガ明瞭ニナルダラウト思ヒマスカラ、委員會ニ讓ルコトニ致シマシテ、大體鐵道ヲ敷設スルニハ私ヲ以テスベキモノデナイト云フ事ニ付テハ、全然御同感デアリマスカラ、其點ハ合セテ御答致シマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(二十七名ノ同一委員)ニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ同月三日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末二月八日原案ヲ可決スヘキモノト決シ報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月十日右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ兩案委員長江藤哲藏君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

此二案ノ内容ハ、所謂紀勢線ト稱セラレマス所ノ和歌山縣和歌山ヨリ三重縣ノ相可ニ至ル鐵道、ソレカラ福岡縣ノ久留米ヨリ大分縣大分ニ至ル鐵道、此二線ヲ豫定線ニ加ヘ、而シテ此二線ヲ更ニ第一期鐵道線ニ繰入レルノデアリマス而シテ尙ホ高山富山間又房總豫定線中ノ松田勝浦間、四國豫定線ニ於キマシテ、琴平山田間ヲ第一期線ニ繰入レル、是ダケノコトデアリマス、次ハ北海道鐵道敷設法中改正案ノ内容ハ、釧路網走間ノ一線ヲ豫定線ト爲シ、又長萬部ヨリ輪西ニ至ル

鐵道、之ヲ豫定線ト致シ、此北海道ト内地ト合シテ七線路ヲ新タニ建設スルト云フ案デアリマス、委員會ハ慎重ニ審査ノ結果、悉ク原案通りニ可決スルト云フコトニ決定致シ次第デアリマス、此段御報告致シマス

高松正道君ハ左ノ質疑ヲ爲ス

極ク簡單デアリマスルケレドモ、一言御尋致シテ置キタイト思ヒマスガ、和歌山、相可ニ至ル鐵道即チ紀勢線ト申シマスルガ、此線ハ和歌山ガ起點ニナッテ居リマスルガ、是デハ果シテ軍事上經濟上ノ目的ヲ達シ得ルデアリマセウカ、私共ノ考デハ少クトモ是ハ大阪ト云フモノニ連絡ヲシナケレバ、十分ニ此鐵道ノ目的ハ達シ得ラレナイト思フノデアリマス、ソレニ付キマシテハ、和歌山ヨリ大阪ノ間ニハ、既ニ南海鐵道ト云フ鐵道ガアリマスルガ、是ハ政府ニ於テ、將來御買上ニナル御積リデアルト云フコトヲ委員會デ承ッテ居リマスルガ、此御買上ノ時期ハ何時頃デアリマセウカ、之ヲ伺ヒタイトアル、買收ト云フコトニナリマスルト、其價格ノ標準ハ、利益ノ何倍ト云フコトト略ボ今マデ決ッテ居ルヤウデアリマス、ソレデ本議案ガ確定致シマスルト、南海鐵道ノ方デハ、近キ將來ニ於テ是ハ買收サレルモノデアアル、ソレ故ニ從來ハ南海鐵道ニ於テハ、一割ノ配當シカ出來テ居ラナカッタノデアアルガ、總テノ營業費ヲ節約致シマシテ、線路ヲ虐使致シマシテ、成ベク利益ノ割合ヲ多ク致シマシテ、買收費ノ高カラシコトヲ圖ル結果、終ニハ現在ノ線路ヲ虐使致シテ買收シナケレバナラヌトキニ於テハ、既ニ其線路ハ間ニ合ハナイヤウナ破壊シタ線路ニナルヤウナ虞ガアルノデアリマス、又本鐵道ニハ電力ヲ併用致シテ居リマスカラシテ、定メシ買收サレル時ニハ、此電力ノ方モ不可分ノ問題トシテ買收ニナルモノト存スルノデアアル、所ガ南海鐵道ノ電力ノ中ニ、沿道ニ郡ニ互リマシテ、電燈ノ供給ヲ致シテ居リマスルガ、先程申ス理由ノ下ニ、南海鐵道ガ即チ公共ト云フ性質ヲ拋棄シテシマウ利益本位ニ馳ッタ時分ニハ、非常ニ沿道ノ電燈ノ供給ヲ受ケテ居ル者ノ如キハ、迷惑ヲ致ス次第デアアル、ソレ故ニ私ハ成ルベク速ニ政府ノ方ニ御買上ニナル方ガ、却テ國家ノ利益デアラウカト考ヘルノデアリマスガ、

此點ニ對スル政府ノ御所見ヲ承ッテ置キタイト思フノデアリマス
床次政府委員ハ之ニ應答ス

高松君ニ御答シマス、唯今御質問ノ事ハ、結局政府ニ於テモ買收スベキモノト考ヘテ居リマス、又買收スルナラ成ベク早イガ宜カラウト思ウテ居リマス、併ナガラ一方和歌山、相可間ノ鐵道ノ竣工致シマスルノニハ、年限ヲ要スルコトデアリ、又一方ニ於テハ此南海鐵道ガ、今御質問ノ如ク電燈事業ヲ有テ居リマスルノデ、買收調査ニ手間ヲ要シテ、今折角調査中デアルノデス、大體左様ニ御承知ヲ願ヒマス

院議異議ナク第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ兩案ヲ可決確定シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月七日可決奏上シ三月二十四日(一七)ハ法律第二十號、(一八)ハ法律第二十一號ヲ以テ孰レモ公布セララル

一九 造幣局据置運轉資本増加及設備擴張費ニ關スル法律案

大正八年度ニ於テ造幣局据置運轉資本ニ百五十萬圓ヲ増加ス
前項資本ノ増加及大正八年度乃至大正十年度ニ互リ造幣局ノ設備擴張ニ要スル經費ニ充用スル爲造幣局資金ノ内二百六十一萬四千九百五十二圓ヲ限リ一般會計ニ繰入ルルコトヲ得

八年一月三十日本院ニ之ヲ提出ス二月一日本案及(二〇)大正五年法律第四號中改正法律案ヲ一括

シテ第一讀會ヲ開キ神野政府委員ハ左ノ如ク兩案ノ趣旨ヲ辯明セリ

造幣局据置運轉資本ハ現在二百五十萬圓デアリマス、然ルニ近來豫納致シマスル地金ガ増加致シマシテ、之ニ要スル精製ニ要スル資本地金ト云フモノガ、不足致シテ來マシタノデアリマス、隨テ規定ニ定メテアル日限内ニ、其精製ヲシテ地金ヲ豫納人ニ返スコトガ六ヶ敷クナッテ參リマシタ、ソレ故ニ今回更ニ百五十萬圓据置運轉資本ヲ増加致シマシテ、造幣局ノ精製作業ニ差支ナイヤウニ致シタイト云フノガ一ツデアリマス、次ニ近來製造スル貨幣ノ高ガ増加致シマシテ、現在ノ設備デハ不足ニナッテ參リマシタ、ソレ故ニ其製造力ヲ二倍ニ致ス計畫ヲ以テ大正八年度カラ十年度ニ互ル三箇年ノ繼續費ト致シマシテ、百十一萬餘圓ト云フモノヲ計上致シマシタ、此百五十萬圓ト百十一萬圓ト合セテ、二百六十餘萬圓ト云フモノヲ、造幣局ノ資本ノ中カラ繰入レテ此設備ヲ致シタイト云フノガ、造幣局据置運轉資本増加及設備擴張費ニ關スル法律案ノ趣意デゴザイマス、次ニ大正五年法律第四號ハ、大正三年臨時事件ニ關スル經費支辨ニ關スル法律案デアリマス、是ハ現在八千八百萬圓以内ハ、公債ノ發行及借入金ヲ爲スコトヲ得ト云フコトニナッテ居リマスガ、事件ハ尙ホ現ニ繼續致シテ居リマシテ、隨テ之ニ要スル經費モ亦必要デアルノデアリマス、臨時軍事費豫算ト致シマシテ、既ニ二億六百餘萬圓ト云フモノヲ豫算ニ計上ヲシテアルノデアリマス、又其他ニ臨時事件豫備費トシテ、大正八年度ニ二千二百圓ト云フモノヲ計上シテ居リマス、之ヲ合計致シマシテ約三億千六百萬圓許リ、公債並ニ借入金ニ依ル制限額ヲ擴張スルノ必要ガアルノデアリマス、何卒御協贊アランコトヲ希望致シマス

次テ委員ノ選舉ハ兩案ヲ一括シテ(四)作業會計法中改正法律案外六件ノ委員ニ併セ付託スルニ決ス本案議事ノ經過並結果ニ付テハ本項第一(四)ニ併記セルニ依リ茲ニハ之ヲ略ス

二〇 大正五年法律第四號中改正法律案

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

大正五年法律第四號中左ノ通改正ス

「八千八百萬圓以内」ヲ「三億二千萬圓以内」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

八年一月三十日本院ニ之ヲ提出ス二月一日本案ノ第一讀會ヲ開キ神野政府委員ハ趣旨辯明ヲ爲シ次テ委員ニ付託セラル(本項第一一九參看)委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月五日報告書ヲ議長ニ提出ス

二月六日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長粕谷義三君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

簡單ニ御報告ヲ申上ゲマス、此大正五年法律第四號ハ、既ニ御承知ノ如ク、大正三年ノ臨時事件ニ關シマスル、其經費ノ財源ニ充テルコトニ關スル法律デアリマスガ、現行法ニ依リマスト云フト、此財源ニ充ツル爲メニ、公債又ハ借入ヲ爲シ得ル所ノ程度ガ、八千八百萬圓ト限定サレテアルノデアリマスガ、併ナガラ時局ハマダ終局ニ至リマセヌデ、尙ホ多額ノ支出ヲ要スル次第デアリマシテ、之ガ爲メニ更ニ二億數千萬圓ヲ増加シテ、八千八百萬圓ノ制限ヲ、更ニ三億二千萬圓マデニ増額シタイト云フ改正案デアリマス、既ニ先頃當議場ヲ通過シマシタ追加豫算ニ於テモ、五千萬圓ノ公債募集ノ事ガ含マレテ居リマスルシ、尙ホ今豫算委員會ニ付セラレテアリマスル所ノ幾多ノ追加豫算ニ於テモ、二億内外ノ公債募集金ヲ財源トスル所ノ計畫ニナツテ居ルノデア

リマシテ、此増額ハ洵ニ已ムヲ得ザルモノナリト認メマシテ、委員會ハ全會一致ヲ以テ可決ヲ致シタノデアリマス、此段御報告ヲ致シマス

院議異議ナク讀會ノ順序ヲ省略シテ原案ヲ可決確定シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ二月八日可決奏上シ同日法律第一號ヲ以テ公布セラル

二一 帝國大學特別會計法中改正法律案

帝國大學特別會計法中左ノ通改正ス

第二條中「金百五十六萬圓」ヲ「金百六十七萬七千三百二十圓」ニ、「金九十七萬圓」ヲ「百三萬五千百圓」ニ改ム

附則

本法ハ大正八年度ヨリ之ヲ施行ス

三二 東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル件

東京帝國大學工學部ノ擴張ヲ爲スノ費用ニ充ツル爲總額金百五十萬圓ヲ、京都帝國大學工學部及理學部ノ擴張ヲ爲スノ費用ニ充ツル爲總額金八十三萬二千二百七十一圓ヲ大正八年度乃至大正

十一年度ニ互リ帝國大學特別會計法第二條ノ金額ノ外毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ當該帝國大學特別會計ニ繰入ルヘシ

二二 大正七年法律第四號中改正法律案

大正七年法律第四號中左ノ通改正ス

「時局ニ基因シ判任官其ノ他ノ者ニ對シ臨時手當ヲ支給スル爲」ヲ「時局ニ基因シテ生スル經費ノ不足ヲ補充スル爲」ニ改ム

附 則

本法ハ大正八年度ヨリ之ヲ施行ス

右三案ハ八年一月三十日本院ニ之ヲ提出ス二月一日各案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ中橋國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

唯今議題ニナリマシタル第二十一、二十三、及二十五ノ日程ノ議案ノ提出ノ説明ヲ致シマス、此三案ハ、共ニ總豫算ノ實行上必要トナツテ提出シタモノデアリマス、即チ二十一帝國大學特別會計法中改正法律案、是ハ御承知ノ通りニ、帝國大學ノ會計ハ特別會計ニナツテ、其收入支出ガ金額ノ總額ヲ規定シテアリマスルデ、之ニ増額ヲスル時ニハ、其時々法律案ヲ改正シナケレバナラヌ

コトニナツテ居リマスルデ、是マデモ時々改正案ヲ提出シテ居ルヤウナ譯デアリマス、今回教授及助教等ノ如キ者ノ俸給ガ薄イノデ、其増給ヲ致シマスル案ガ總豫算ノ中ニ組ンデアリマス、是ガ可決ニナリマスルト、其金ヲ以テ此特別會計ノ方ヘ組入レナケレバナラヌ事ニナリマスカラ、ソレガ爲メニ此法律ノ改正ヲ要スル譯ニナツテ來タノデアリマス、ソレニ二十三モ矢張同様ノ理由デアリマシテ、總豫算ノ文部省ノ臨時部ニ、今回工理科等ノ擴張ヲ致シマスル爲メニ、二百萬圓餘ノ金ヲ繼續トシテ提出シテアリマス、是ガ決シマスルト、矢張之ヲ特別會計ノ中ニ組入ナケレバナラヌ事ニナリマスカラ、之ガ爲メニ此改正ヲ要スル譯ニナリマス、今一ツ二十五ハ、今回一體ニ官吏ノ臨時手當ト云フモノヲ支出スルコトニ、豫算ノ形式ガナツテ居リマスルデ、是等ノ臨時手當ノ金額ヲ共ニ特別會計ニ組入レル爲メニ、矢張此法律ノ改正ヲ要スル譯デアリマス、手續上ノヤウナ事デアリマスルデ、極メテ簡單ナル法案デアリマスカラ、ドウゾ適當ノ御審議アラシコトヲ希望致シマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(九名ノ同一委員)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ同月三日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各案ヲ可決スヘキモノト決シ二月四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月十日前顯三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長木下謙次郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

順次ニ委員會ノ經過ヲ御報告申上ゲタイト考ヘマス、日程第十二ハ帝國大學特別會計法中改正法律案、是ハ御承知ノ通りデアリマスガ、帝國大學ノ豫算ノ收支ハ特別會計法ニ依ツテ規定サレテ居リマスノデ、政府ノ支出金ハ法律ニ依ツテ一定致シテ居ルノデスガ、此度政府ハ本年ノ豫算ニ於テ、帝國大學ノ教授助教ノ俸給ノ平均増加額ヲ要求シテアリマスノト、尙ホ東京帝國大學

ノ文學部ノ中ニ、教育學部ヲ設置スル費用ヲ豫算ニ要求致シテアリマシテ、政府ノ支出金増加ノ費目ガ豫算ニ現レテ居リマス、隨テ此豫算ヲ實行スル爲メニ、特別會計法ノ改正ヲ必要トスル次第デアリマシテ、全會一致原案ヲ可決致シタ次第デアリマス、日程第十三ハ東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案デ、是ハ性質ニ於キマシテハ、日程第十二ノモノト略同様ノモノデアリマスガ、日程十二ノ方ハ經常支出デアリマス、十三ニ屬スルモノハ臨時ノ支出ニ相成ツテ居ルノデアアルノデアリマス、即チ東京帝國大學ノ工學部ヲ擴張スルノト、尙ホ京都帝國大學ノ工學部並ニ理學部ヲ擴張致シマス所ノ、政府ノ支出金要求ニ相成ツテ居ルノデアリマス隨テ單獨ノ法律制定ヲ必要トシテ本案ヲ提出致シマシタノガ、此提出ノ趣旨デアリマス、委員會ハ審議ノ結果、至極相當ナモノデアルト認メマシテ、是又全會一致ヲ以テ可決ニ相成リマシタ、日程第十四ハ大正七年法律第四號中改正法律案、此ハ、東京帝國大學並ニ京都帝國大學ノ判任官ノ手當俸給等ノ増額ヲ繰入金デ爲ス所ノ規定ガ出來テ居ルノデアリマスガ、此度ノ改正ノ要旨ハ、判任官ノ手當ノ範圍ヲ擴張スルノト、又其外ニ諸經費ノ不足ヲ補充スル爲メノ改正案デアリマシテ、時局柄已ムヲ得ヌモノト認メマシテ、本案モ可決スルコトニ相成リマシタノデアリマス

院議異議ナク右三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ可決確定シ即日孰レモ貴族院ニ之ヲ送付ス 同院ハ三月一日 各案ヲ可決奏上シ三月二十四日 法律第十一號(一一)第十二號(一二)第十三號(一三)ヲ以テ公布セラル

二四 大正七年法律第二十四號中收正法律案

大正七年法律第二十四號中左ノ通改正ス

第十三條第一項第二號中「學校ヲ卒業シタル者」ヲ「學校ヲ卒業シ又ハ學校ノ課程ヲ修了シタル

者」ニ改メ同條第二項、第三項及第四項中「卒業ノ下ニ」又ハ「修了」ヲ加フ

第二十三條中「又ハ之ト同等以上ト認ムル學校」ヲ「若クハ之ト同等以上ト認ムル學校又ハ高等學校」ニ改ム

附 則

本法ハ大正八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參照略)

右ハ八年一月十八日貴族院ニ之ヲ提出シ同院ハ一月三十一日本案ヲ可決シ即日本院ニ之ヲ送付ス 本院ハ二月四日本案ノ第一讀會ヲ開キ田中國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

今回ノ改正ハ、過般大學及高等學校ノ學制ガ改正ニナリマシタ、之ニ伴ツテノ改正デアリマスルカラ極メテ其簡條ハ簡單ナモノデアリマス、ソレハ同法律ノ第十三條中ノ改正ト、第二十三條中ノ一部ノ改正ニ止マルノデアリマス、本來一年志願兵タル者ノ資格ニ關シマシテハ、元ト中學校程度以上ノ學校ヲ卒業シタル者ニ限ルト、斯ウシテアッタノデアリマス、然ルニ此學制改正ニ伴ヒマシテ、假令中學校ハ卒業セヌデモ、中學校程度以上ノ課程ヲ修了致シマシタ者ニハ其資格ヲ與ヘルト云フコトニ改正ヲシタイノデアリマス、是ハ御承知ノ通りニ、高等學校高等科第一學年、又修業年限三年ノ大學豫科第一學年、之ヲ修了致シマシタ者ハ、即チ中學校卒業者ト同等ノ學力アル者ト認メルノデアリマス、ソレ故ニ此者ニ一年志願兵タルコトノ權利ヲ與ヘルト云フコトハ、是亦當然ノ事デアラウト考ヘマス、次ニハ第二十三條中ノ改正デアリマス、今申上ゲマシタ學制

ノ改正ニ伴ヒマシテ、高等學校ノ在學者ニ對シマシテハ、同時ニ一年志願兵トシテノ、入營延期ノ資格ヲモ亦之ニ與ヘルト云フコトモ、此學制ニ伴ツタ當然ノ事ト心得マス、即チ第十三條中ト第二十三條中ノ一部ノ改正ヲ致スノデ、是ハ全ク學制改正ニ伴ヒマシタ改正デアリマス、以上ガ提出ノ理由デゴザイマス

荒川五郎君ハ左ノ質疑ヲ爲ス

此徵兵令ニ關シテ、私ハ重要ト思フ四點ヲ御尋致シマス、中等程度ノ修了者ト云フコトハ、昨年此徵兵令改正案ガ議會ニ提出セラレマシタ當時、貴族院デモ江木千之君カラ此文字ヲ入レタ方ガ宜カラウト云フ意見ガ出テ、又衆議院デモ私ガ此事ヲ述べタノデアリマス、併シ當局者ハ採用ガナツカタ、大學令高等學校令等ノ學制改正ノ事ハ、當時臨時教育會議デモ決ツテ居リマシテ、其必要ハ明白ナコトデアッタ、假令其法令ハ出ナイトモ、同程度ヲ修了シタ者ヲ加ヘルト云フコトハ當然ノ事デアアル、凡ソ法令ヲ作ルニハ、斯ル豫想シ得ル事ハ、之ヲ規定シテ置クノガ當然デアアル、此學制改正ノ法令ガ發布ハ無クトモ、斯ル事ハ豫見シ得ル事デアッタノデ、當時私ハ斯様ナ事ハ先ツ常識ノ判斷デ、修了者ヲ同様ニ認メルト云フコトハ、何レ施行法デ定メラレルコトデアラウト思ウテ居ッタ、殊ニ此度召集延期ニ「高等學校」ノ文字ヲ入レルト云フコトモ同ジ事デアリマシテ、昨年此徵兵令ヲ改正シテ、マダ實施スルカシナイカニ、又斯ウ云フヤウニ改正スルト云フコトハ餘リ小節ニ拘ツテ法ヲ弄ブ嫌ガナイカト思フ、是等ハ施行令ニ讓ツテモ宜シクハナイカ、唯今御説明ノ「學校ノ課程ヲ修了シタル者」ト、斯ウ云フ文字ヲ入レテモ、其文字ガ大學ノ豫科ノ一年ヲ修了シタ者、高等學校ノ一年ヲ修了シタル者ト云フコトニハ、此文字デハ直チニ知ルコトガ出來ヌノデアリマス、何レ是等ハサウ云フコトヲ認メル施行令ガ要ル譯デアラウト思フ、餘リ小サイ事ニサウ改正ニ拘泥セラレテハ、却テ重箱ノ隅ヲ揚枝デホヂクツテ、却テ其塗ヲ剝スヤウナ嫌ガナイカ、之ガ第一點デアリマス、次ニハ壯丁稅又ハ兵役稅ノ事デアリマス、今日此徵兵ノ實況ヲ見マスノニ、華族富豪ノ子弟ハ、概シテ體ガ弱クテ徵兵ニ合格シナイ者ガ多イ、下級勞働者

ヤ農村ノ青年等ハ、大抵強健ニシテ骨格逞マシク不合格ガ少ナイ、其下級小前ノ者ハ身體ガ資本デアアル、勞働ガ財產デアアル、其資本其勞働ヲ二年モ取上ゲラル、コトハ、實ニ一家ニ取ツテハ大ナル打撃、大ナル苦痛デアリマス、之ニ加フルニ兵士ノ給與ハ常ニ不足デアリマシテ、留守家族カラ補給ヲシナケレバナラヌト云フ有様デアアルノニ、然ルニ富豪貴族等ハ、多ク免レテ恬トシテ居ル有様デアアル、一方ニハ兵士ノ給與ヲ裕ニシ、又留守家族ヲ賑恤スル方法ヲ講ズルコトガ必要デアルト思ヒマスケレドモ、斯様ナ事ヲ致スニハ、隨分國費ヲ要スル、ソコデ其財源ヲ富豪ヤ貴族等ノ虛弱子弟ヲ造ツテ合格シナイ者ニ、所謂兵役稅或ハ壯丁稅トカ云フモノヲ課シテ、其稅ヲ以テ之ニ充行ウタナラバ、所謂一舉兩得、剛健ノ國民ヲ獎勵スル利益ハ大ニアラウト思フノデアリマス、政府ハ壯丁稅又ハ兵役稅ナルモノヲ起シ、又一方ニハ兵士ヲ優遇シ、家族ヲ賑恤スル考ハ無イカドウカ、第三ハ一年現役兵ノ事デアリマス、一年志願兵ハ豫後備將校トナリ、在郷軍人ノ幹部トナルコトガ出來マスルノニ、一年志願兵ト同ジ資格ガアル者カラ採ル所ノ一年現役兵、其一年現役兵ハ豫後備ノ將校トナルコトガ出來マセス、是モ前ニ申シタ、單ニ費用ヲ取ル取ラヌト云フコトニ關スルヤウニ思ヒマスルガ、此一年現役兵ヲ一年志願兵ト同様ニ扱ウト云フコトハ最も必要ト思ヒマス、其影響スル所ハ極メテ重大ト思ヒマス、從來師範卒業生ノ教員ハ、唯、僅ニ六週間ノ現役兵デアッタノデアリマス、デアリマスカラ是ハ已ムヲ得ナイトシテ居リマシタガ、昨年ノ改正徵兵令ハ、其六週間ヲ九倍殆ド十倍モ進メタ一年現役兵ト云フコトニセラレテ、而モ此一年現役兵ヲ一年志願兵ト區別シテ、一年現役兵ト云フ名ヲ付ケテ、サウシテ豫後備ノ將校タラシメナイト云フノハ、地方青年ノ指導振興ノ爲メニ甚ダ遺憾デアアル、現田中陸軍大臣ハ、青年團ノ事ニハ常ニ心ヲ注ガレツ、アルコトハ、常ニ私共ノ感謝シ敬意ヲ表スル所デゴザイマス、此所一段ノ御英斷ヲ以テ、進ンデ此一年現役兵ヲ一年志願兵ト同一ノ取扱ニセラル、ヤウニ、切ニ希望致スノデアアル、若シ一年志願兵ト同ジク、一年現役兵ノ者モ豫後備ノ將校トナリ得ルニ至ツタナラバ、屹度師範入學者ハ増シテ、有爲ノ人物ヲ招寄セルコトガ出來ヤウト思フ、此一ノ英斷ハ、大ニ青年團在郷軍人會ヲ益スルノミナラズ、全國教育發展ノ上ニ、大ニ效果アリト信ズルノデア

リマス、終リニ今一ツ——第四ハ歸郷兵ノ被服ノ事デアリマス、此被服ヲ一々退營ニ際シテ給與スルトスレバ、四百萬圓カラノ費用ガ要ルカラ、實行ガ六ヶ敷イト云フコトハ、豫算委會デモ御説明ガアッタヤウデアリマスガ、私ノ考ニ依ルト、別ニ費用ヲ要サズシテヤレル方法ガアルト思フ、此被服ヲ一々之ヲ兵士ニ與ヘナイデモ、其準備用意ハ平素カラシテ置カナケレバナラヌ、隨テ被服廠被服倉庫ト云フモノモ要リマス、又被服ヲ整理シ保管スルニ付テ、常ニ相當ノ人が要リマス、然ルニ之ヲ一著ツ、退營軍人ニ貸渡シテ置イタナラバ、中ニ屢次著テ著破リ、早ク破損スルダラウト云フ虞モアリマセウガ、ソレニハ被服ニ保存期限ヲ附シテ、其期限内ニ破損シタモノハ之ヲ辨償セシムルト云フ事ニシテ貸シタナラバ、皆ナ相當ニ之ヲ鄭重ニ扱ッテ保存スルト思フ、サウシテ軍人會ヤ召集勤務ナドニ著用セシムルコトニシタナラバ、非常ニ便利ト思フ、之ヲ保存貸ニシタナラバ、別ニ費用ヲ要サナイノミナラズ、召集ノ度毎ニ一々之ヲ渡スト云フ面倒モナク、歸ル時ニ又之ヲ一々取收メル手數モ省ケルノデアアル、當ニ費用ヲ要セザルノミナラズ、却テ便利ニシテ費用ヲ減ズルコトガ出來ルト思フ、是亦陸軍大臣ノ速ニ英斷アラランコトヲ望ミマス、以上四點ノ御答辯ヲ望ミマス

田中國務大臣ハ左ノ如ク之ニ應答ス

唯今ノ御質問ニ付キマシテハ、第一ニ今回ノ事アルヲ豫見シテ、昨年申述ベテ置イタノデアアルガ是ニ同意シナカッタト云フノガ第一ノ御問デアリマス、前任者ガ豫見ヲシ得ナカッタカドウカト云フ事ハ、是ハ私ハ申述ベル限デアリマセヌ、去リナガラ中學校ヲ卒業スルト云フ事ト、中學校ノ四年級カラ他ノ學校ニ移ッテ一年經過シタ者トニ於テ、其者ハ果シテ中學卒業者ト法律上看做シ得ルカドウカト云フコトハ、是ハ大ナル疑問デアラウト思フノデアリマス、ソレ故ニ此事ヲ明確ナラシムル爲メニ改正シタノデアリマス、次ニ兵役制ノ事ニ付テノ御尋ハ、私トシテハ此兵役制ト云フコトニ直チニ御同意ヲ致シ兼ネマス、今日ノ狀態ニ於キマシテ、國民ガ舉ッテ國家ヲ護ルト云フ意義カラ兵役ニ服スルト云フコトハ、國民ノ義務デアルト同時ニ、是ハ權利デアアルノ

デアリマスガ、此義務ト權利ノ綜合シタモノヲ、物質ヲ以テ是ニ代ヘルト云フコトノ意義ニ於テ、陸軍當局者ハ反對ヲ致シマス、次ニ一年現役兵ノ事ニ付テアリマス、是ハ一應御尤デ、又今日既ニ一年現役者デ、豫後備ノ將校ニナリ得ル途ヲ開ク爲メニ研究シツ、アリマス、併シ是ハ全部デハゴザイマセヌ、是ニ於テ皆サンニ私ハ申述ベテ置ク必要ガアルト思フノハ、戰時ニハ總テノ教育機關ヲ悉ク閉鎖スルカシナイカト云フ問題ガ起ッテ來ル、若シモ國民教育ニ任ジテ居ル是等ノ人々ヲ豫後備役ニ服サシメテ、サウシテ之ヲ戰時ニ悉ク召集シマシタナラバ、教育機關ト云フモノハ、之ガ爲メニ非常ニ頓挫ヲ來スノデアリマス、是ハ豫後備役者ニシナイヤウニ、即チ戰時ニ之ヲ召集セヌヤウニスルト云フコトハ、陸軍當局トシテモ、又國民教育ノ上カラ考ヘテモ、考慮スベキ事柄デアアル、是ハ既ニ今回ノ大戰爭ニ於テ、佛蘭西デモ、獨逸デモ、此事ニ付テハ特ニ考慮シタノデアリマス、併シ其中ニ絶對ニ豫後備將校ニナリ得ヌト云フコトデハ、此人ノ名譽ノ關係デアリマスカラ、其中ノ一部分ノ人ハ、豫後備將校ニナリ得ル途ヲ開イテ置クト云フコトハ、唯今荒川君ノ述ベラレタ意味モアリマスルカラ、其途ニ對シテハ今研究ヲ致シテ居リマス、次ニ被服貸與ノ件、是モ私共ハ大體ノ主義ニ於テハ、大ニ賛成ヲスルノデアリマス、是ニハ直チニ經費ノ關係ガ來ルノデ之ヲ實行スルト云フコトヲ、此所デ申述ベルコトハ遺憾ナガラ出來マセヌガ、陸軍大臣トシテハ、此御賛成申シタ意義ヲ現實ニナラシムル上ニ將來努力ヲ致ス考デアリマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長ハ之ヲ指名ス委員ハ翌五日委員會ヲ開キ委員長及理事互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月一日報告書ヲ議長ニ提出セリ
三月四日本案ノ第一讀會ヲ續會ヲ開キ委員長中川幸太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ學制ノ改正ニ伴ヒマシタル所ノ、一年志願兵ニ關スル徵兵令ノ改正デアリマシテ、御承知ノ如ク極メテ簡單ナ案デゴザイマス、委員會ハ前後三回開キマシテ、慎重審議ノ上、全會一致ヲ以テ原案ノ通り可決致シマシタ、ドウカ本會ニ於キマシテモ、速ニ可決アラムコトヲ希望致シマス、此段御報告申上ゲマス

院議異議ナク第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ本案ヲ可決確定シ即日裁可ヲ奉請シ同時ニ其旨ヲ貴族院ニ通知ス次テ七月十六日法律第六十一號ヲ以テ公布セラレ

二五 輸出羽二重精練業法中改正法律案

輸出羽二重精練業法中左ノ通改正ス

第十四條中「輸出紋絳及輸出薄絹」ヲ「輸出薄絹、輸出縮緬、輸出壁、輸出絳絹及生絲ヲ以テ製織シタル輸出縹子」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ輸出縮緬、輸出壁、輸出紋絳ヲ除キタル輸出絳絹又ハ生絲ヲ以テ製織シタル輸出縹子ノ精練業ヲ營ム者ハ本法施行ノ日ヨリ一年內許可ヲ受ケスシテ其ノ業ヲ繼續スルコトヲ得

右ハ八年一月十八日貴族院ニ之ヲ提出ス同院ハ一月三十一日原案ヲ可決シ即日本院ニ之ヲ送付ス本院ハ二月四日本案ノ第一讀會ヲ開キ山本國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

輸出羽二重精練業法ハ、明治二十九年ニ制定ニ相成リマシタ、其當時ニ於キマシテハ、輸出縮緬、輸出壁、輸出絳絹及生絲ヲ以テ製織ヲ致シマシタル輸出縹子、此四ツノモノハ産額ガ極メテ僅少デアッタノデアリマス、然ルニ本邦絹織物業ガ段々進歩スルト共ニ、海外ニ於テ需要モ大ニ増シテ參リマシタ、然ルニ此精練品質ニ至リマシテ、大ニ非難ノ聲ガ高イノデゴザイマス、故ニ之ヲ現狀ノ儘ニ棄テ、置キマスルト、是マデ贏チ得タル聲價ヲ墜ス虞ガアリマス、故ニ輸出羽二重ト同一系統ニ在ル是等ノ織物ヲバ、輸出羽二重精練業法中ニ改正ヲ加ヘマシテ、サウシテソレト同様ナル施設ヲ爲シタイト思フノデゴザイマス、是ガ本改正法律案ヲ提出シタル所以デゴザイマス、願クバ御審議ノ上御協賛アラントラ願ヒマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長ハ之ヲ指名ス委員ハ翌五日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ同月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ翌二十日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長松井文太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ最近發達致シマシタ輸出縮緬並ニ輸出壁等ノ絹織物ニ對シテ、精練業者ヲ取締ル爲メ、即チ海外需要地ノ信用ヲ高メ、益、其輸出額ヲ増大ナラシメント云フ趣旨ノ案デゴザイマス、此法案ノ運用如何ニ依リマシテハ、斯業ノ發展上重大ナル關係ヲ有シマシテ、或ハ輸出絹織物ノ最も多額ヲ占メマスル所ノ、從來ノ羽二重ノ精練業法統一ニ影響ヲ來タス虞ガアリマス爲メニ、委員會ニ於キマシテハ、政府ニ對シマシテ種々質問應答ヲ致シマシタ、其要點ヲ二三茲ニ御報告ヲ致

シマス、我國ノ輸出織物ハ、大正七年度ニ羽二重ガ約一億萬圓、輸出縮緬並ニ輸出壁等約三千餘萬圓、其他ノ絹織物ヲ合計致シマスト、一億五六千萬圓ノ輸出ヲ見ルヤウナ盛況ヲ來タシタノデアリマス、是等ノ原因ニ就キマシテハ種々アラウト存ジマスルガ、是等ノ製品ニ對シマシテ檢査ヲ厲行シ、若クハ精練業法ヲ發布致サレテ精練業者ヲ取締ルト云フガ如ク、即チ粗製濫造若クハ不正ノ行爲ヲ防遏シマシタ所ノ效果ガ、最モ與ッテカアルモノト信ズル、併シ精練法發布當時精練業者、並ニ機業者ハ、非常ナル反對ヲ唱ヘマシテ、政府ガ此法案ヲ實施致サレルニ數多ノ苦心ト努力ヲ費サレタ、即チ福井縣ノ如キハ六箇年、石川縣ノ如キハ十箇年ヲ要シマシテ、漸クニシテ所期ノ目的ヲ達シマシテ、羽二重精練業ノ統一ヲ圖ラレタノデアリマス、斯様ニ其實施ノ當時、反對ヲ致シマシタケレドモ、今日ハ其效果甚大ナリト認メ、今回政府ガ發案ノ輸出縮緬並ニ輸出壁其他ノ絹織物ニ對シマシテ檢査ノ實施並ニ精練業法ノ改正ヲ、各生産地ノ同業組合若クハ日本輸出同業組合聯合會ヨリモ、政府ニ再三申請ヲ致シタノデアリマス、斯ク申請致シマスト同時ニ、從來ノ羽二重ノ精練業法ニ依ッテ、精練業者即チ製産額ニ伴ハヌ所ノ多數ノ精練業者ヲ統一スルト云フコトノ意味ニ於テ、改正ヲ要望シタノデアリマス、而シテ是等ノ輸出縮緬並ニ輸出縮緬ノ織物ニ對シマシテハ、昨年ノ七月ヨリ檢査ヲ實行致サレ、今復タ此法案ノ改正ヲ見ルコトニナッタノデアリマス、併ナガラ此精練業法ヲ實施致サレマスニ際シマシテ、單ニ法規ニ規定シテアリマス所ノ設備サヘ備ッテ居リサヘスレバ、之ヲ許可スルト云フコトニナリマシタナラバ、多年苦心ヲ致シマシタ所ノ、羽二重ノ精練ノ統一マデモ破壞スル虞ガアルノデアリマス、即チ輸出縮緬並ニ輸出縮緬等ノ織物ハ、羽二重ヨリハヨリ以上ノ高尚ナル織物デアリマスニ依ッテ、是等ノ機械ヲ以テ精練致シマスレバ、自然ニ羽二重ヲモ精練シ得ル設備ニナルノデアリマスルニ依ッテ、茲ニ十數年間苦心ヲ致サレマシタ所ノ、政府ノ苦心ヲ水泡ニ歸スル虞ガアリマス爲メニ、政府ハ生産地ノ狀況ノ如何ニ依ッテ取捨按排ヲシテ、依然羽二重ノ精練業法ヲ實施致シタ當時ノ方針ヲ以テ、之ヲ實施致スノデアルト云フコトヲ御答ニナッタノデアリマス(中略)政府ハ之ニ對シマシテ、幸ニ本案ガ兩院ヲ通過シタナラバ、三月上旬ヲ期シテ、其實施ニ入ル積リデアルト云

フ御答ガアッタノデアリマス、本案ハ全會一致ヲ以テ可決シタノデゴザイマス……
院議異議ナク讀會ノ順序ヲ省略シテ本案ヲ可決確定シ即日裁可ヲ奉請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通知ス三月二十四日法律第十九號ヲ以テ公布セラレ

二六 大麥、小麥及小麥粉ノ輸入稅減免ニ關スル法律案

政府ハ當分ノ内勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ大麥、小麥及小麥粉ノ輸入稅ヲ低減又ハ免除スルコトヲ得

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ八年二月五日本院ニ之ヲ提出ス同時ニ政府ヨリ緊急事件トシテ要求アリ依テ翌六日上程シ本案ノ第一讀會ヲ開キ松本政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

唯今日程ニ上リマシタ法律案ハ、食料ノ需要供給ヲ調節セシメマス爲メニ、大麥、小麥、小麥粉ノ輸入稅ヲ低減シ、或ハ免除シテ、輸入ノ便利ヲ圖ラントスル趣旨デゴザイマスル、何卒御審議ノ上御協賛アラントヲ希望致シマス

此ノ時議長ハ質疑ノ通告アル旨及順序ニ從ッテ之ヲ許可スル旨ヲ宣告ス

武藤金吉君ハ左ノ質疑ヲ爲ス

大麥、小麥、小麥粉ノ關稅ノ低減及免除ノ法律案ニ付キマシテ、二三ノ疑ヲ質シテ置キタイト思フノデアリマス、第一ニ當分ノ内期間ヲ定メ、勅令ヲ以テ之ヲ低減免除スルト云フ、其當分ノ内ト云フ期間ハ何月何日マデアリマスカ、ソレヲ承リタイ、第二ニハ其關稅定率ノ中デ、第二類ニ屬シテ居リマス穀物、澱粉ノ種類デアリマスガ、米及粳ハ既ニ關稅ヲ撤廢サレテアリマス、此度大麥、小麥及小麥粉ヲ免除シ、若クハ低減スルト云フコトデアリマス、此低減ノ範圍ハドウ云フコトニナルノデアリマスカ、關稅定率ヲ見マスレバ、大麥ハ百斤ニ付テ四十二錢、小麥ハ六十五錢、小麥粉ハ一圓六十五錢ニナツテ居リマス、此中デ小麥ト小麥粉ノ差ハ、之ヲ割合ニ致シマスレバ、從價約一割ト二割五分ニ當ツテ居リマス、此差ハ洵ニ大切ナ差デアリマシテ、此差ハドウ云フ標準ヲ以テ低減若クハ免除ヲセラレルモノデアリマスカ、明ニ承ツテ置キタイト思ヒマス、更ニ此大麥ヲ米ノ不足ノ場合ニ、食糧ト致シマスニ付キマシテハ、隨テ馬糧ニ他ノ物ヲ用キナケレバナラヌ、既ニ陸軍省ニ於キマシテハ、馬糧ニ高粱ヲ用キテ居ル、又玉蜀黍モ用キテ居ルサウデアリマスガ、是等ノ關稅ニ付キマシテハ、政府ハ研究ヲ爲サレタノデアリマスカ、研究ナサレテモ、是等ノ關稅ハ低減免除ノ必要ナシト考ヘラレタノデアリマスカ、承ツテ置キタイ、更ニ小麥ト同種類ノ物デアリマシテ、澱粉若クハ穀粉ノ中デ「オートミール」ノ如キ、若クハ「コンミール」ノ如キ、又ハ「タピオカ」、「マニオカ」是等ノ穀粉、澱粉ニ對シテ、其儘ニシテ置ク御考デアリマスカ、是等ハ雜穀ノ輸入稅ヲ撤廢シ、低減スルト云フコトニ付キマシテハ、其均衡ヲ得、又其必要ニ於テ最モ攻究ヲ要スル點デアリマスガ、唯今政府委員ノ御説明ニ於テハ、一向其要領ヲ得マセヌカラ、願クハ大切ナ問題デアリマシテ、殊ニ食糧問題ニ關聯シテ、現時ニ於キマシテ八釜數問題トナツテ居リマス、是等ノ御説明ハ能ク議場ニ徹底スルヤウニ、明細ニ御辯明アランコトヲ望ム次第デアリマス

山本國務大臣ハ主管大臣ニ代リ之ニ對シ左ノ如ク應答ス

第一ノ大麥、小麥及小麥粉ノ撤廢若クハ輕減ニ付キマシテ、當分ノ内期間ヲ定メ勅令ヲ以テ云々トアリマスルガ、昨年ノ十月ノ末ニ於キマシテ、米及粳ニ付キマシテ、緊急勅令ヲ以テ撤廢ヲ致シマシタガ、其期間ハ來ル十月ノ末ニナツテ居リマスル、ソレデ同様ニ今日米ノ供給ヲ潤澤ナラシムルト云フ爲メニ元ト起ツタモノデ、ソレニ隨伴致シマスル大麥、小麥、小麥粉ノ撤廢若クハ撤廢ヲスルト云フ案デゴザイマスル故ニ、矢張其主體トナツテ居リマスル米ト同様、本年ノ十月末新米ノ出來ル頃マデニ、之ヲ撤廢若クハ減稅ヲシタイト云フ精神デゴザイマスル、ソレカラ其小麥及小麥粉ノ此減稅及撤廢ノ割合デゴザイマスルガ、政府ニ於キマシテハ、小麥ニ對シマシテノ百斤七十七錢ノモノハ全廢ヲスルト云フ積リデゴザイマスル、ソレカラ小麥粉ノ百斤ニ付テ一圓八十七錢ニナツタト記憶シテ居リマスルガ、是ハ小麥ト凡ソ比例ヲ取レル程度ニ於キマシテ、減稅ヲシタイト云フ積リデゴザイマス、ソレカラ高粱其他雜穀ニ付テマデ其儘カト云フコトデゴザイマスルガ、政府ノ主ト致シマスル所ハ、成程此間接ニハ食糧ヲ助ケル物ハ、アリマスルガ、成ベク直接ニ食糧トナツテ、米ノ不足ヲ助ケルト云フ物ニ局限ヲシテ行キマシタナラバ、宜シカラウト云フ積リデゴザイマシテ、其外ノ物ニ於キマシテモ、成程間接ニハ食糧トナルベキ物モアリマスガ、其輸入ノ數ニ於キマシテモ、餘リ大キナコトガ見出シマセヌ、故ニ先ヅ此位ナ程度ニ於テヤツタナラバ適當デアラウト云フ考ニ於テ、今ノ三種類ニ定メマシタル次第デゴザイマス、御答ヲ申上ゲマス

更ニ武藤金吉君ハ左ノ質疑ヲ爲ス

尙ホ一ツ承リタイノデアリマスルガ、麥麩ハドウナサル御考ヘデアリマスカ、麥麩ハ小麥ヲ小麥粉ニスル間ノモノデアリマスガ、麥麩ハ是ハ關稅ノ中デ種類ガ別ノ所ニアリマスガ、百斤ニ付テ二十錢課稅セラレテ居リマス、麥麩ハソレデハ抛ッテ置クト云フ御意思デアリマスカ、是ハ小麥ト小麥粉トニ關係ヲ持ッテ居ルモノデアリマスカラ念ノ爲メニ伺ッテ置キマス

山本國務大臣ノ應答

麥麩ハ主ニ馬糧トナルベキモノデアリマシテ、成程相當ノ輸入ハアリマスガ、先ヅ此所マデハ及
バヌデモ宜カラウト云フ積リデ、之ヲ除キマシタル次第デアリマス

川崎克君ノ質疑

第一ハ、此今度ノ減免稅ノ種類ヲ單ニ大麥、小麥、小麥粉ニ限ラレタル理由ハ、ドウ云フ譯デア
カ、唯今ノ農商務大臣ノ御説明ニ依リマス、他ノ物ハ比較約輸入ガ少イカラ、其額ニ於テモ
金額ニ於テモ、數量ニ於テモ、少ナイカラト云フ理由ノヤウニ承ツタノデアリマス、大豆ノ如
キハ、其金額ニ於テモ、其數量ニ於テモ、大麥、小麥、ノ如キ物ニ比シテ、數量、金額、共ニ多イノデ
アリマス、之ヲ御除キニナツタ理由ハ、單ニ數量ノ高以外ニ在ルノデアルカ、ソレヲ承リタ
イノデアリマス、單ニ大麥ト云ハズ、斯ル食料品ノ補充ヲ爲ス問題ハ、一般的ニ普遍的ニ御遣リ
ニナツタ方ガ宜クハナイカト思フノデアリマス、第二ハ、小麥粉ノ減稅ヲセラルベキ程度デアリマ
スルガ、之ハ小麥粉ハ小麥ニ比シテ、從來ノ割合ニ依ルト云フコトノ御説明ヲ今承ツタノデアリ
マス、從來ノ例ト申シマス、明治三十二年以來、小麥ノ關稅定率約一割五分ニ對シテ、小麥
稅金ニナツテ居ルノデアリマス、唯、三十九年ニ於テ、小麥ノ關稅定率約一割五分ニ對シテ、小麥
粉ハ二割五分ニナツテ居リマス、近來ニナツテ此小麥ノ一割五分ニ對シテ、小麥粉ハ二割ニナ
テ居リマス、此定率法ノドチヲ御採リニナル御考デアルカ、之ヲハッキリ伺ツテ置キタイノ
デアリマス、之ヲ伺ヒマス、理由ハ申スマデモナク、小麥ハ小麥トシテ需要者ノ需要ヲ満足セシ
ムルコトハ出來ナイノデアツテ、小麥粉トナツテ現レナケレバナラヌ關係上、製粉能率ノ上ニ大ナ
ル關係ヲ有スル問題デアリマス、第三ハ、今度ノ大麥、小麥、小麥粉ニ付テ減免稅ヲ爲サレタ御
趣意ハ、生産地デアル濠洲、若クハ支那ノ小麥、小麥粉ヲ輸入セラレル御方針デアルト思ハル、ノ
デスガ、特ニ濠洲ハ千九百十五年以來、英吉利ヲ輸出ヲ禁ジマシテ以來、千九百十八年マデノ間
ニ、約二千二百萬石ノ小麥ヲ貯藏シテ居ルト云フコトデアリ、毎年二千萬石足ラズノ小麥ヲ產出
スルト云フコトデアリマス、濠洲ニハ澤山ナ小麥ノアルコトハ明カデア、又支那ノ山東省

ニ於テモ、年々一千萬石内外ノ小麥ヲ出シテ居リマス、之ヲ目的トシテ是ヨリ輸入スルノ
目的ノ爲メニ、此法律案ヲ出サレタ御趣意ト諒解ヲスルノデアリマス、單ニ關稅ノ低減免除
ノミニシテ、運賃ノ上ニ便利ヲ得ベキ船舶管理令ヲ御適用ニナルノ御考ガアルヤ否ヤ、若シオア
リニナルトスルナラバ、ドレダケノ程度ニ於テオヤリニナルノデアルカ、ソレヲ承リタイ、若シ
オヤリニナラヌトスルナラバ、何等カ他ニ補給ノ方法ヲ御考ニナツテ居ラル、ヤ否ヤ、是モ併セ
テ承リタイノデアリマス、最後ニ承ツテ置キタイノハ此法令ノ效力ヲシテ有效ナラシムル點ニ於
テモ、斯ノ如キ意味ニ於テ御提出ニナツタ趣意カラ考ヘテモ、兎ニ角之ニ依ツテ原料ハ豊富ニナリ、
製粉ハ潤澤ニナルト云フコトノ道行ダケハ來ルノデアリマス、其結果トシテ、果シテ普通ノ
純理カラ行ケバ、潤澤ニ供給セラルレバ、伴フテ値段ガ安クナルト云フコトハ當然デアリマス、
ケレドモ、特ニ製粉ニ付テハ、必ズシモサウ限定ノ出來ナイ事實ガ、今マデ澤山アルノデアリマ
ス、是ハ主トシテ公定市場ノ今日マデ無イ結果デアイカト思フノデアリマス、公定市場ガ出來テ、
取引ノ公定安全ガ保タレタナラバ……、當ニ内地間ノ取引ダケニ止マラズシテ、先物ノ取引ヲ爲
ス必要ノ上ニ於テモ、外國トノ取引ヲ結ブ上ニ於テモ、公正ナル取引市場ガ有ツタナラバ、先物
ノ見据ガ著キマスカラ、外國商人モ安心シテ取引ヲ締結スルコトガ出來ルノデアツテ、此法令ノ
精神ヲシテ實行力アラシムルモノトスルニハ、ドウシテモ公設市場ヲ必要トシナケレバナラヌ、
之ヲ附帶案トシナケレバナラヌト、斯様ニ思フノデアリマス、先程カラノ御説明ニ於テハ、此點
ニ論及セラレナカッタデアリマス、如何ナル御考デアルカ、ソレヲ承リタイ、單ニ此儘ニシ
テ減免稅ヲ爲サレテモ、取引ノ公正ヲ保タザル以上ハ龍ヲ畫イテ眼ヲ入レザル嫌ヲ免レヌ、願ク
ハ此點ニ付テ當局大臣ノ懇切ナル御答辯ヲ要求スル次第デアリマス

山本國務大臣ノ應答

御答致シマス、此輸入撤廢又ハ減稅ニ付キマシテ、大麥小麥粉ニ限ツテ、ソレヨリ尙ホ餘計ニ輸
入ノアル大豆ノ如キ物ヲ除イタノハ、何等ノ理由デアアルカト云フ事デゴザイマスガ、是ハ唯、輸

入ガ少ナイ爲メニ除イタ、輸入ガ多イガ爲メニ之レヲ入レタト限定スルヨリモ、寧ロ直接ニ米ノ不足ヲ補フト云フコトニ付テノ、其食糧ニ近イモノニ於テ、成ダケ限定シタイト云フコト、此三種ニ限リマシタル次第アリマス、成程大豆ノ如キ物ハ、滿洲ヨリ多額ノ輸入ガアリマスガ、其輸入ナルモノハ、多クハ或ハ製油、又糟トシテ肥料ノ如キモノニ於テ、多ク輸入スルノデアリマシテ、其方ノモノハ故ラ此所デ關稅ヲ動カサナクとも、相當ニ入ルモノデアルト云フ見込デゴザイマス、ソレデ其大豆ヲ供給スル場所ノ違ト、サウシテ今申ス如キ事デアリマス、故ニ故ラニ關稅ヲ動カサナクテ宜カラウト云フ爲メニ限リマシタノデゴザイマス、ソレカラ其割合ニ付キマシテハ、百斤ニ付テ一圓八十五錢ニナツテ居リマス、元ト此差等ヲ斯ク著ケマシタト云フコトノ源ニ遡リマス、成ベク製粉業ノ如キモノ、發達ヲ圖リタイト云フ爲メニ、斯ク差等ガアルノテゴザイマス、ソレデアリマスル故ニ、今日此二ツノ物ヲ廢減稅ヲ爲スニ付テモ、矢張小麥ノ關稅ヲ撤廢スル、ソレト同時ニ此小麥ノ粉ニ於テモ撤廢ハセスシテ、凡ソ小麥ノ其撤廢ニ比例シテ、サウシテ、小麥ノ粉ノ製造ニ害ヲ爲サナイ程度ニ於テヤリタイト云フ積リデアリマス、ソレカラ此小麥ヲ此所デ撤廢致シマスレバ、今日ハ支那ニ於キ、又殊ニ濠洲アタリハ、段々小麥ガ大分剩餘ガアルト云フヤウナコトモ耳ニ致シテ居リマスルガ故ニ、斯ク致シタナラバ、小麥ノ粉ガ相當ニ入ッテ來ルデアラウ、而シテ今日ノ日本ノ製粉業者ハ御承知ノ如ク隨分餘計アリマシテ、總テノ機械ヲ此所デ運轉シマスレバ、二千萬斤程モ製造シ得ル力ガアルデアリマスガ、今日ハドチラカト云フト、ソレガ五割六割位程ノ運轉デアツテ、十分ニ此機械ノ運轉ヲ爲サナイト云フ如キ状態デアリマスルガ故ニ、斯ク致シタナラバ、其方ニ付テモ十分ナル製造ガ出來得ルコトデアラウト考ヘル次第デゴザイマス、而シテ又小麥ノ粉ハ、内ニ於テ斯ク出來ルガ、今度ハ外ニ向ッテハドウカト云ヒマスルト、御承知ノ如ク省令ニ於テ米、粉、小麥粉ハ輸出ノ制限ヲシテ居リマシテ、一々政府ニ向ッテ届ケナケレバ、之ヲ外國ニ輸出スルコトガ出來ナイコトニ相成ッテ居ルノデゴザイマス、ソレ故ニ小麥ガ入ッテ參リマスレバ、製粉ノ方ガ段々盛ンニナル、盛ンニナルト同時ニ外

ニ出ルカト云ヘバ、今申ス如ク制限ガアツテ、内ノ價ヲ下ゲルコトニ於テ、大ニ效力ガアラウト思フノデアリマス、而シテ昨年頃此製粉ニ於キマシテ非常ナル動搖ガアツタ、其動搖ノアツタコトハ公定市場ガ無イ爲メデアラウト云フコトデ、ソレガ爲メニハ如何ナル考カト申スノデゴザイマス、一應御尤ナ御質問デアリマスガ、之ニ付キマシテハ、強チニ公定市場ガ茲ニ市場ノ無イ爲メニ、斯ノ如クナツタト、總テノモノヲ之ニ歸スルト云フコトハ如何デアラウカト思ヒマスル、併シソレハ兎ニ角今日ハ今申ス如ク、外國ニ出ル方ハ制限ヲシテ居ルノデゴザイマスルガ故ニ、斯ク致シマシタナラバ餘リ酷キ、外國ニ出ルトキト同ジヤウナル事ハ、必ズ起キマイト思ッテ居リマスガ、此小麥ノ市場ヲ立テマスルコトニ付キマシテハ、外カラモ其相談モアルヤウナコトデゴザイマスカラシテ、今日ハ考慮ノ中ニ置イテ居ル次第デアリマス、又關稅ヲ撤廢若クハ減免ヲ致シマシタナラバ、故ラニ船ニ於テ運賃ヲ低減シナクテモ宜カラウト云フ考デゴザイマス、ソレ故ニ其方ハ別段管理令ヲ以テ低減スル考ハアリマセヌ

次テ委員ノ選舉ハ大正七年勅令第三百七十三號(承諾ヲ求ムル件)外一件委員ニ併セ付托スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ
同日議事日程ヲ變更シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長鶴澤總明君ハ本案及承諾案(一)、(二)ヲ一括シテ委員會ノ經過及結果ニ付報告ヲ爲ス(第三項一、二參看)
院議異ナク本案ノ讀會ノ順序ヲ省略シテ原案ヲ可決確定シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月十八日可決奏上シ三月二十六日法律第二十八號ヲ以テ公布セラル

二七 朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中左ノ通改正ス
第二條中「四十五萬圓」ヲ「七十一萬圓」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ八年二月五日本院ニ之ヲ提出ス翌六日本案ノ第一讀會ヲ開キ古賀政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

朝鮮醫院並ニ濟生院ノ設立以來、大分患者ガ増加シマシテ、延人員ガ醫院ニ於テモ百萬人ニ増加シ、又濟生院ニ於テモ六七十萬人ノ増加ガアリマス、殊ニ近年物價ノ騰貴ニ伴ヒマシテ、非常ニ經費ヲ要スル次第ニナツテ、到底今日マデノ四十五萬圓ノ經費ヲ以テ、此維持ガ出來ナクナリマシタカラ、已ムヲ得ズ今回二十六萬圓ノ増加ヲ要求シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラントコトヲ望ミマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長ハ之ヲ指名ス委員ハ翌七日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同月十日報告書ヲ議長ニ提出セリ
二月十日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長山根正次君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案ノ委員會ノ結果ヲ報告致シマス、委員會ヲ開キマス
コトニ同、政府委員モ出ラレマシテ、サウシテ之ガ説明ヲナサレマシタ、サウシテ之ガ原案通り可決確定ヲ致シタノデゴザイマスカラ、右御報告ヲ致シマス、ドウカ委員會ノ通りニ可決確定セラレンコトヲ希望致シマス

院議異議ナク讀會ノ順序ヲ省略シテ可決確定シ即日貴族院ニ之ヲ送付ス同院ハ同月二十六日可決奏上シ三月十日法律第二號ヲ以テ公布セラル

二八 大正六年法律第六號中改正法律案

大正六年法律第六號中左ノ通改正ス

附則第五項中「大正九年一月一日」ヲ「大正八年四月一日」ニ、「大正八年十二月三十一日」ヲ「大正八年三月三十一日」ニ、「三分ノ二」ヲ「六分ノ一」ニ、「二分ノ一」ヲ「八分ノ一」ニ改ム

附則第六項中「大正十一年一月一日」ヲ「大正八年四月一日」ニ、「大正八年十二月三十一日」ヲ「大正八年三月三十一日」ニ、「八分ノ一」ヲ「三十二分ノ一」ニ改メ、「大正九年一月一日ヨリ大正九年十二月三十一日迄ハ同上ノ差額八分ノ二、大正十年一月一日ヨリ大正十年十二月三十一日迄ハ同上差額八分ノ四」ヲ削ル

附則第十三項中「大正九年一月一日」ヲ「大正八年四月一日」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照略)

右ハ八年二月七日本院ニ之ヲ提出ス二月十日日本案ノ第一讀會ヲ開キ田中國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

今回ノ法律改正案ヲ提出致シマシタ理由ト致シマシテハ、大正六年法律第六號ヲ以テ、明治四十四年ニ御改正ニナリマシタ恩給金額ヲ、其以前ノ恩給ヲ受クベキ者モ其金額ヲ受クルト云フコトニ規定サレテアルノデアリマス、然ルニ其當時ハ財政上ニ餘裕ノ無イ爲メニ、之ヲ五箇年ニ區分ヲシテ逐次其恩典ニ浴セシムルト云フコトニ、法律第六號ノ附則ニ定メテアリマス、去リナガラ今日ノ物價騰貴ノ状態ニ照シマシテ、五箇年ニ區分シテ此恩典ニ浴セシムルト云フコトハ、恩給受領者ノ爲メニハ頗ル苦痛ヲ惹ヘテ居ル次第デアリマス、ソレ故ニ今回此附則ヲ改正致シマシテ、大正八年四月一日ヨリ總テ五箇年ニ區分ヲ致シマシタモノヲ繰上ゲテ、一時ニ此恩典ニ浴セシメタイト云フノガ、本案提出ノ理由トゴザイマス、ドウカ御協賛下サランコトヲ願ヒマス
次テ委員ノ選舉ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長ハ之ヲ指名ス委員ハ同月十二日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌二十五日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長漆昌巖君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

此大正六年法律第六號ハ、軍人ノ恩給ニ關係シテ居ルモノデアリマス、此軍人ノ恩給ハ四十四年四月一日前ト一日後ト、此恩給ニ差ガアルノデアリマス、其差ガ即チ四十四年四月一日後ニ武官ノ増俸ガアツタガ爲メニ、恩給ニ差ガアル、其恩給ノ差ヲ均霑シテ貰ヒタイト云フコトガ、屢々本院ノ請願ニ上ツテ、終ニハ此大正六年法律第六號ヲ以テ、法律デハ均霑サレタノデアリマス、然ルニ實際ノ給與ニ於テハ漸次繰上ゲルヤウナ法ニナツテ居テ、一時ニ此給與ニ付テ均霑ガ出來テ居ラヌ、ソレヲ今回又々請願モアリ、政府モ今回ハ四月一日ヨリ全ク給與ノ均霑ヲスルコトノ方針ダト云フコトデゴザイマス、然ルニ委員ハ昨年非常ニ物價ノ暴騰ニ鑑ミテ、之ヲ本年一月カラ給與シテ欲シイト云フ希望デゴザイマシタ……即チ四月以後ニ是非シテ貰ハナケレバ、今更其遺線ニモ差支ヘルト云フコトデアッタノデアリマス、ソコデ委員ハ斯ウ云フ希望ヲ以テシタ、其希望ト申シマスノハ、何レ近キ將來ニ於テ、是非此文武官共ニ恩給者ニ向ツテハ、此給與原案ヲ可決致シタ方ノ改正ノアル時機ガアルデアラウ、其時ニハ……之ヲ直スコト、ソレカラ遺族ノ扶助料及ビ進級者ト云フ者ガ、其階級ダケノ恩給ヲ取ツテ居ラナイ……進級相當ノ階級ダケノ恩給ヲ與ヘラレルヤウニ御考慮アラントヲ希望スル、此希望ヲ以テ委員會ハ原案ヲ可決致シマシタ、此段御報告致シマス

院議異議ナク讀會ノ順序ヲ省略シテ原案ヲ可決確定シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月十日可決奏上シ三月二十四日法律第七號ヲ以テ公布セラル

二九 時局ノ影響ニ因ル地方税制限擴張ニ關スル法律案

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

北海道、府縣及市縣及市區町村ハ當分ノ内時局ノ影響ニ因リ必要ナル費用ニ充ツル爲内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シテ課税スルコトヲ得但シ左ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス

一 北海道、府縣ニ在リテハ明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ニ於テ北海道、府縣ニ付規定シタル各税ノ制限率又ハ制限額ノ百分ノ八十

一 市區町村ニ在リテハ明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ニ於テ市區町村ニ付規定シタル各税ノ制限率又ハ制限額ノ百分ノ六十

前項ノ規定ハ明治四十一年法律第三十七號第四條ノ場合ニ之ヲ準用ス

明治四十一年法律第三十七號第五條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ大正八年度ヨリ之ヲ施行ス

右ハ八年二月十日本院ニ之ヲ提出ス同月十三日本案ノ第一讀會ヲ開キ床次國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

地方税制限ニ關スル法律案、時局以來地方ノ財政ハ日ニ急迫ヲ致シテ居リマシテ、殊ニ最近甚シ

イ有様デゴザイマス、御承知ノ如ク地方ノ財源ノ中デ、最モ主ナル國税ノ附加税ハ一定ノ制限ガゴザイマス、仍テ此制限ヲ當分緩和致シマシテ、地方財政ノ急迫ヲ救ヒ、緩和ヲ圖リタイ趣意デゴザイマス、ドウカ御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

神谷卓男君ハ左ノ質疑ヲ爲ス

此法律案ハ、或ハ時局ニ相當ナル案カト認メルノデアリマス、併ナガラ兎モ地方民ノ負擔ヲ増加スルト云フコトデアリマスルガ故ニ、餘程慎重審議ヲ要スルト思フノデアリマス、故ニ大體ニ於テ茲ニ二三ノ質問ヲ提シ、政府當局ノ御答辯ヲ得タイト思ヒマス、第一ニ、同時ニ地方ニ於ケル特別税ヲ整理スル必要ハナイカドウカ、現在地方ノ特別税ヲ見マスルト云フト、如何ニモ零碎ナモノガアル、課税物件ヲ漁リ廻ッテ、殆ド租税ヲ徵收スル費用ト相償ハナイカト思フ程零碎ナ税ガアリマス、或縣ニ於テハ、易占税ト稱シ易者カラ税ヲ取ッテ居ル、又或府ニ於テハ、澤庵漬カラ税ヲ取ッテ居ル、農産物ニ對シテ課税ヲスルト云フコトハ、ヒドイデナイカト或ル府會議員ガ聽イタトキニ、澤庵漬ハ加工物デアルカラシテ、之ヲ取ッテ差支ナイト答ヘテ居ル、又邊陲ノ地方ニ於テ唯一ノ交通機關デアリ、又輸送機關デアル駄牛駄馬ニ對シテ、税ヲ取ッテ居ルト云フヤウナモノモアルノデアリマス、又或縣ニ於テハ金庫ニ課税シテ居ル處モアリマス、斯ノ如キ零碎ナ税ガ取ッテアルノミナラズ、國家ノ産業ノ方針ト矛盾シタ、背反シタル税ヲ取ッテ居ルモノモ亦在ルノデアリマス、例ヘバ一昨年ノ臨時議會ニ於テ農業倉庫ノ必要ヲ認メ、吾々ハ賛成ヲシテ二十五萬圓ノ補助金ヲ與ヘルコトニシテ、農業倉庫設立ヲ獎勵スルコトニ致シタノデアリマスルガ、或縣ニ於テハ、倉庫税ナルモノヲ今年カラ始メヤウトシテ居ルノデアリマス、又將來工業ノ發達ニ付テハ、電力ニ依ルト云フコトハ誰シモ言フコトデアリマスガ、此電力ニ課税ヲ課サウトシテ居ルノデアリマス、内務省カラシテ地方各廳ニ向ッテ、時局中重税ニ涉ラザル範圍ニ於テ、電力税ハ取ッテ差支ナイト云フ通達ヲシテ居リマス、然ルニ此通達ニ對シテハ、農商務大臣、大藏大臣、又逓信大臣モ、更ニ此議ニ與ッテ居ナイト云フ事實ガアルノデアリマス、又内務省ガ許サ

又以前ニ於テ、既ニ此電力稅ヲ取ツテ居ル所ノ縣ガアルノデアリマス、例ヘバ神奈川縣ノ如キデア
 リマス、斯ノ如クニ地方ノ特別稅ノ狀態ハ、錯亂シ案レテ居ルノミナラズ、國家社會ノ永遠ノ利
 益カラシテ考ヘテモ、甚ダ考慮シナケレバナラヌ稅ガアルノデアリマス、例ヘバ家屋稅ナル特別
 稅ハ、是ダケニハ制限ガ無イノデアリマス、從來制限ガ無イガ爲メニ、府縣及市町村ノ總テノ財
 政ノ皺ハ、皆ナ此家屋稅ニ集ツテ來テ、非常ナル重イ負擔トナツテ居ルノデアリマス、或縣ニ於テ
 ハ、此家屋ノ建築稅ヲ取ツテ居ル、又建築稅ニ加フルニ借家稅ヲ取ツテ居ル……斯ノ如キ地方ノ特別
 稅ノ狀態デアリマスルガ故ニ、是ハドウシテモ今日ニ於テ整理ヲ要スルト思フノデアリマス、無
 論時局ノ影響ノ爲メニ増加シタ地方公共團體ノ經費ノ財源ニ充ツル爲メニ、是等國稅ノ附加稅
 ノ制限ヲ増サレト云フコトハ、已ムヲ得ナイ事トハ思ヒマスルガ、之ヲ増スト同時ニ、是等ノ
 特別稅ノ整理ト云フコトニ十分盡サレル必要ガアルト思フノデアリマスガ、政府當局ハ之ヲ整
 理スルノ御決心アルカドウカト云フコトヲ、第二ニハ自治團ノ事業デアリマス、此自治團ノ事業
 施設經營ニ付テ、整理ヲ要スルモノハ無イカドウカ、吾々ノ見ル所ニ依リマスト云フト、市デス
 ベキ事ヲ縣ガシテ居ルモノガアル……府縣ガシテ居ルモノガアル、又町村ノスベキ事ヲ郡ガヤツ
 テ居ルモノモアリマス、地方ニ於テハ、申スマデモナク府縣及郡ト云フ官僚的ノ自治體ト、市町村
 ト云フ民本的ノ自治體トガ混在シテ居ルノデアリマスガ……此監督權ヲ擁シテ市町村ニ臨ミ、監督
 ノ名ノ下ニ種々ナル干涉ヲ與ヘ、指導ノ名ノ下ニ種々ナル壓迫ヲ加ヘテ居ルト云フコトハ、吾々
 ノヲ認メザルヲ得ナイ事實ガアルノデアリマス、甚シキニ至ツテハ、府縣知事若クハ郡長杯ハ、無
 能ノ名ヲ免レンガ爲メニ、又眼前ノ小功名ニ憧憬シテヤラヌデモ宜イ仕事ヲヤツテ居ル、殆ド市
 ノヤルベキ仕事ヲ奪取ツテ、自分ノ功名ノ爲メニシ、市町村デヤルベキ仕事ヲ郡自ラ進ンデ、自ラ
 ノ功名心ヲ満足セシメテ居ルト云フ場合ガ甚ダ多イノデアリマス……斯ノ如キ狀態ニ對シテハ、之
 ヲ整理スルノ必要ガアルト吾々ハ認メルノデアリマス、現在現存シテ居リマス此勅令二百八十
 五號ニ依リマス、東京、大阪、京都、横濱、神戸、名古屋ト云フヤウナ大都市ノ在ル府縣ニ於テ
 ハ府縣會内ニ市部府縣會ヲ設ケテ、幾ラデモ市カラシテ金ヲ徵收スルコトガ出來ルヤウニナツテ

居ルノデアリマス、市ニハ申スマデモナク市長ト云フ代表者ガアル、又是等ノ大都市ニハ、四十
 八名以上ノ議政機關ガ在ルノデアリマス、此議政機關ヤ代表者ニハ何等相談ヲセズシテ、十二名
 ノ過半数即チ七名ノ承諾ヲ得レバ、幾ラデモ市ニ經費ヲ分布シテ、幾ラデモ自ラ徵收スルコトガ
 出來ルト云フヤウナ勅令ガ、今日尙ホ現存シテ居ルノデアリマス、之ガ爲メニ自治團ヲ強迫スル
 コトノ出來ル茲ニ制度ガ現存シテ居ルノデアリマス、地方ニ於ケル府縣郡ナル官僚的ノ自治體、
 此市町村ナル民本的自治體、此間ニハ餘程整理ヲ要シ、調和ヲ要スル仕事ガアルト思フノデアリ
 マス、現在市町村ニ於キマシテ、旨クドウシテ自治制ガ行ハレナイト云フ事實ガ到ル處ニアリマ
 スガ、此自治制ガ行ハレナイト云フコトハ、詰マリ自治思想ガ幼稚デアルト云フコトヨリモ、寧
 ロ自治思想ガ大分進歩シテ、各市町村ガ自治體ノ權能ヲ自覺シテ來タカラシテ、此監督官廳ト互
 ニ争フ、監督官廳ノ監督ニ甘セズ、其指導ニ甘ジナイカラシテ、争ガ起ルト云フヤウナ事實モ幾
 ラモアルノデアリマスガ故ニ、此際ニ於テハ此稅ヲ課スル前ニ於テ、若クハ此稅ヲ課スルト同時
 ニ稅ヲ増加スルト同時ニ、此地方自治體ノ仕事ヲ是正シテ、整理スル必要ガアルカト思フノデア
 リマス、之ニ對スル政府ノ御考ハドウカ、之ヲ整理スル御考ガアルカドウカト云フコトヲ承ツテ
 置キタイノデアリマス、モウ一ツ、是ハ簡單デアリマス、府縣其他ノ公共團體ヲ通ジテ勸誘シ、若
 クハ強要スル寄附金ノ事デアリマス、此寄附金ハ非常ニ地方自治體ノ財源ヲ涸渴セシムルノ一
 ノ原因ニナツテ居ルノデアリマス、毎年地方長官會議ガ開カレ、地方長官ガ歸ルト郡市長會議ヲ
 開イテ、赤十字社ノ寄附金デアルトカ、愛國婦人會ノ寄附金デアルトカ、水難救濟會デアルトカ、
 或ハ濟生會デアルトカ、色々ノ寄附金ヲ募ルコトヲ郡市長ニ、強要ハ致シマセヌガ、兎ニ角之ヲ
 求メルノデアリマス、此結果地方ニ於テ、是等ノ會ニハ入ラナケレバナラヌヤウニシテ入ッテ居
 ル、現ニ郡長ヲ排斥スル唯一ノ手段ハ、赤十字社ヲ同盟シテ退クト云フコトハ、郡長ヲ排斥スル
 唯一ノ好手段トシテ利用セラレテ居ル狀況デアリマスガ、是等ノ寄附金ヲ強要スルト云フコト
 ハ、實ニ地方ノ財源ニ非常ナル關係ガアルノミナラズ、官紀ノ上ニモ、頗ル面白カラヌ影響ガア
 ルト私ハ信スルノデアリマス、申スマデモナク市町村制ニ依リマスルト、市町村ノ財政ハ、財產

收入、若クハ寄附金、或ハ手数料、是等ノモノヲ主トシテ、徵稅ハ副ニナツテ居リマス——從ニナツテ居リマス、現在ノ狀況ニ於テハ、徵稅ガ主ニナツテ居ル、冠履顛倒ノ狀況ニナツテ居ルノデ、自治團ヲ健全ニ發達セシメントスルニハ、此冠履顛倒ノ狀態ヲ一變シテ、是正スル必要ガアルト思ヒマス、以上述べた所ノ三點ハ之ヲ是正スルニ最モ必要ナル事ト思ヒマスルガ故ニ、當局大臣ノ御答ヲ得テ置キタイト思フノデアリマス

床次國務大臣ハ左ノ如ク應答ス

御答致シマス、特別稅ヲ整理スル考ガ有ルカ無イカ、斯ウ云フ御話デアリマシタガ、自然此法案ガ通過致シマスレバ、幾分カ地方ニ財源ガ出來ル譯デアリマスカラ、地方當局者ノ考ニ依ツテ、甚シイモノハ或ハ整理スルコトニナルカモ知レマセヌ、併ナガラ政府トシテ一般ニ地方特別稅ヲ整理スルト云フコトハ、今考ガゴザイマセヌ、是ハ國稅ニ相關シテ、其ニ整理スル時機ガアラウト思ヒマス、次ニ地方團體ノ事業ヲ整理スル考ガアルカト斯ウ云フ御話、無用ナ事業ヲヤツテ居ルモノガアレバ、監督上是等ノモノハ、獨リ此法案ノ通過如何ニ拘ラズ、自然整理ヲ致スベキモノト考ヘテ居リマス、併ナガラ唯今御質問中ニ、濫リニ府縣若クハ郡ガ市町村ヲ壓迫スルガ如キ御說デアリマシタガ、是ハ左様ナ事ハゴザイマセヌ、府縣若クハ郡モ一面ニ於テハ行政區劃デアリマスケレドモ、一面ニ於テハ御承知ノ如ク同ジク自治團體デアリマス、是等自治團體ガ決議スル事項、若クハ市町村ナル自治團體ガ執行スル所ノ事業ガ甚シク不都合ナラザル限リハ、之ヲ認ムルノハ相當ナ事デアラウト考ヘマス、第三點ノ御質問ハ能ク聽取リ兼ネマシタノデアリマスガ、地方ニ寄附金ノ募集ガ多イノハ困ル、斯ウ云フ御話デアッタカノ如ク受取リマシタガ、若シ左様ナ御說デアリマスレバ、當局モ極メテ御同感デアリマス

樋口秀雄君ハ本案ニ對スル質疑ノ通告ヲ撤回セリ

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(二十七名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十四日委員會ヲ開キ委

員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌二十五日本案及高等諸學校創設及擴張費支辨ニ關スル法律案(三〇)ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長三土忠造君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

時局ノ影響ニ依ル地方稅擴張ニ關スル法律案ニ付テ大體ヲ申上ゲマス、先ヅ道及府縣ノ方ノ附加稅增加額ヲ百分ノ八十ト致シテ、市町村ノ附加額ヲ百分ノ六十ト致シマシタ計算ノ基礎ハ時局ノ影響ノ起リマシタル直グ前ノ大正三年度ノ決算額ハ一億二百萬圓ニナツテ居ル、而シテ大正八年度ノ豫算ハ、一億四千六百萬圓ニナツテ居リマスデ、差引四千四百萬圓ダケ道及府縣ノ地方費ガ増加シテ居ル、其四千四百萬圓ノ中デ約一割ダケハ自然ノ經費ノ膨脹ト看做シマシテ、之ヲ控除致シマシタ、残り四千萬圓ガ時局ノ影響ニ依ツテ膨脹シタル經費ト見ル、即チ此四千萬圓ノ金ヲ、今マデ或ハ戶數割、戶別割ニ依ツテ色々工夫ヲ致シテ居リマシタガ、其爲メニ非常ニ市町村ガ——府縣ガ困ツテ居リマスカラシテ、之ヲ救済スル爲メデアリマスカラシテ、此四千萬圓ノ中デ、附加稅ニ何處マデ制限ヲ緩メタラ宜イカト云フコトヲ見マスルト云フト、矢張大正三年度以前ノ三箇年ノ平均ノ道及府縣ノ稅收入ノ總額ニ對シテ、地租所得稅、營業稅ノ附加稅ノ割合ヲ見マスルト云フト、五割一分八厘ニ當ツテ居ル、サウシマスルト云フト、右四千萬ノ五割一分八厘ハ二千七十二萬圓ニナル、此金額即チ二千七十二萬圓ヲ附加稅ノ擴張ニ依ツテ取ルト致シマスレバ其割合ハ七割五分二厘ニ當ル、即チ百分ノ七十五餘リニ當ルノデアリマスガ、之ヲ其大數カラ見マシテ百分ノ八十ト致シタ次第デアリマス、百分ノ八十マデノ制限額ヲ擴張致シマスルト云フト、之ニ依ツテ最高額マデ課シタ場合、即チ全國ノ道府縣ノ全部ガ最高額マデ附加致シマシタ場合ニ於テ、總額約二千二百萬圓ノ增收ヲ生ズル次第デアリマス、ソレカラ市町村ノ方モ矢張同様ノ計算デアリマスガ、唯、比較ガ市町村ノ大正八年度ノ豫算ハマダ能ク分ツテ居リマセヌガ故ニ、大正三

年度ノ決算ト大正七年度ノ豫算トヲ比較シテ割出シテ居ルノデアリマス、大正三年度ノ決算ハ二億七百八十萬圓デアリマシテ、大正七年度ノ豫算ハ二億八千九百八十萬圓デアリマシテ、其差額ガ八千二百萬圓ノ増加ニナツテ居リマス、其中デ矢張前同様ニ一割ダケガ自然ノ膨脹ト致シマルト、之ヲ控除シタル殘額七千四百萬圓ダケガ、時局ノ影響ニ依ツテ増加シタルモノト見做シ、而シテ市町村ニ於キマシテハ、大正三年以前三箇年間ノ平均ヲ見マスト云フト、地租、營業稅、所得稅ノ三稅ノ附加稅ガ、稅ノ總收入ニ對スル割合ハ二割四分七厘ニナツテ居リマスカラ、此割合ヲ以テ七千四百萬圓ノ中ノ附加稅ニ當リマスルモノヲ割出シテ見マスト、千七百八十萬圓デアアル、千七百八十萬圓ハ即チ現行附加稅ノ五割三分九厘ニ當リマスルガ故ニ、之ヲ繰上ゲテ六割、即チ百分ノ六十ト致シタノデアリマス、是ガ即チ計算ノ基礎デアリマシテ、之ニ依ツテ市町村ノ是モ全國ノ各市町村ガ何レモ最高ノ率マデ徵收ヲ致シマシタ場合ニ、千九百八十八萬圓ト云フ増收ヲ生ズル譯デアリマス、約二千萬圓ノ増收ヲ生ズル結果ニナルノデアリマス、故ニ此法律案ガ通過シテ、實際ニ適用シ、然モ道府縣各市村全部ガ最高マデ課稅致シマシタ場合ニ、兩方併セテ四千二百萬圓ニナルノデアリマス、ソコデ此増加致シマシタル歲入ヲ如何ナル用途ニ充テルカト申シマスルト云フト、此法律案ノ理由書ニアリマスル通りデ、時局ノ影響以外ノモノニハ使ハナイ、即チ主トシテ官吏及吏員ノ俸給、臨時手當、旅費ノ増額、ソレカラ物價騰貴ニ依ル應費及雜費ノ増額、物價騰貴ニ依ル是等自然團體ノ既定事業費ノ増額、是ダケニ充テル爲メニ、此制限ノ緩和ヲ致スノデアリマス(中略)第三ニ增收ノ結果、戶數割、戶別割等ニ如何ナル影響ガ及ブカト申シマスルト、既ニ府縣ニ於キマシテ相當ナル支出ヲ致シテ居リマスシ、市町村ニ於テモ相當ノ支出ヲ致シテ居リマスカラ、假ニ四千萬圓全部ガ增收セラルルト致シマスル場合ニハ、ソレ程要ラナイカラ、戶數割、戶別割等ハ幾分か減額サレルト云フ結果ニナルト云フコトデアリマス、右申シヤウナ次第デアリマスカラ、隨テ第四ノ問題タル內務、大藏兩大臣ガ許可ヲ與ヘマスル所ノ標準ハ、全ク時局ノ影響ニ因ル費用ノ外ニ充テル爲メニハ、増徴ハサセナイ、斯ウ云フコトニ劃然ト區別ヲシテ許可ヲ與ヘルコトニナツテ居ルサウデアリマス、ソレカラ當分ノ內ト書イテアリマ

スノハ、申スマデモナク時局ノ影響ノ續ク間ト云フコトデアリマス、委員會ニ於キマシテ、何故ニ當分ノ內ト限ツタカ、附加稅ノ制限ノ餘リ嚴密ナル爲メ、地方自治團體ガ困窮シテ居ルコトハ、モウ既ニ明瞭ナ事實デアルカラシテ、何故ニ永久法トシテ出サナカッタカト云フ意見モアリマシタガ、政府當局ニ於キマシテモ、勿論時局ノ影響ノミナラズ、相當地方稅ノ附加稅ノ制限ヲ緩和スル必要ヲ認メテ居ルケレドモ、今日ハ時局ノ場合デゴザイマスガ故ニ、地方ノ稅制ヲ整理スルニ付キマシテモ、本稅ノミナラズ總テヲ一括シテ整理致シタイ、又地方ノミナラズ、中央ノ國庫ノ收入ニ關スル稅ノ整理モ致サナケレバナリマセヌカラ、其場合ニ一括シテ致スノデアル、但シ此贊成ノ意見ヲ述ベラレマスル場合ニ川崎君ハ、此場合ニ於テ稅法ノ實施ト共ニ、戶數割ニモ制限ヲ加ヘロ、ソレカラ地方稅制ノ根本的整理ヲセラレヨ、ソレカラ市町村教育費國庫負擔額ヲ同時ズ新事業ノ爲メニモ附加稅ヲ課スルコトヲ許サレヨ、ソレカラ市町村教育費國庫負擔額ヲ同時ニ増加スベシ、ソレカラ武市君ノハ、市町村ニ於ケル負擔ノ均衡ヲ得セシメルニ、深甚ノ注意ヲ拂ハレンコトヲ望ム、斯ノ如キ希望ヲ述ベテ本案ニ贊成ヲセラレタノデアリマス、次ニ高等諸學校創設及擴張ニ關スル法律案ノ報告ヲ致シマス、是ハ御承知ノ通り條文トシテハ洵ニ簡單ナ案デアリマシテ、既ニ追加豫算ヲ以テ政府ガ請求サレテ居リマスル所ノ高等諸學校創設及擴張ニ要スル經費、總金額四千四百五十五萬圓ニナツテ居リマスルガ、其中一千萬圓ハ長多クモ御下賜金ノ御下附ガアリマシタノデ、其殘リ三千四百五十五萬圓ヲ限り、公債又ハ借入金ニ依ルコトヲ得ル、而シテ此公債及借入金ニ依リマシタ經費ヲ、帝國大學ノ擴張ニ使ヒマスル場合ニ於テ、本來ナラバ帝國大學特別會計ニ繰入レテ使用スベキデアリマスケレドモ、同様ナ手續ヲ致サズシテ、文部大臣ニ於テ直接ニ之ヲ使用スルコトヲ得ルト云フ權能ヲ得ヤウト云フ法律案デアリマス、(中略)此四千四百五十五萬圓ノ金ヲ以テ、六箇年間ニ完成シヤウト云フ學校ハ、全ク創設ニ屬スルモノト、既設學校ノ擴張ニ屬スルモノトノ二種アルノデアリマス、其中デ高等學校及專門諸學校ノ創設致シマスモノガ二十九校デアリマス、ソレカラ帝國大學ニ新ニ學部ヲ新設致スモノガ四ツ、專門學校ノ中デ東京高等商業學校ト、ソレカラ全國ニアリマスル五ツノ官立醫學專門學校ト

ヲ、各、單科大學ニ昇格致シマス、是ガ合セテ六ツ、專門學校ト大學ノ學部トヲ合セマスルト、總體デ三十九デアリマス、ソレカラ既設學校ノ擴張サレマスモノガ、實業專門學校ガ二校、帝國大學ノ學部ガ六ツ、之ヲ合セテ八ツデアリマス、是ダケヲ創設若クハ擴張致シマスル爲メニ、四千四百五十五萬圓ダケ要ルノデアリマスガ、尙ホ其經費ノ割當ヲ大別致シマスルト、前申上ゲマシタ全ク創設ニ屬スル二十九校ノ創立費ガ、二千五百萬圓、大學學部ノ創設、專門學校ノ昇格、大學專門學校ノ擴張、是ガ合計一千五百萬圓、其教官ノ養成費ガ約四百五十萬圓、斯ウナルノデアリマス、而シテ此法律案ニ依リマシテハ、寄附金ハ一文モ無イ場合ヲ見テアルノデアリマス、其中ニ寄附金ガアリマスレバ、ソレダケ此公債若クハ借入金ノ額ガ減少サレル譯デアリマス、寄附金ニ對シテハ、最モ各地方ノ人々ガ聽カント欲スル問題デアリマス、寄附金ニ對シマシテハ、政府ハ寄附ハ希望スル、且勸誘モスル、併シナガラ強要ハシナイト云フコトガ政府ノ言明デアリマス、ソレカラ次ニハ寄附ハ主トシテ個人、殊ニ富豪ノ寄附ヲ歡迎スル、併シ學校ノ寄附ノ爲メニ縣債ヲ募集スルコトハ許サナイ、然ラバ市債若クハ町債ハ成ベク御斷リヲシタイ、少シ緩ンデ居ルノデアリマス、殘リマス問題ハ、寄附金ガ無クテモ、政府ハ右計畫致シテ居リマス學校ノ數、並ニソレヲ設置スベキ地方ハ大體定メテ居リマスカラ、其計畫ニ依ッテ遂行シテ行ク、茲ニ御下賜金ニ就キマシテ、此點ハ明瞭ニ致シテ置キタイト思フノデアリマス、御下賜金ヲ高等教育機關ノ創設擴張ノミニ使ッテ、他ノ普通教育ノ方ニ使フ譯ニハ行カヌノカ、恰モ政府ガ普通教育ノ方ヲ輕視スルノ嫌ガアルノデハナイカト云フヤウナ質問モアリマシタガ、是ハ政府ガ高等教育機關ノ擴張ノ計畫ヲシテ居ルト云フコトヲ、聞食サレテノ御下賜デアリマスガ故ニ、他ニハ用キルコトガ出來ヌモノデアリマス、然ラバ高等教育機關ノ擴張ニ使ヘルナラバ、私立學校ノ方へ、御下賜金ヲ分配スル譯ニハ行カヌト云フ御質問ガアリマシタガ、即チ政府ノ計畫ニ對シテノ御下賜金デアリマス故ニ、他ニ用キル譯ニハ行カナイ、斯ウ云フコトデアリマスガ、種々ノ御意見ガアリマシテ、憲政會ノ横田孝史君ハ、此擴張ハ洵ニ結構デアアルガ、官立學校ノ爲メニ非常ニ寄附ヲ漁ッテ歩キマ

スト云フト、私立學校ニ對スル寄附金ガ減殺セララル、虞ガアル、第二ニハ普通教育ヲ輕視スル嫌ガアル、第二ニハ理化學研究發明等ニ必要ナル施設ノ見ルベキモノガ無イコトヲ遺憾トスル、故ニ政府ニ於キマシテハ、此計畫ヲ遂行スルト同時ニ、是等ノ諸點ニ就テモ十分ニ意ヲ用キラレンコトヲ望ムト、斯ウ云フコトデアリマシタ、大津淳一郎君ハ尙ホ之ニ付加ヘマシテ、學校増設計畫ハ刻下ノ必要ト云フヨリモ、入學志望者ノ數ニ重キヲ置イタト云フ嫌ガアル、ソレカラ高等教育機關ノ増設ト共ニ、中等以下ノ國民ノ教育ニモ、十分ノ力ヲ用キラレンコトヲ望ムト云フヤウナ希望デアリマス、河野徹志君ハ、此計畫ノ爲メニ私立學校ヲ壓迫スル虞ガ無キニシモ非ズデアアルガ、之ヲ保護獎勵スベシト云フ文部大臣ノ言明ニ信賴シテ、本案ニ贊成ヲ致ス、斯ウ云フヤウナ御意見デアリマシタ、尙ホ政府ハ高等教育ト普通教育トノ間ニ、何等輕重本末ノ別ヲ持ッテ居ラヌ、隨テ普通教育ニ對シテモ、是カラ將來ニ於キマシテモ、十分盡ス所ガアル、唯、此高等諸學校ノ擴張ヲ急務ナリト致シマシタノハ、是マデ毎年數萬ノ子弟ガ學校ノ門ニ集ッテ、激烈ナル競争試験ヲ通過スルコトガ出來ズシテ路傍ニ呻吟シテ居ル、此狀態ヲ救済スル爲メニ之ヲ急務トシタノデアアル、以上ノヤウナ次第デアリマシテ、右兩案トモ委員會ハ滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告致シマス

議長ハ發言ノ通告アル旨及之ヲ許ス旨ヲ宣告ス

大津淳一郎君ノ演說

本員ハ時局ノ影響ニ因ル地方税制限擴張ニ關スル法律案、此案ニ對シテ贊成ト共ニ、政府ニ意思ノ在ル所ヲ警告致シテ置キタイト云フノデアリマス、此案ハ地方税、所謂道府縣並ニ町村ニ對スル地租、營業税、所得税ノ三種ニ對スル附加税ノ制限ヲ引上ゲテ、約四千萬圓ノ増徴ヲ計ッテ其四千萬圓ノ金ハ、時局ノ影響ニ係ル官公吏等ノ増俸ニ充テルノデアアル、其内譯ヲ質問致シテ見マスルト、四千萬圓許リノ增收ノ金額ノ中、二千五百五十萬圓ハ中等、初等ノ教員ノ俸給ニ充テタイ

ト云フノデアリマス、其骨子タルベキモノハ、中等初等ノ教員ノ増俸ニ充テタイト云フノガ、此案ノ骨子ニナツテ居ルト云フコトヲ想像スルニ難クナイノデアリマス、中等及初等教育ノ教師ノ俸給ト云フ方ニ至リマスルト、高等教育機關ノ擴張ノ法案ト對照シテ見マスレバ、頗ル疑ガ起ルノデアリマス、一體現内閣ハ、教育ニ對シテハ從來ノ方針ヲ一變スルノデアアル、……現レ來ツタ所ニ依テ見マスレバ、悉ク改惡、世ノ時運ニ伴ハザル、世界ノ大勢ニ伴ハザル所ノ方針ヲ執リ來ツテ居ルノデアリマス、昨年第四十議會ニ於テ政府ガ提出セラレタ所ノ、小學教員俸給ノ國庫負擔法ト云フモノハ、如何ナル規定ニナツテ居ルカハ、諸君ハ御承知ノ筈デアリマス、此規定ニ依ツテ見マスルト、第一條ニ於テ、小學教員ノ俸給ノ一部ハ、國庫之ヲ負擔スルト云フコトヲ教育ノ方針トシテ居ルノデアリマス、第二條政府ノ支出額ハ、毎年一千萬圓ヲ下ラザルモノトスト云フコトニ決定シテ居リマス、是ガ即チ國民教育基礎教育ト云フモノニ對シテハ、國家ガ最モ力ヲ盡スベシト云フ方針ニ定ツテ居ルノデアリマス、又此案ヲ提出スル時ニ、前文部大臣ノ說明ハ如何ニ說明サレテ居ルカト云ヘバ「國民教育ヲ全然市町村ノ負擔ニ委スルト云フコトハ本旨ニ違ヒマスノデ、明治五年ノ學制頒布ノ當時ニ於テ、既ニ國庫カラ相當ノ支出ヲ致スト云フ趣旨ニ定ツテ居リマス、續イテ其趣旨ニ依ツテ國庫モ支出シテ居ッタノデアリマス、明治十年西南戰爭ノ役ヨリシテ、國庫支出ト云フコトハ、財政ノ已ムヲ得ザルガ爲メニ中止シテ居ッタノデアアル、愈々今回復活シテ國庫ト地方費トニ依ツテ基礎教育ヲ完全ニ行フノデアアル」ト云フ說明ヲ致シテ居ル、是ハ單リ前内閣ガ其方針ヲ執ツタバカリデナク、國民全體ガ其希望ヲ持ツテ居ッタコトハ、一昨年ノ全國教育會議ニ於テモ「小學教員ノ俸給ハ是ハ全部國庫ノ負擔タラシムヘシ」ト云フ決議ヲシテ、文部省ニ持出シタノデアリマス、又昨年此法案ヲ提出スル以前ニ當ツテ、政府ノ機關タル臨時教育會議ニ諮問ニナツタ、其答申ノ第一トシテハ「小學教員ノ俸給ハ半額ニ達スルマデ國庫ガ支辨スヘシ」ト云フ答申ヲ致シテ居ルノデアリマス、加之政友會ノ諸君ハ尙ホソレヨリ以前、一昨年第三十九議會ニ於テハ、斯様ナ建議案ヲ提出シテ居ルノデアアル「町村費ハ益々多キヲ加フルノ勢ナリ是ガ爲ニ地方ノ衰微ヲ招キ自治團體ノ發達ヲ妨グルノ 徵候歷々見ルベシ翻ツテ世界列國ノ實例ヲ見ルニ

小學教育費ハ國庫ニ於テ其半ヲ支辨スルモノ多ク我國ノ如ク其全部ヲ町村ニ負擔セシムルモノ一モアルコトナシ」是ハ……而シテ此說明ハ提出者ノ一人元田肇君ガ說明シテ「唯、一言政府ニ向ツテ申述ベテ置キタイ事ガアリマス、本案ヲ提出シタル所以ハ、決シテ一朝一夕ノ考慮ヨリ出タノデハナイノデアアル」ト是ガ政友會ノ諸君モ亦基礎教育タル小學教育ニ向ツテハ、國庫ガ相當ノ負擔ヲスベキガ當然デアアル、世界各國市町村費ニ委ネテ居ル所ハ一モ無イノデアアル、斯様ナ事ハ明ニ政友會諸君ノ認メテ居ツテ、建議案マデモ提出シタノデアリマス、之ヲ見テモ、基礎教育ニ重キヲ置イテ、サウシテ國庫ガ相當ノ負擔ヲシテ行クト云フコトハ、天下ノ輿論デアツテ、教育ノ方針又茲ニ確定ヲシテ居ル、近來ニ至ツテモ、矢張此趣意ガ一層明確ニ確定致シテ居リマスニモ拘ラズ、何ヲ苦ンデ政府ハ此點ニ向ツテハ、國庫ノ支出ヲ頗ル避ケテ、國庫ノ支出ヲ地方稅制限ノ擴張ニ轉嫁シテ、國庫經濟ハ知ラヌ振ヲシテ、而シテ高等教育機關ノ擴張案ヲ立テ來ツタノデアアル、世界各國何レノ國ガ大學、高等教育機關ヲ悉ク官學、政府ノ設立ニシテ居ルト云フ國ガ何處ノ國ニアルカ、世界各國總テ私立ヲ歡迎シ、國庫ハ全ク國家所要ノ學者ノ必要ガアル爲メニ、官學ナル大學ヲ設立シテ居ルト云フノガ、世界ノ各國ノ狀勢デアリマス、而シテ政府ガ今同計畫シタル高等教育機關ノ有様ハ何ノ有様デアルカ、說明書ニ依レバ總テノ學校ノ計畫ハ志願者ノ多少ニ依ツテ學校ヲ設置スルト云フ說明ヨリ外、國家ノ必要如何ト云フ所ノ調査ハ、一モ說明ニモ亦質問ノ答辯ニモ無イノデアリマス、全ク四萬、五萬學生ガ支ヘテ居ルカラ、之ヲ收容スベキ學校ハ全ク焦眉ヲ急デアルト斯ウ言フノデ、國家官學ノ方針ニ依レバ、假令志願者ガ無シト雖モ、國家ガ此點ニ於テ高等ナル教育ヲ受ケタル人士ノ必要ガアルト云ヘバ、大學ヲ立テナクテハナラナイ、又如何程志願者ガアルトシテモ、國家ニ於テ必要ト認メザル所ノ學術ヲ教授スル學校ハ、決シテ立テテ居ル國ハ無イノデアリマス、是ハ皆ナ私學ガヤル仕事、所謂高等ナル教育ヲ受クル者ハ、少數ノ國民、富豪ノ子弟、自己ノ威力名望ヲ博センガ爲メノ學術デアツテ、國ガ國民全體ヨリ徵發スル所ノ經費ヲ以テ、之ヲ養成スルト云フモノデハ決シテナイノデアリマス、斯ノ如ク大學ヲ作ル方ニ向ツテハ、一時ニ尨大ナル豫算ヲ提出シテ、基礎教育ノ方ニ向ツテハ、更ニ國家ハ力ヲ盡サズシテ、政

友會諸君ノ建議案ニ現レテ居ル如ク、世界ノ各國ハ一ニテ申セバ、佛蘭西ノ如キハ半額以上ヲ國庫ノ負擔トシ、又英吉利ヲ見マスレバ三分ノ一強、戰爭前ノ獨逸ヲ見テモ亦三分ノ一以上ハ即チ國家ガ支出シテ居ルデアリマス、文部大臣ガ如何ニ答辯ヲシテ居ルカト云ヘバ、小學校ノ經費ハ町村ノ負擔、中學校中等教育ノ經費ハ府縣ノ負擔トスルト云フコトガ、個人トシテノ考デアルト云フコトヲ述ベテ居ラレルデアリマス、今頃ニ至ツテ假令個人ニモセヨ、斯様ナ御考ヲ持ツテ居ラレルト云フコトハ、頗ル驚入ツタ話デアアル、教育ハ人ヲ造ルノデアアル、人ヲ養成スルノデアルト云フコトヲ述ベテ居ラレマスガ、其人ヲ養成スルノニ、町村自治體ノ爲メニ人ヲ養成スルノデアアルカ、國家國民トシテノ必要ヨリ人ヲ養成スルノデアアルカ、自治體ノ爲メニモ、智徳アル人格アル國民ノ必要ハ勿論ノ事デアリマスケレドモ、國家トシテ亦智育徳育ニ依ツテ、完全ナル人格ヲ有スル國民ノ必要ト云フコトハ申スマデモナイ、是ガ即チ歐洲戰亂ノ影響ニ依ツテ、直接ニ教訓ヲ得タル教育ノ状態デアリマス、本員等ハ昨年ノ小學校教員俸給ノ負擔ヲ定メマス時ニ當ツテモ、必ズシモ地方費ノ輕減ヲ主張シタノデアリマス、地方費及地方費ニ屬スル所ノ中等ノ教育機關ノ經費、及小學校ノ經費ヲ合セレバ、約一億圓ニ達シテ居ルノガ、是ガ現在ノ地方費ノ負擔デアアル、此上ニ國庫ハ地方費ノ負擔ニ屬スルト云フコトハ、頗ル國庫ノ教育ニ對スル冷淡ト云フコトヲ示スノデアアルガ故ニ、是ハ教育ノ方針ヲ政府ガ誤ツテ居ル所ニ對シ、警告ヲスルノデアリマス、町村費ニ於テモ、府縣費ニ於テモ中等初等ノ教育ニ向ツテ費用ノ支出ヲシナケレバナラヌト云フコトハ、吾々モ感ジテ居リマス、併ナガラ今日ノ我國ノ初等教育ノ如キハ頗ル不完全ヲ免レナイノデアアル、吾々ハ常ニ主張シテ居ル如ク、世界各國、我國ノ如ク初等教育ニ六箇年ノ義務年限ト云フ國ハ、何レノ國ニモ無イノデアアル、我國モ早晚義務年限ヲ擴張シテ八箇年トスルト云フコトハ、是ハ當然ノ趨勢ニ屬シテ居ルノデアアル、前内閣ノ如キハシタガ、唯、地方費ヲ増加セシムルト云フコトヲ憂ヘテ居ッタノデアリマス、併ナガラ政府ガ今回ノ如キ計畫ヲ教育ノ上ニ立テヤウト云フノデアアルナラバ、此制限擴張ヨリ生ズル一千一百萬圓ノ金ヲ、義務教育ノ擴張費ニ充テルト云フガ如キコトニ至リマシタナラバ、是ハ容易ニ出來ルノデアリマス、

又國庫ガ一千萬圓ノ支出ヲ敢テスルト云フ如クナレバ、假令是ハ一箇年ヲ限ル臨時費ト雖モ、學校ノ増設ノ如キハ容易ニ出來ルノデゴザイマス、況ヤ御内帑金ノ御下賜ガ多少アリトスレバ、輒スク八箇年ノ義務教育ノ如キハ出來ルノデアリマス、然ルニ斯様ニ不完全ナ基礎教育ノ改良ヲシテ行カウト云フ點ニ向ツテハ、更ニ現内閣ハ力ヲ盡サズシテ、少數ナル國民機關タル所ノ高等教育ニ力ヲ盡シテ、基礎教育タルモノヲ閉却スルト云フガ如キハ、教育ノ方針ヲ頗ル誤ツテ居ルモノデアアル、(中略)假令今日ハ時局ノ影響ニ因ツテ、多少地方ノ經濟ハ餘裕ヲ生ジタトシマシテモ、是ハ一時的ノ事柄デ時局ハ將ニ完結セントスルノデアリマス、一昨年ヨリ昨年ニ掛ケテ、諸君ガ地方費ノ爲メニ町村ガ極メテ困難ニ陥ツテ居ルカラト、地方費ノ輕減ヲ絶叫シテ居ラレタ諸君ガ、今日直チニ此時局ノ影響ニ名ヲ藉リテ、而シテ四千萬圓ノ増徴ヲ地方人民ニ強ユルト云フガ如キハ何事デアアル、吾々ハ決シテ地方ノ人民ガ、此四千萬圓ノ負擔ニ苦ムトハ信ジテ居ラヌケレドモ、政友會ノ諸君ハ、地方ノ人民ハ負擔ニ苦ンデ居ルカラ、輕減ヲシト云フコトヲ絶叫シタノデアアリマセヌカ、吾々ハ負擔ニ苦ンデ居ルトハ見ナイケレドモ、國家ガ相當ノ經費ヲ基礎教育ニ負擔スルト云フコトハ當然デアアル、既ニ一億圓ノ負擔ヲシテ居ル者ニ向ツテ國家ハ何等ノ支出ノ無イト云フコトハ、不道理デアアルト云フ故ヲ以テ、一億圓ニ對シテ、本年度ハ僅ニ一千萬圓ノ支出ガアツタゲデアリマス、是ハ國民全體ノ被ルベキ利益ノ教育ニ向ツテハ、國家ハ一千萬圓、而シテ少數ナル國民ノ受クベキ利益ノ高等教育機關ニ向ツテハ、前後ヲ通ジテ殆ド毎年二千萬圓ノ金ヲ支出スルニ至ルノデアリマス、昨年ハ國民ノ負擔ニ苦シム、地方費ノ負擔ニ苦シムト云フコトヲ絶叫シテ置キナガラ、今日ハ政友會内閣ガ、地方費ノ負擔ヲ増徴シヤウト云フ案ヲ提出スルガ如キハ、頗ル矛盾極ツタ所ノ行動ト言ハナケレバナラヌノデアリマス、昨年四十議會ニ於テ提出シタル場合ニ當ツテ、今ノ文部大臣中橋君ハ、昨年ノ教育案ノ時ノ委員長デアリマス、如何ナル事ノ報告ヲ致シテ居ッタカト申セバ、「二三點ニ於テ政府當局ノ言明ヲ得マシタ、當局ノ同意ヲ得タノデアリマス、其言明ヲ得マシタノハ、一千萬圓ノ支出金額ヲ、速ニ二千萬圓近クニシテ貰ヒタイト云フコトノ希望ヲ述ベタノデアリマスルガ、當局者ハ之ニ對シマシテ、出來ルダケ速ニ其希

望ノ達スルヤウニ努メマスト云フ、言明ヲ得マシタノデアリマス、斯様ニ文部大臣ハ、速ニ一千萬圓ヲ二千萬圓ニサセルト云フコトノ言明ヲ得タト云フ、欣ンデ議會ニ報告ヲシテ居ルノデアリマス、而シテ自己ガ文部大臣ニナレバ、之ヲ忘レタルガ如ク少シモ此點ハ顧ミナイ、ソレカラ政友會ノ諸君ハ、又此委員會ニ於テ、一千萬圓中百萬圓ヲ貧弱ナル町村ニ割振ルコトノ金額ヲ除キ九百萬圓中、町村ノ負擔輕減ニ大部分ヲ用キラレンコトヲ望ミマス、(中略)國家ハ多額ノ金ヲ亦文部大臣ノ許諾ヲ受ケタノデアルト云フ報告ヲ、中橋文部大臣ガ致シテ居ルノデアリマス、實ニ其變説改論モ、此ニ至ッテ甚シト私ハ言ハナケレバナラヌノデアリマス、(中略)國家ハ多額ノ金ヲ支出セヨト云フ議論ヲ致シテ置キナガラ、今年ハ却ッテ地方稅ヲ増徴シテ、國家ガ支出スベキ金ヲ郡村費ニ轉嫁シテ、而シテ漫然トシテ之ヲ歡ンデ居ルト云フハ、何等ノ變説改論ダ、斯様ナ事ヲシテ居ルト云フコトハ、現内閣即チ教育ニ對スル方針ハ、基礎教育カラ大學ノ教育マデヲ通ジテ、如何ナル方針ヲ以テ教育ヲ振興サセルカト云フコトノ方針ガ一ツモ定ッテ居ラヌノデアアル、原首相ハ各處ノ演説ニ於テ、吾々ハ從來執リ來ッタ方針ニ依ッテ教育ノ擴張ヲ圖ルノデアルト説明シテ居ル、之ヲ四大政綱ノ一ツトシテ居ルト云フコトデアリマスケレドモ、從來執リ來ッタ方針ハ如何ナルモノダ、唯、高等教育機關ダケヲ拵ヘテ其他ノ中等教育初等教育ノ事ヲ質問シテ説明ヲ求ムレバ、唯、考慮中ト云フ考慮中ト云フハ即チ政綱ノ一策デアルトハ是亦奇妙ナ政綱ノ一ツト言ハナケレバナラヌノデアアル、教育ノ擴張ト云フ何人モ反對セザル言葉ヲ藉リテ吾々ノ方針トスル、政綱トスルト云フノデアアル、何等一點教育ニ對スル方針ノ定タルモノガ無イト云フコトヲ白狀致シテ居ルモノト申シテ差支ナイト思ヒマス、(中略)政府ハ速ニ此一時的増徴ト云フコトヲ御止メニシテ、當然國家ガ支出スベキ世界ノ大勢ニ依リ、我國ノ輿論ニ依ッテ、而シテ基礎教育ニ向ッテ、二千萬圓ハ勿論ノコト、其以上ノ支出ヲシ、併セテ中等教育ニ向ッテモ、亦國家ガ要求スル所ノ教育デアアルガ故ニ、亦國家ガ支出スルト云フコトハ當然ノ事トシテ、政府ハ此方針ニ依リ、高等教育機關ハ、早ヤ既ニ今年度ノ計畫ニ依ッテ、是以上私學ヲ壓迫セズ、成ベク私學ニ依ッテ而シテ高等ノ教育ハ課スベキモノト、吾々本案ニ對シテハ、否決シタイ無論精神デアアルガ、之ヲ否

決シテ、其代リニ國庫ノ支出ヲセヨト言ヒマシタナラバ、既ニ豫算案ノ通過シタル今日、財政計畫ノ上ニ於テ、難キヲ現内閣ニ責ムルモノデアアル、一面之ヲ止メルト云フコトモ、亦實際地方ノ狀況ニ於テ苦シキ事情ガアルガ故ニ、已ムヲ得ザル所ヨリシテ之ヲ一時贊成ヲ致シテ、後年度ニ於テ確的ナル教育ノ方針ヲ立テ、議會ニ臨マレンコトヲ警告致シテ置クモノデアリマス

他ニ討論ナク採決ニ及ヒ兩案各別ニ採決シ本案(二九)ハ全會一致ヲ以テ議會ノ順序ヲ省略シテ委員長報告ノ通可決議定シ即日貴族院ニ之ヲ送付ス同院ハ三月二十一日可決奏上シ三月二十八日法律第二十九號ヲ以テ公布セラル

三〇 高等諸學校創設及擴張費支辨ニ關スル法律案

政府ハ大正八年度ヨリ大正十三年度ニ至ル六年度ニ於テ高等諸學校創設及擴張費支辨ノ爲總額三千四百五十五萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得
前項ノ經費中帝國大學ノ擴張ニ關スルモノニ付テハ帝國大學特別會計法ヲ適用セス
右ハ八年二月十日本院ニ之ヲ提出ス同月十五日日本案ノ第一讀會ヲ開キ中橋國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

高等諸學校創設及擴張費支辨ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、本案ト同日ニ大正八年度高等諸學校ノ創設及擴張費ノ追加豫算ガ提出ニナッテ居リマス、其追加豫算ハ御覽ノ通りニ

四千四百五十萬圓ト云フ資本金ヲ以テ、六箇年度ニ各高等教育機關ヲ設備シタイト云フコトデア
 リマス、此四千四百五十萬圓ノ財源ハ、豫テ御報告ヲ致シマシタ御下賜金一千萬圓、及借入金公
 債三千四百五十萬圓ノ二ツヲ合セテ、是ガ財源ニシタイト云フ計畫ニナツテ居リマス、其借入金
 及公債募集ニ致シマスルガ爲メニ、本案ヲ提出致シタ譯デアリマスルガ、一應御參考ニ御話ヲ
 申上ゲデ置キタイト思ヒマスル、本年ノ教育行政ニ對シマスル計畫ハ、各種ノモノガアリマスル
 ガ、其主タル目的ハ、一ハ教官ノ待遇ヲ厚クシタイト云フ趣意ニ出デマシテ、總豫算ニ於テ既ニ
 高等學校ノ教官ノ俸給ノ二割増ト云フモノヲ見込ミ、其外ニ又一般官吏ト同様、五割ノ臨時手當
 ヲ來年度ニ於テ支給スルト云フ計畫ニナツテ居リマス、又中等教育ニ從事スル教官及普通教育ニ
 從事致シマスル教官ニ對シマシテモ、矢張同様ニ相當ナル増給、若クハ臨時手當ヲ支給致シタイ
 ト云フ計畫ヲ致シマシタノデ、ソレハ時局ノ影響ニ依ルル地方稅制限擴張ニ關スル法律案ト云フ
 モノニ依リマシテ、地方稅ノ制限ヲ緩メマシテ、其財源ニ依リマシテ、中等教育ニ關係致シマス
 ル教官、及初等教育ニ從事スル教官ノ待遇ニ對スル經費ヲ生出シタイト、斯ウ云フコトニナツテ
 居ルノデアリマス、而シテ一方ニハ、此高等學校増設ヲ緊急必要ナリト認メマシテ、追加豫算案ヲ
 提出シタ譯デアリマス、其豫算ニ附帶致シマスル法律案ガ即チ此法律案デアリマスカラシテ、ド
 ヲカ御審議ノ上デ御贊成ニナルヤウニ希望致シマス

井原百介君ハ左ノ質疑ヲ爲ス

私ハ直接此案ニ關係ノアル事ダケヲ質問致シタイト思ッテ居リマス、併ナガラ此高等教育ノ機關
 トナリマスレバ、自然ハ初等教育カラ及ボサナケレバナラヌ問題デアルト思フノデアリマス、
 故ニ中小學ニ於ケル教育ノ事ニ就テ、一二御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス、今日ノ初等教育ニ於
 キマシ、其效果ノ頗ル不完全ナル點ヲ多々見ルノデアリマス、今日ノ小學教育ニ於ケル教育ノ狀
 態ヲ見マスルト、小學ノ教員ノ殆ト全部、自分ノ養成シテ居ル所ノ生徒ヲ高等ノ學校ニ入レヤウ
 ト云フコトヲ、第一ノ目的トシテ居ル如クニ見エルノデアリマス、果シテ是ガ初等教育、即チ普

通教育ノ目的デアリマセウカ、此點ニ於テ大ニ考慮シナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、小
 學校ハ決シテ中學ニ入ルベキ者ヲ養成スルガ主眼デハナイノデアアル、所謂普通ノ教育デアアル、義
 務教育デアアルノデアリマス、然ルニ之ヲ終ッテ所ノ者ハ、成ベク多ク中等學校ヘ入レヤウトカメ
 テ居ルノデアリマス、又監督者ニ於テモ、中學ニ入ル者ガ多ケレバ、其學校ノ成績ガ良イモノト
 見ルト云フコトガ、一般ノ風ニナツテ居ルノデアリマス、此方針ハ果シテ文部當局者ニ於テハ、宜
 シイモノデアルト云フ御考デアルカ、……中學ニ入リマス、中學ハ殆ト高等學校ノ豫備校ト
 云ツタヤウナ、狀態デアアルノデアリマス、是亦小學校ト同ジヤウニ、自分ノ所ヲ卒業シタ者ノ何分
 ノ一ハ、高等學校ニ入ッタト云フコトヲ以テ誇トシテ居ルノデアリマス、進ンデ高等教育ヲドウ
 デモ受ケナケレバナラヌト云フ教方デアアル、又學校ノ生徒モサウ云フ頭ヲ以テ常ニ學問ヲシテ
 居ルノデアリマス、中學校ナルモノガ、果シテ高等程度ノ學校ニ進ムベキ所ノ豫備校デアルトス
 ルナラバ、ソレデモ宜シイデアリマスガ、中學ナルモノハ、即チ普通ノ中等ノ生活ヲ爲ス所ノ者
 ガ心得ナケレバナラヌ學科ヲ教ヘルノデアアル、徒ラニ高等ノ學校ニ進ム者バカリヲ教ヘル處デ
 ハナイノデアリマス、斯ノ如クシテ中學ヲ出マシタ者ガ、徒ラニ高等ノ學校ニ進ム者バカリヲ教
 針ヲ執ッテ行キマシタナラバ、所謂社會ニ於ケル、殊ニ實業界ニ於ケル將校バカリヲ多クシテ、下
 士卒ガ少クナルト云フコトニナリハシマセウカ、殊ニ今回ノ高等學校ノ増設デアリマス、此事ハ
 決シテ私トシテモ爲スベカラザルモノト云フ考ハ厘毫モ持タヌノデアリマス、將來必ズ斯クナ
 ケレバナラヌモノト云フコトハ、私モ確ク信ズルノデアリマスケレドモ、今日ノ小中學校ニ於
 ケル狀態ガ、果シテ斯ク急ニ高等學校ノ澤山ヲ増設スルノ必要ガアルヤ否ヤト云フコトヲ疑フ
 ノデアリマス、唯今マデノ所デモ、小中學校ニ於ケル所ノ卒業生ガ餘リ多ク、高等ノ教育ヲ受ケ
 ルト云フコトニ熱中シ過ギハセウカ、社會ガ又ソレヲ誇トスルト云フコトニナツテ居リハセウカ
 ト云フ考ヲ持テ居ルノデアリマス、此場合ニ於テ中學ヲ卒業スル所ノ者ハ、殆ト全部高等學校ニ
 入ルト云フコトノ設備ヲ設ケラレタナラバ、今申シ上ゲタ所ノ弊害ヲ益、增長サセルト云フコト
 ニナリハスマイカ、向學ノ意思ノ起ルト云フコトハ何所マデモ結構デアリマスケレドモ、程度問

題デアル、國力ニ關係ヲシナケレバナラス、之ヲ考ヘズニ、徒ラニ上ニ進ムコトヲ獎勵スルヤウナ方法ヲ尙ホ文部省モ執ランレトスルモノト、此場合ニ於テ私ハ考ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス、此點ニ於テハ、當局者ハ如何ニ御考デアルカ伺ヒタイノデアアル、前ニ申上ゲタ小學ノ教育ノ不完全ナリト云フコトニ付テ更ニ一ツ申上ゲタイノハ、即チ良教員ヲ得ルコトガ出來ナイト云フコトデアリマス、其小學教員ニ對スル所ノ待遇ガ如何ニモ氣ノ毒デアアル、故ニ小學教員ニナラウト云フ志ヲ懷ク所ノ者ハ、社會ニ立ツテ相當ノ仕事ヲ爲シ得ル者ニハ少ナイト云フコトニナリマス、デ之ニ對シテ、僅カナ實質上ノ三圓カ五圓ノ増給位デ、良教員ヲ得ルト云フコトハ、迎モ出來ナイモノト思フ、論ヨリ證據、師範學校ノ近年ノ志願者ノ狀態ヲ調ベテ見マスト云フト、此六七年前トハ非常ナ違デアアル、志願者ノ數ガ非常ニ少イ、申スマデモナク、卒業後ノ目的ガ無イト云フコトニナルノデアリマス、此點ニ就テハ深キ御考ガ無ケレバ、如何ニ高等學校ヲ増加シマシテモ、完全ニ目的ヲ達スルコトハ出來ナイト云フコトヲ私ハ信ジテ疑ハヌノデアリマス、デ是等ノ點ヲ考ヘマシテ、私ハ決シテ此高等諸學校ノ出來ルノニ、絶對ニ不賛成ハ致シマセヌケレドモ、寧ロ私ハ時期尙ホ早クシテ、中小學校ノ設備ニ十分ノ力ヲ盡サレタ方ガ宜クハナイカト云フ考ヲ持ツテ居ル次第デアリマス、今回ノ案ハ、公債若クハ借入全ヲ以テ之ヲ新設スルト云フ唯今御説明デアッタノデアリマス、過日來頻々ト其報ニ接シマスル所ノ、地方長官ニ對スル寄附ノ御勸誘ハ、必要ハナイモノデハナイカト思フノデアリマス、勿論斯ノ如キ事業ニ富豪ノ寄附ヲ待ツト云フコトハ極メテ結構ナ事デアアルガ、地方費ノ經濟ニ非常ニ困難シテ居ル今日、富豪ノ寄附以外ニ、地方費杯カラ寄附ヲサセルト云フヤウナ御計畫ガアル如ク伺ツテ居リマスガ、果シテ是ガ事實デアリマスカ、若シ事實トスルナラバ、今日ノ場合ニ於テ地方費カラ支辯サセルト云フコトハ、適當デアルヤ否ヤト云フコトヲ疑フノデアリマスガ、此點ニ就テ御答ヲ願ヒタイノデアリマス、地方費ノミデハ出來ナイカラ、縣債ヲ起サウト云フヤウナ申合マデシテ居ル處モアルヤウニ聞イテ居リマスガ、實否ハ兎モ角モサウ云フ狀態デアアル之ニ就テハ私共ハ間違デアアルカドウカト云フコトヲ伺ヒタイ、此寄附金ニ付テハ、追、地方長官ヲ御召電ニナツテ御勸誘ニナツテ結果略、

寄附金額モ定ツテ居ッタ、所ガ又ドウ云フ原因デアルカ、或ハ其寄附金ノ以前百萬圓ト云ウタモノハ其半額デ宜シイ、八十萬圓ト云ウタモノハ、其半額デ宜シイト云フヤウナ事ノ御通知ガアッタカノヤウナコトヲ聞イテ居リマスガ、是ハ果シテ無イ事デアリマスカ、若シ有ッタトスレバ、何故ニサウ云フ事ガ起ッタノデアリマセウカ、是モ伺ヒタイ、學校ノ位置ハ餘程慎重ヲ重ネテ定ムベキモノト思フノデアリマス、徒ラニ地方ニ唯、分布シテ、不公平ガナイヤウニ、決シテナイト思ヒマス、殊ニ其學校ノ種類ト云フ事ニ至ツテハ、大ニ考ヘナケレバナラヌモノト思ツテ居リマス、大體此學校ノ程度ガ高クナレバ高クナル程其位置ノ選定ガ六ヶ敷イノデアリマス、…然ルニ今回ノ文部省ノ御豫定ニナツテ居ル所ヲ伺ヒマスト云フト、唯、彼ノ地方ニハ學校ガ少ナイカラ置ケ、此地方ニハ多イカラ止スト云フヤウナ方針デハナイカト思ハレルノデアリマス、殊ニ其専門科ノ選擇ガ如何デアルカト云フコトヲ疑フノデアリマス、…彼是色々ナ點ヲ考ヘテ見マスト、配置ノ意味ハ吾々ニ於テ唯、學校ノ種類ヲ擇バズ、唯、地方ニ廣ク分布スルト云フコトニ倣シテ、御決定ニナツタカトモ思ハレル、此邊ハ十分ニ御説明ヲ願ヒタイノデアアル、最後ニ伺ヒタイノハ教員ノ事デアアル、斯ク多數ノ學校ヲ八年カラ十三年ニ互ル六箇年ノ間ニ養成スル約八百人ノ教員デアアル、此八百人ノ教員ト云フモノガ高等教育ニ從事スルノデアアルガサウ云フヤウナ人ガ、サウ短時日ノ間ニ得ラレルモノデアアルカドウカト云フ事ハ、大ナル問題ト思フノデアリマス、苟モ高等ノ教育ヲシヤウト云フ所ノ人ニ對シテハ、十分ノ御選擇ガアラネバナラヌノデアリマス、如何ニ金ヲ多く出シマシタカラトモ、果シテ其高等教育ニ從事スベキ適當ノ人ガ得ラレルト云フ事ニハ行カヌ、決シテ人物ハ金ヲ以テ買フコトハ出來マセヌ、假令人物ガアリマシテモ、其人ガ希望ガソコニ置イテナケレバナラヌノデアアル、私ハ疑フ、此僅カ六箇年間ニ於テ、高等教育ニ從事シ得ル所ノ教員ノ八百人ヲ得ルト云フコトガ、果シテ出來ルモノデアアルカドウカト云フコトヲ疑フ者デアリマス、是ガ十分御見込ノアルモノデアアルカト云フコトモ一ツ伺ヒタイ

中橋國務大臣ハ左ノ如ク應答ス

今ノ御尋ニ御答致シマス、大變箇條ガ多ウゴザイマスカラシテ、簡單ニ致シマス、今日ノ小學校ニ居ル者ガ中學校ヘ行キタガ、中學校ニ居ル者ハ成ベク上ヘ行キタガルト云フ趨勢ハ、私共モサウ云フヤウニ思ッテ居リマス、是ハ日本人種ノ一ツノ特性ガ發揮シテ居ルノダラウト思ヒマス、ケレドモ近來ノ趨勢ヲ見マス、餘程變テ來ツ、アル、恐ラクマダ、變リマス、ト云ヒマスノハ中學校ノ數ガ當時ザツト三百三十五、是ハ二十年前ニハ此何分ノ一シカ無カッタモノデアリマス、所ガ又一面乙種農學校、乙種商業學校、或ハ工業學校、徒弟學校、又補習學校ト云フヤウナモノガ餘程澤山出來ツ、アル、此所五十年ノ後ニハ、各地方ニハ農學校、商業學校ノ乙種ノモノハ餘程出來ルヤウニナリマス、ト云フノハ詰マリ國民自ラ從來ノ何デモカンデモ中學ニ行クコトハ、餘リ感心シナイ、故ニ商賣人ニナリタイ者ハ乙種商業學校ニ行リ、農家ニナリタイ者ハ乙種農學校ニ行クト云フコトニナリツ、アルノデ、非常ニ喜バシイ傾向ト思ッテ居リマス、其點ハ日本國民ガ自ラ之ヲ矯正シツ、アル、又大變好イ事デアルト思ッテ、私共モソレヲ獎勵スル積リデ居リマス、ソレカラ中學校ヲ卒業シタ者ノ御話ノ中デ、皆ナ高等學校ニ行クト云フ御話デアリマスケレドモ、大正六年ノ何ニ依リマスルト、高等學校ノ入學試驗ヲ志願シタ者ガ一萬千餘人、其中二千三百人入ッテ居ル、ソレカラ實業專門學校其他ノ專門學校ニ志願シタ者ガ二萬人餘ニナッテ居リマス、其中三千人程入ッテ居ル、斯ウ云フヤウナ譯デ、高等學校ニハ四分ノ一カ五分ノ一シカ志願ヲシテ居ナイノデアアル、矢張各種ノ實業專門學校、或ハ其他ノ專門學校ノ方ガ倍以上ノ志願者ヲ持ッテ居ルノデアリマスカラ、今後今日ノ如ク上ノ方ノ機關ノ不足ノ時ニ、各種學校ニ向ッテ入學スル志願者ノ配置ト云フモノハ、今後學校ガ餘計出來マスカラ餘程變化致シマス、併ナガラ今日ノ所デハ斯ウ云フ現況デアリマスカラ、ソレヲ基礎ト致シマシテ、今回ノ目下ノ急場ヲ凌グ計畫ヲ立テタ譯デアリマス、……ソレカラ寄附ノ事ニ付テ、寄附ヲ勸誘シテ居ルト云フ御話ガアリマシタガ、是ハ何カ誤聞デナイカト思ヒマス、當局ニ於テハ寄附ヲ勸誘シテ居リマセヌ、各地方長官ニ向ッテ、唯、下準備ノ打合ヲ今日シテ居リマス、ソレハ何故カト云フノニ、豫テ此頃申込デ御出デニナッタノモアリマス、數年前カラ毎年御申込ニナルノモアリマス、色々御

希望ノ地方ガアル、ソレデ來テ賞ヒマシテ、下打合ヲ今日ヤッテ居ルヤウナ譯デアリマス、ソレニ對シテハ、此寄附ハ一體出來ルナラバ富豪ノ人ニヤッテ賞ヒタイ、縣債ハ一切御斷リシタイト云フコトヲ御話シテ居ルヤウナ譯デアリマス、今一ツハ今回ハ政府ガ資金ヲ以テ此計畫ヲスルノデアリマスカラ、全部寄附ニ待ツト云フヤウナコトハ、致シタクナイト思ッテ居リマス、成ベク縣ノ力ノ貧富ニ依リマシテ、十分ナル斟酌ヲ加ヘテ餘リ迷惑ヲ掛ケヌヤウニシタイ、向フカラ幾ラ申出ガアツテモ、餘リ御迷惑ヲ掛ケヌヤウニシタイト云フ工合デ御相談シテ居リマス、ソレカラ位置ノ事デアリマスガ、日本ノ智識ノ配置ガ洵ニ偏シテ居ル、中央ニ餘リ偏シテ居ル、大都會ニ偏シテ居ル、故ニドウシテモ日本ノ全體ヲ一樣ニ平均シテ、一體ニ發達ヲ圖ラウト云フノニハ、矢張此文化ト云フモノヲ第一ニ一樣ニ發達スルヤウニシタイ、斯ウ云フ考ヲ持ッテ居ル譯デアリマス、故ニ今回ニ於キマシテモ、從來ハ例ヘバ宮崎縣トカ或ハ四國ト云フ處ニナルト、何時マデ待ッテモ拵ヘナイト云フヤウナ話デ、是ハドウカシテ鐵道ダノ、學校ダノ、教育ダノハ、一律ニ出來ルダケ平均ヲシテ、全體ノ國民ノ智識ガ進歩スルヤウニナッタナラバ、我國ノ開發上、餘程今日リハ趣ヲ異ニセント思フヤウナ考デ、成ベク是ハ全國ニ配置シタイト云フ計畫ヲ立テタノデアリマス、ソレカラ地方ニ學校ヲ置イタナラバ、教員ヲ得難イダラウト云フヤウナ御話デアリマセウ、是ハ井原サンノヤウニ教員ニ女人ノ御考デハ色々御心配ニナリマセウ、多少ノ困難ハアリマセウ、多少ノ困難ハ打勝ツ積リデアリマス、ソレカラ急ニ八百人ノ教員ハ得ラレナイト云フ御話デアリマスガ、是ハヤル考ヲ持ッテ居リマス、是ハドウゾ御安心下サツテ御任セ下サッタラドウカト思フヤウナ譯デアリマス

西川太治郎君ハ左ノ質疑ヲ爲ス

唯今中橋文相カラ御話ニ依リマスルト、地方ニ對シテ金錢ハ勸誘シテ居ラヌト云フコトデゴザイマシタ、或ハサウカモ知レマセヌガ、併シ私ハ事實ニ於テ今此事ヲ御尋シタイ事ガゴザイマス、我滋賀縣ニ於キマシテ高等商業學校ヲ設ケラレルト云フコトハ、私共深ク歡迎スル所デゴザイ

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案 五百二十七

マス、之ニ就キマシテハドノ方面カラノ勸誘デアルカ何カ知リマセヌガ、大津市ニ於キマシテハ二十萬圓ヲ寄附スル、ソレカラ彦根地方ニ於キマシテハ五十萬圓ヲ寄附スル、斯ウ云フヤウナ申出ニ對シマシテ、地方長官ハドウモ大津市ノ二十萬圓ト云フノハ、確實ナル證據ヲ見セテ欲シト云フコトデアッテ、大津市會ノ決議ヲ經マシテ、二十萬圓ノ市債ヲ起シテ直チニ之ヲ證據ニシヤウ、又彦根地方ニ於キマシテハ、五十萬圓ヲ有志ノ寄附ニ依ッテ出ス、斯ウ云フコトデゴザイマシタ、所ガ近頃承リマスル所ニ依ルト、三十萬圓ノ差デアル所ノ彦根町ニ内定シタト云フコトデアリマス、是ハ地方長官ガ有志ニ示シタ所デゴザイマス、之ニ依ッテ見マスルト、金錢ノ寄附ノ高ニ依ッテ、土地ヲ左右シタモノデハナイカト想像サレルノデゴザイマス、此兩方ノ土地ノ利害ニ就キマシテハ、大津市ハ御承知ノ通り京都ニ接近シテ、大學其他ノ高等學校トノ連絡ガ取レルノデアリマス、又地方廳ノ所在地デゴザイマス、又大津市ニ於キマシテハ、乙種商業學校ヲ甲種ニ變更スルト云フコトノ決議ガ、市會ニ於テ決議サレテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ連絡ノ上カラ致シマシテモ、私共ハ大津市ヲ適當ト思ッテ居リマス、唯、茲ニ憂フベキ現象ガ生ジタノデアリマス、此問題ノ爲メニ、大津市長ハ或ハ此際辭職スルヤウナ有様デゴザイマス、大津市ハ市長ノ候補ニ付テハ何時モ困難ヲ致シマシテ、自治制ニ就テ甚ダ憂フベキ現象ヲ何時モ呈シテ居ルノデアリマス、唯今ノ市長ハ極メテ公平ナ方デアッテ、總テノ黨派ガ總テ此市長ニ信賴シテ居ルノデアリマス、今回寄附ノ問題カラ斯ノ如キ事ヲ來シタト云フコトハ、甚ダ私ハ嘆クノデゴザイマス、就キマシテハ、此際ニ政府當局者ハ、彦根ニ内定シタト云フコトガ、斯ウ云フ事情デアルト云フコトヲ明ニサレテ、自治體ノ變動ヲ來サランヤウ、自治體ノ動搖ヲ來サランヤウニシタイノデアリマス

中橋國務大臣ノ應答

唯今滋賀縣ニ高等商業ヲ置クト云フコトニ付テ、位置ノコトニ就テ、段々御話ガアリマシタガ、實ハ其地方ノ寄附ノコトニ就テ、其縣内ノ事ニ就テハ、當局ハ一向相談ニ與ッテ居リマセヌカラ、

多少ノ報告ハ得テ居リマスケレドモ、委シイ事ハ存ジマセヌ、又知事カラ色々話モアリマスケレドモ、ソレハ縣内ノ事デアリマスカラ、此方ニ於テハ、餘リ其點ノ相談ニ與リタクナイノデアリマス、位置ガ金デ決ッタヤウニ考ヘナサルノハ、ソレハ何カ御間違デハナイカト思ヒマス、私ノ方デハ位置ハ略々内定シテ居ル譯デアリマス、ソレハドウカ誤解ノ無イヤウニ御願シマス、此度ハ餘リサウ云フ事ハシタクナイ考デアリマス、ソレカラ大津市ノ自治體ノ事ヲ御話ニナリマシタガ、是ハ洵ニ若シサウ云フ事ガアレバ、御氣ノ毒ナ話デ、残念ノ至リデアリマスガ、ドウカソナ事ノナイヤウニ、貴方ガタガ御心配下サッタナラバ宜カラウト思ヒマス

近藤達兒君ノ質疑

私ガ御尋シヤウト致シマシタ事柄ハ、前ノ質問者ニ依ッテ大體御尋ニナリマシテ、又文部大臣ノ御答辯ニ依ッテ略々了解致シマシタ、併ナガラ唯、一點尙ホ御尋シタイ點ガアルノデアリマス、唯今滋賀縣ノ事ガ問題ニナッテ居リマスガ、文部當局ト致シマシテハ、高等諸學校ヲ設置スルニ當リマシテ、如何ナル土地ニ此高等學校ヲ設置スルカト云フコトノ、或ハ經濟、或ハ交通、或ハ衛生、或ハ縣廳ノ所在地ト云フガ如キ確乎タル標準ガアルノデアリマスルカ、又此位置ハ府縣ノ人ニ一任スルト云フ御考デアリマスルカ、此點ヲ明確ニ御伺致シタイト思フノデアリマス、或ハ寄附金ノ多寡ニ依ッテ、此高等教育機關ガ置カレルノデハナイカト云フヤウナ事カラシテ、非常ナル競争若クハ運動ヲ致シテ居ルノデアリマスカラ、是等ノ弊害ヲ除ク爲メ、一般ソノ縣民ノ意ヲ安ンズル爲メニ、之ニ對スル明確ナル標準ヲ御示ニナランコトヲ希望スル次第デアリマス

中橋國務大臣ノ應答

此高等諸學校ノ設置ノ位置ニ就テ、先程モ申シマシタ通り、今回ノハ當局ニ於テ決シタノデ、故ニ各地方ニハ相談ヲ致シマセヌ、是ダケヲ……

次テ委員ノ選舉ハ時局ノ影響ニ因ル地方税制限擴張ニ關スル法律案(二九)委員ニ併セ付託スルニ決ス

委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌二十五日本案及時局ノ影響ニ因ル地方税制限擴張ニ關スル法律案(二九)ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長三土忠造君委員會ノ經過及結果ニ付報告ヲ爲ス(本項第一(二九)參看)

議長ハ發言ノ通告アル旨及之ヲ許可スル旨ヲ宣告ス

樋口秀雄君ノ演說

私ハ此法律案ニ賛成ヲ表シテ居ル者デアリマス、……目的ニ對シテ、賛成ヲ致スノデアリマス、併シナガラ此案ニ對シテ、全然鵜呑のニ賛成ヲ表シテ次第デハナイ、……此法律案ヲ實行シ、其實行ノ結果高等教育機關ヲ増設サレマスルニ付テ、政府ニ飽クマデモ御注意ヲ望ム所ガアリ、又政府ノ此案ニ對スル質問應答ノ中ニ言明セラレマシタ言責ヲ國民ノ前ニ述ベテ、サウシテ其實行ニ付テ十分吾々ノ趣旨ヲ徹底シテ戴キタイト思フノデアアル、第一ノ點ハ、此教育機關ノ増設ト云フ事ハ甚ダ結構ナル事デ、私共ハ明ニ賛成致シマスルガ、是ト同時ニ其基礎タルベキ中等教育、並ニ初等教育ノ完成ト云フ事ニ向ッテモ、政府ハ少クトモ、此案ニ努力セラル、ト同様ノ熱心ヲ以テ御經營ヲ願ヒタイ、斯ウ云フ希望ヲ申述ベタ所ガ、政府ニ於テモ此點ニ就テハ考慮シツ、アルト云フ一言ガアツタ、此御考慮中ハ必ズヤ實現サセテ戴キタイモノデアルト云フコトモ、希望ノ一ツトシテ述ベテ置キタイノデアアル、又學校ノ増設設備ダケヲ致シマスルノハ、是ハ外形上ノ振興デアリマシテ、内面ノ教育内容ノ改善ニハ、餘リ影響ハ無イ、ソコデ高等教育ハ勿論、中等教育並ニ普通教育ニ對シマシテモ現在ノ制度ノ上ニ於テ、多大ノ改善ヲ要スベキモノガアル、即チ單リ形式

ノミナラズシテ、内容ニ就テノ改善ヲ願ヒタイト云フ希望ヲ述ベマシタ所ガ、此責任アル國務大臣ノ考慮中ト云フ言質ニ依ッテ、吾々ハ飽マデ現政府ガ此點ニ對シテ更ニ歩ヲ進メテ、著々實行セラレンコトヲ希望スルノデアリマス、第二ハ此高等教育機關ノ増設ニ要シマスル財源ニ付テ、少シク遺憾ノ點ガアル、即チ本案ニ依リマスレバ、是ハ借入金デアリマス、今ノ財政ノ狀況ニ於テハ、他ニ仕方ガナイカラ、借入金等ノ形式ヲ執ッタノデアルト云フ御答辯デアアル、左スレバ政府ニ於テモ、此借入金政策ヲ以テ、高等教育機關ノ完成ヲスルト云フ事ハ、本來ノ趣旨デハナイヤウデアアル、已ムヲ得ヌカラ一時此形式ヲ執ラレタモノト思フ、(中略)吾々ハ敢テ異議ハ申シマセヌガ、政府ニ於テ更ニ財政ノ餘裕ヲ生ジ、若クハ他ニ名案ガ出タ時ニハ、此借入金ヲ成ベク少クシテ、斯ノ如キ爲メニ借入金ヲスル事ノナイヤウニ、尙ホ他ノ方面カラ、財源ニ付テモ、一段ノ御考慮アラントトヲ希望シテ置クノデアリマス、第三ハ御下賜金ノ用途ノ事デアリマス、長多クモ今回一千萬圓ノ御手許金ヲ高等教育機關ノ擴張ト云フ事ニ付テ、吾々國民ガ深ク聖慮ニ對シテ肝銘措ク能ハザル所デアリマス、然ルニ御下賜金ノ如キ重大ナル意味ヲ持チ畏クモ、上御一人ノ聖意ヲ以テ賜ハリマシタ所ノ御下賜金ハ、吾々ノ考ヲ以テシマスレバ、明ニ是ハ御下賜金ニ依ッタ所ノ經營デアアル、或ハ其金ノ一部ヲ積立ッテ、永遠ノ事業ニ供スベキガ如キ方法ヲ以テ、何時マデモ御下賜金ノ難有サヲ後ノ人ニ傳ヘルノガ、最良ノ方法デハナイカト私共ハ思フ、所ガ今回此御下賜金ハ總計四千四百五十五萬圓ト云フ總額ノ中ニ打込デシマツテ、ドノ部分ガ御下賜金ニナツタカ更ニ分ラナイ、新ニ増設サレマシタ所ノ高等教育機關ニ於テモ、吾々ハ學校ガ増設ノ爲メニ御下賜金ヲ賜ッタト云フ事ハ、御下賜金ノアツタ事ニ依ッテ知ッテハ居リマスガ、後ノ學生ヲシテ同ジク之ニ對スル、肝銘ノ念ヲ深カラシムルヤウナ設備ノ無イノヲ私共ハ遺憾トスル、此政府ノ今回ノ計畫ヲ見マスルト云フト、四千四百五十五萬圓ノ中、一千萬圓ハ御下賜金、他ノ三千四百五十五萬圓ハ借入金デアアルカト申スト云フト、形ハ借入金デアツテ、萬一ノ時ニハ借入レルノデアアルケレドモ、政府ノ期待サレルガ如クンバ是ハ恐クハ其ノ三分ノ一位ニ過ギザル借入金ニ過ギナイカト云フヤウナコトヲ、文相ノ御口カラ發表サレタ、……其寄附額ハ、今ノ所デ明カナ算當ハ

付カヌガ、一千万圓位ノ寄附金ハアルカト思フト云フ、斯ウ云フ御話デアッタ其一千萬圓ノ寄附金ト言ハレタ言葉ニ依リマシテ、其他ノ質問ニ答ヘラレタル所ト綜合シテ見マスト云フト、從前ノ如ク全部ヲ取ラズシテ、一部ダケ寄附金ニ仰グヤウニ御答辯ガアリマシタカラ、若シ果シテ其位ニシテ尙且一千万圓デアリマスルト致シマスルト、既ニ二三決定シマシタル或地方等ニ於テハ、全部ノ寄附金ヲ受ケラレテ居ル、此勢ヲ以テシマスレバ三千四百五十萬圓ノ中、殆ド二千五百萬圓位ノ寄附金ガ出來ルカ知ラヌト私共思フ、シマスルト御下賜金ノ一千萬圓ニ二千五百萬圓ノ寄附金ガアッタトシマスレバ、後ハ僅ニ一千万圓内外ノ金デ、教育機關ノ大擴張ガ出來ルト云フ政府カラ言ハシムレバ、濡手デ粟ノ功名デアリマスルガ、斯ノ如キ事ヲ果シテ寄附金ノミニ依ッテヤルト云フ案ガ教育擴張ノ方法トシテ、最良ノモノデアアルカ否カト云フ事ニ付テ疑ハシイノミナラス、此寄附ニ付テ特ニ政府ニ御注意ヲ望ミタイ事ガアル、政府ハ成程寄附ヲセヨト言ッテ強請ハサレヌデアリマセウ、併ナガラ先年モ司法當局ガ、控訴院ヲ賣物ニシテ、二地方カラ寄附金高ノ競争ヲナシタヤウナ例ガ無キニシモアラズ、政府ハ強テ之ヲ強要セズト雖モ、此學校ノ設立ヲ大早ノ雲霓ノ如ク希望シテ居リマスル地方民カラ申シマスレバ、勢ヒ競争シテ、成ベク多クノ寄附金ヲ出シタイト云フ爲メニ、無理算段ヲ致シ、假令縣ノ租稅ニ依ル寄附ハ受ケズト雖モ、……勢ヒ此設置場所ノ競争ヨリシテ、各府縣ヲシテ、過大ノ負擔ニ苦シマシムル虞ガナキニアラズヤト思ハレマス、此點ニ就テ政府ハ、地方ヲシテ斯ノ如キ迷惑ヲ受ケザラシムルヤウニ、十分ノ注意アラシコトヲ希望スル譯デアアル、第四ニハ私立學校ニ對スル態度デアリマス、此案ニ依リマスルト云フト、成程二十九校ノ新設其他多大ノ擴張ガアリマスルガ、其擴張ヲナサル時ニ、政府ハ昨年マデノ私立學校ノ入學者ノ數ト云フモノヲ依然七千人ト積ッテ、更ニ擴張ノアルモノト看做シテ居ラナイ、假令是ダケノ擴張ヲ致シマシテモ、尙ホ此完成致シマスルマデニ、事實七八年ヲ要スル、其時ニナッテ年々歳々ニ増加スル中學生、其中カラ高等學校ヘノ入學ヲ志望シマスル者ガ次第ニ多クナッタ時ニハ、是ダケノ設備デハマダ足ラヌノデアアル、政府自身デモ是デ十分デアルト言ハヌガ、七八年ヤッテ今後ノ形勢ヲ見ル、更ニ考ヘヤウト云フ御答辯ガアル、然ラバ是ダケ

ノ擴張ヲシマシテモ、七八年後ノ形勢ニ應ゼラル、ヤドウカハ疑ガアル、而已ナラス五萬ノ希望者ニ對シテ二萬ヲ收容スルト云フ案ヲ以テ、此日進歩教育界ノ進歩ノ狀態、及進歩ニ伴ヒマスル高等教育ヲ受ケントスル志望者ノ數ノ増加、是等ノ事ヲ合セマスルト、到底官設高等學校ノ擴張ノミヲ以テシテハ、十分民間ノ需要ニ應ズルコトガ出來ナイ、然ラバ之ヲ補フニハ、私立學校ヲ補助シ、完成セシメ、之ニ依ッテ官私兩校相俟ッテ進ムコトガ、最善ノ方法ト信ジテ居ル、是ハ中橋文相ハ屢、米國ノ例ヲ引カレマシタ、米國ノ如キ私人ノ寄附ニ成リマスル私立大學ノ増加ヲ望ムケレドモ、日本在來ノ慣習、財界ノ狀況ヲ以テシテハ、希望ハ出來ナイガ、其他ノ方法ヲ執ッテ私立學校ノ發達ヲ圖リタイ、斯ウ云フコトデ此私立學校ノ補助完成ト云フ事、私學ノ振興ト云フ事ニ御同情ノアル點ハ見受ケラレマシタガ、未ダ何等具體的ニ私立學校ヲシテ、國家ノ恩典ニ浴スベキ設備ガ實行サレテ居ナイ、願クバ文相、私學獎勵ト云フコトガ、唯、ノ空理空言デナク成ベク速ニ私學獎勵ノ途ニ就カレンコトヲ私ハ深く希望スル者デアリマス、此案ニ對シテ贊成スルト同時ニ、政府ニ希望スル所ハ以上ノ四點デアリマス(後略)

他ニ討論ナク採決ニ及ヒ兩案各別ニ採決シ本案(三〇)ハ院議異議ナク讀會ノ順序ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日貴族院ニ之ヲ送付ス同院ハ三月二十五日可決奏上シ三月二十八日法律第三十一號ヲ以テ公布セラル

三一 精神病院法案

精神病院法

第一條 主務大臣ハ北海道又ハ府縣ニ對シ精神病院ノ設置ヲ命スルコトヲ得但シ必要ト認ムル

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

トキハ二以上ノ道府縣ヲ指定シ共同設置ヲ命スルコトヲ妨ケス
前項ノ精神病院ニ關スル經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第一項但書ノ規定ニ依リ共同設置ヲ命シタル精神病院ノ管理及費用分擔ノ方法ハ關係地方長官ノ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ定ム

第二條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル精神病者ヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ入院セシムルコトヲ得

一 精神病者監護法ニ依リ市區町村長ノ監護スヘキ者

二 罪ヲ犯シタル者ニシテ司法官廳特ニ危險ノ虞アリト認ムルモノ

三 療養ノ途ナキ者

四 前各號ニ掲クル者ノ外地方長官特ニ入院ヲ必要ト認ムル者

前項ノ規定ニ依リ精神病者ヲ入院セシムルニハ命令ノ定ムル所ニ依リ醫師ノ診斷アルコトヲ要ス

第三條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ經費ニ對シ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第四條 第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ長ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ入院者ニ對シ

監護上必要ナル處置ヲ行フコトヲ得

第五條 地方長官ハ入院者ヨリ入院費ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得地方長官入院者ヨリ

徵收スルコトヲ得スト認ムルトキハ其ノ扶養義務者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 第二條ノ規定ニ該當スル精神病者ニシテ主務大臣ニ於テ特ニ必要ト認ムルモノハ之ヲ

國立精神病院ニ入院セシムルコトヲ得

前二條ノ規定ハ國立精神病院ニ之ヲ準用ス

第七條 道府縣ニ於テ設置スル精神病院ニシテ地方長官ノ具申ニ依リ主務大臣ニ於テ適當ト認ムルモノハ第一條ノ規定ニ依リ設置スルモノト看做ス

第八條 主務大臣必要ト認ムルトキハ期間ヲ指定シ適當ト認ムル公私立精神病院ヲ其ノ承諾ヲ得テ第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條乃至

第五條ノ規定ヲ準用ス

第九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム

右ハ八年二月十八日本院ニ之ヲ提出ス同月二十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ床次國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、我國ニ於キマシテ最近ノ調査ニ依リマスルニ、精神病患者ト認ムル者ハ六萬有餘デゴザイマス、其中病院其他ノ設備ニ收容セラレテ居ル者ハ、僅ニ四千有餘名デゴザイマス、元來精神病者ニ對シマシテハ、是マデ精神病者監護法ガ制定セラレテ居リマシテ、不法ノ監置ヲ排除スルト共ニ、監護義務者及市區町村等ニ對シ、精神病者ヲ監置スル權能ヲ與ヘテ居リマス、左リナガラ救療收容ノ設備ニ關スル規定ハ、今日マデ缺ケテ居ルノデゴザイマスガ、段々世ノ中ガ複雑ニナルニ從ヒマシテ、各國ノ例ヲ見マスルノニ、是等ノ數ハ増加致スノデアリマス、現今ニ於キマシテモ、先程申上ゲマシタ如ク、六萬有餘ノ中其病院等ニ收容セラレテ居ル者ハ、僅ニ四千有餘名デゴザイマス、洵ニ不完全、殊ニ中産階級ニ於キマシテハ、其慘狀隨分甚シイモノモゴザイマス、是ノ適當ナル保護治療法ヲ立テ、其途ヲ講ズルト云フコトハ、今日最モ必要ナ事柄デゴザイマスノミナラズ、年々是等ノ患者ノ中デ、危險性ヲ帶ビテ放火殺人等ノ罪ヲ犯ス者百五十名ヲ下ラヌ有様デアリマス、公共ノ安寧ヲ亂ルコト少クナイミナラズ人道上、社會政策上、速ニ改善ノ途ヲ立ツベキ事柄ト考ヘルノデアリマス、仍テ茲ニ此法案ヲ提出致シマシタヤウナ次第デアリマス、此實行ニ關スル精神病院補助費ハ、既ニ豫算ニ於テ御協贊ヲ得タ次第デアリマス、何分然ルベク御審議ヲ願ヒマス

高木益太郎君及横山勝太郎君ハ質疑ヲ爲シ床次國務大臣ハ之ニ應答ス

高木益太郎君ノ質疑

政府ガ此精神病院ノ設置ノコトニ付テ御提案ヲ爲スツタ趣旨ハ、至極結構ノ事ト思ヒマス、是ト同時ニ精神病院其物ヲ取締ル必要ガアリハセヌカ、精神病院其物ノ中ニ種々ナル弊害ガアルヤウデアリマスガ、既ニ強制監置ト云フ法律案ヲ御出シニナル以上ニハ、精神病院其物ヲ取締ルコトニ就テ、何カ政府ハ御考ガアル次第ト思フ、ソレカラ政府ハ現在ドウ云フ工合ニ精神病ヲ御取締ニナツテ居ラウカ、現在ノ精神病院ハ、何等ノ缺點ナシト斷言シ得ラレル次第デアアルカドウカ、並ニ強制入院ノ場合ヲ法律デ限定スルカドウカ、唯今内務大臣ガ仰セニナツタ如ク、公安ヲ害スル虞アル場合、其外唯、認定ニ依ルト云フノデナクシテ、法文ニ之ヲ御定メニナツテ置イテハ如何テスカ、此點ニ就テ政府ノ御意見ヲ御聽シタイソレカラ行政官ノミニ一任シテ、人事訴訟手續法ノ準禁治産ノ規定ヲ準用スベキモノカドウカト云フコトニ就テ、御評議ガ有ツタカ無カッタカ、……御答ヲ得タイト思ヒマス

床次國務大臣ノ應答

御答ヲ致シマス、第一問ハ尤ナル御説ト考ヘマス、目下當局ニ於テモ取調中デゴザイマス、第二ノ御尋ハ是亦敢テ今日完全ト申ス次第ニハ考ヘテ居リマセヌ、ソレカラ第三ノ強制命令ヲ以テ入院セシムル場合ノコトハ、施行命令中ニ勅令ヲ以テ規定ヲ致ス考デゴザイマス

横山勝太郎君ノ質疑

本案ノ趣旨ニハ極メテ賛成デアリマスガ、唯、一二承ツテ置キタイト思フ點ガアリマス、其第一ハ此法案ノ所謂精神病者ノ意義如何デアリマス、民法第七條ノ所謂「心神喪失ノ常況ニ在ル者」ト云フモノニ該當スルモノデアアルカ、或ハ刑法第三十九條ノ所謂「心神喪失者」ノコトニ該當スルノデアリマスルカ、尙ホ同法第三十九條第二項ノ所謂「心神耗弱者」ヲ包含スルモノデアリマス

カドウカドウデアリマスカ、或ル精神病學者ノ新シキ説ニ依リマスルト、無政府主義者ノ如キ、或ハ或種ノ社會主義者ノ如キ、偏執狂——精神病者ナリト解釋シテ居リマス、本案ニ於テハ、斯ノ如キ者モ取締リマスカドウデアリマスカ、併セテ御説明ヲ願ヒタイ、ソレカラ第二ニハ、或人ノ説ニ依ルト、精神病者ハ之ヲ監置シテハ到底治癒スルモノデナイ、自由ニ放任シテ相當ナル治療ヲ加フルコトニ依ッテ、始メテ治療ノ目的ヲ達スルモノデアアル、牢獄ニ均シキ病室ニ監拘シテハ到底治療ノ目的ハ達セラレヌト云フノガ新シキ説デアリマス、ソレ故ニ本案ハ所謂監置主義ヲ採ルカ、非監置主義ヲ採ルカ、取リモ直サズ精神病者ソレ自身ノ個人ノ人權ヲ尊ブカ、又個人ノ方ハ省ミズ、個人ノ方ハ潰シテモ潰サヌデモ宜シイ社會ノ安全サヘ得レバ宜シイ、社會ノ取締サヘ出來レバ宜シイト云フデアリマスカ、第三ハ此監置ノ期間ヲ定メナイト云フコトハ、過ッテ精神病者ノ名ノ下ニ監置セラレタル者ガ、何時マデモ無期限ニ牢獄ニ均シキ精神病院ニ監置セラレハ、恰モ無期ノ刑ノ宣告ヲ受ケタト同一デアリマス、本案ニ於テハ斯クノ如キ事柄ハ、毫モ之ヲ顧慮セザル意味デアリマスルカ、第四ハ精神病者ヲ監置スルニ付テ之ヲ行政官ノ認定ニ一任シテ、司法官憲ノ認定ニ任ゼザリシハ如何ナル理由デアリマスカ、御承知ノ如ク奧太利ノ刑法草案、瑞西ノ刑法草案、獨逸ノ刑法草案ノ如キハ、悉ク此強制監置權ト云フモノヲ、通常裁判所ニ委スルト云フコトニナッテ居リマス、第五ハ此法ニ依ルト、國立精神病院ト云フ文字ガアリマスガ、今日ニ於テハ國立精神病院ナルモノハ、我日本國內ニ無イト考ヘテ居リマス、將來此國立精神病院ニ付テ、何カ御考ヲ爲サレシ事實ガアルノデアリマスカ、此數點ニ就テ御説明ヲ願ッテ置キマス

床次國務大臣ノ應答

御答致シマスガ、精神病者ト云フ中ニハ、心神喪失者若ハ……耗弱者ハ皆ナ含マレテ居ルノデアリマス、ソレカラ何カ社會主義者等モ精神病者ト云フ説ガアルカ、ドウスルノカト云フ御尋デアリマスガ、ソレハ入リマスमित思ヒマス、ソレカラ此法デハ強テ監置スル譯デアリマセヌ、元來保護治療ノ精神デアリマスカラ、強制シテ何處マデモ監置スル主義ヲ執ル積リデアリマセ

ヌ、ソレカラ其次ニハ入院ノ期間ヲ定メタラドウカト云フ御尋ト心得マシタガ、是ハ病狀ノ如何ニ依ッテヤルコトデアリマスカラ、豫メ定メル譯ニ行クマイト思ヒマス、次ニ入院ヲ命令ニ付テ、今日ノ實際ニ於テ、能ク平生ノ患者ノ状態トカ何カヲ見マシテ判定ヲ下スコトハ、地方行政官ニ於テ何等差支ナイコト、考ヘマス、ソレカラ國立精神病院ハドウスル積リカト云フ御尋デアリマシタガ、是ハ本法ヲ施行致シマシテ、幾多ノ府縣立精神病院ガ出來マスレバ、其結果ドウシテモ更ニ之ヲ國立病院ニ收容スル必要ノアル者ガ出來テ來ルト思ヒマスカラ他日其設備ヲ致ス考デアリマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決ス委員ハ同月二十四日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ同月二十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月四日本案ノ第一讀會ヲ續會ヲ開キ委員長金杉英五郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

右案ハ甚ダ緊要ナル案デアルト云フコトデアルト云フコトデ、全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、唯、茲ニ一言申上ゲテ置キタキ事ハ、精神病院法ハ、事人權ヲ拘束スルト云フコトヲ頗ル顧慮シナケレバナラヌト云フ、御議論ガ澤山出マシタ、政府當局者トモ質問應答ヲ重ネテ、尙ホ慎重ニ審議致シマシテ、總テノ疑惑モ氷解致シテ美シク、經過致シマシタヤウナ次第デアリマス、尙ホ横山、高木兩委員カラ、此事ニ就テハ附帶條件ヲ希望スルト云フヤウナコトガ出マシタ、ソレハ「第一檢事並ニ府縣市町村吏員、府縣市參事會員ハ臨時精神病院ニ出張シテ現狀ヲ視察シ人權保護ノ實ヲ完クセラレンコトヲ望ム、第二從來面會、差入、通信其他精神病者ノ取扱ニ關シ往々不滿ヲ訴フルモノアリ當局ハ常ニ是ガ監視ニ努メラレタシ」ト云フ希望條件ヲ出サレマシタガ、是ハ決議ニ依ラズシテ、希望ノ趣ヲ政府當局ニ申達致スト云フコトニ致シマシテ、折合ガ著キマシタヤウナ次第デアリマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通り可決確定シ即日貴族院ニ之ヲ送付ス同院ハ三月十五日修正議決ヲ爲シ本院ニ之ヲ回付シタリ
(回付案)
(小字及ハ貴族院修正)

精神病院法案中貴族院回付ノ箇所左ノ如シ

精神病院法

第一條 主務大臣ハ北海道又ハ府縣ニ對シ精神病院ノ設置ヲ命スルコトヲ得但シ必要ト認ムルトキハ二以上ノ道府縣ヲ指定シ共同設置ヲ命スルコトヲ妨ケス

前項ノ精神病院ニ關スル經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第一項但書ノ規定ニ依リ共同設置ヲ命シタル精神病院ノ管理及費用分擔ノ方法ハ關係地方長官ノ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ定ム

第六條 第二條ノ規定ニ該當スル精神病者ニシテ主務大臣ニ於テ特ニ必要ト認ムルモノハ之ヲ

國立精神病院ニ入院セシムルコトヲ得

前二條ノ規定ハ國立精神病院ニ之ヲ準用ス

第七條 道府縣ニ於テ設置スル精神病院ニシテ地方長官ノ具申ニ依リ主務大臣ニ於テ適當ト認ムルモノハ第一條ノ規定ニ依リ設置スルモノト看做ス

第八條^七 主務大臣必要ト認ムルトキハ期間ヲ指定シ適當ト認ムル公立精神病院ヲ其ノ承諾ヲ得テ第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第九條^八 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴訟スルコトヲ得行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

同日議事日程ヲ變更シテ右案及結核豫防法案(四〇)、「トラホーム」豫防法案(四一)ノ各回付案ヲ院議ニ付ス小川平吉君ハ孰レモ貴族院修正ニ同意ノ意見ヲ述フ院議異議ナク貴族院ノ修正ニ同意スルニ決シ三案トモ即日裁可ヲ奏上シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通知ス三月二十六日法律第二十五號(三一)、法律第二十六號(四〇)、法律第二十七號(四一)ヲ以テ公布セラル

三二 地方鐵道法案

地方鐵道法

第一條 本法ハ軌道條例ニ規定スルモノヲ除クノ外道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ公衆ノ用ニ供スル爲敷設スル地方鐵道ニ之ヲ適用ス

地方鐵道業者カ運送營業ノ爲支線ヲ敷設スルトキハ公衆ノ用ニ供セサル場合ト雖本法ヲ適用ス

道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ専用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニシテ政府ノ鐵道又ハ地方鐵道ニ接續スルモノニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 地方鐵道ハ人力又ハ馬力其ノ他之ニ類スルモノヲ以テ動力ト爲スコトヲ得ス

第三條 地方鐵道ノ軌間ハ三呎六吋トス特別ノ場合ニ在リテハ四呎八吋半又ハ二呎六吋ト爲スコトヲ得

第四條 地方鐵道ハ之ヲ道路ニ敷設ルスコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 地方鐵道會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得但シ兼業トシテ地方鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 地方鐵道會社ハ株金全額拂込前ト雖監督官廳ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得但シ軌道會社ニ非サル會社カ兼業トシテ地方鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ社債ヲ募集スルコトヲ得ス

社債ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

社債ノ額ハ鐵道抵當法ニ依ル債務ノ額ト併セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス

第八條 鐵道及其ノ附屬物件ハ鐵道抵當法ニ依ルニ非サレハ之ヲ擔保ト爲スコトヲ得ス

鐵道ノ附屬物件ハ命令ノ定ムル所ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ貸渡又ハ讓渡スルコトヲ得ス

第九條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ他ノ事業ヲ營ムコトヲ得ス

第十條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ免許ニ屬スル權利義務ヲ承繼ス

第十一條 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第十二條 地方鐵道業ヲ營マムトスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ提出シ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

一 起業目論見書

二 線路豫測圖

三 建設費概算書

四 運送營業上ノ收支概算書

免許ニハ工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限ヲ附ス

第十三條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ書類及圖面ヲ監督官廳ニ提出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ

一 線路實測圖

二 工事方法書

三 建設費豫算書

四 免許ヲ受ケタル者カ會社ノ發起人ナルトキハ定款及會社ノ設立登記謄本

工事施行ノ認可ニハ工事ノ著手及竣功ノ期限ヲ附ス

第十四條 地方鐵道業者ハ天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り第十二條第二

項又ハ前條第二項ノ規定ニ依リテ附セラレタル期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第十五條 左ニ掲クル土地ヲ以テ鐵道用地トス

一 線路用地

二 停車場、信號所、車庫及貨物庫等ノ建設ニ要スル土地

三 鐵道專用ニ供スル發電所、變電所及配電所等ノ建設ニ要スル土地

四 鐵道構内ニ職務上常住ヲ要スル鐵道係員ノ舍宅及運輸保線ノ職務ニ従事スル鐵道係員ノ

駐在所等ノ建設ニ要スル土地

五 鐵道ニ要スル車輛、器具、機械ヲ修理製作スル工場及其ノ資材、器具、機械ヲ貯藏スル倉庫等ノ建設ニ要スル土地

第十六條 道路、橋渠、河川、運河及溝渠等ニ關スル工事ノ施設ハ所管行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十七條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ地方鐵道ニ接續シ若ハ之ヲ橫斷シテ鐵道若

ハ軌道ヲ敷設シ又ハ地方鐵道ニ接近シ若ハ之ヲ橫斷シテ道路、橋梁、河川、運河及溝渠等ヲ造

設スルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ地方鐵道業者ニ設備ノ共用又ハ

變更ヲ命スルコトヲ得

設備ノ共用又ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁

定ス

第十八條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り免許ニ屬スル權利義務ヲ他人

ニ讓渡スルコトヲ得

第十九條 左ノ場合ニ於テハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限迄ニ認可ヲ申請セサルトキ

二 工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ

三 工事施行ノ認可ニ附シタル工事著手ノ期限迄ニ工事ニ著手セサルトキ

四 營業廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

免許ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ相續人ハ免許ニ屬スル權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第二十條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ得ス

第二十一條 地方鐵道業者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃料金ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十二條 地方鐵道業者ハ旅客列車及混合列車ノ發着時刻及度數ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ列車ノ發着時刻及度數ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十三條 監督官廳ハ監査員ヲ派遣シテ鐵道ノ工事、運輸保線ノ状態、會計及財産ノ實況ヲ監査セシムルコトヲ得

鐵道ノ工事、運輸保線ノ状態及會計ノ整理ニ付法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ違ヒ又ハ不適當ナリト認ムルモノアルトキハ監督官廳ハ其ノ改築又ハ改善ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ

於テ必要アリト認ムルルトキハ其ノ工事、運輸又ハ設備使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

監査員ハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ニ説明ヲ求メ金櫃、帳簿、書類及圖面ヲ檢閲スルコトヲ得

第二十四條 地方鐵道業者ハ地方鐵道ノ監督事務ニ關シ往復スル吏員ニシテ監督官廳ノ發行スル證票ヲ携帯スル者ヲ無賃ニテ乗車セシムヘシ

第二十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ地方鐵道業者ニ他ノ鐵道又ハ軌道トノ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設備ノ共用又ハ變更、運輸ノ手續、運賃ノ割合及費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十六條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鐵道ノ貸借又ハ營業若ハ運輸ノ管理ノ委託若ハ受託ヲ爲スコトヲ得ス

營業又ハ運輸ノ管理ノ委託ヲ受ケタル地方鐵道業者ハ其ノ管理ニ付監督官廳ニ對シ委託ヲ爲シタル者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第二十七條 地方鐵道業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ運輸營業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ス

地方鐵道會社ノ解散、決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十八條 主務大臣ハ地方鐵道ノ會計及運賃ノ割引ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十九條 地方鐵道業者ハ法令ノ定ムル所ニ依リ平時及戰時ニ於テ鐵道ヲ軍用ニ供スル義務ヲ負フ

第三十條 政府カ公益上ノ必要ニ因リ地方鐵道ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ買收セムトスルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十一條 買收價額ハ最近ノ營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル建設費ニ乘シタル額ヲ二十倍シタル金額トス

前項ノ益金トハ營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合トハ三年間ニ於ケル每營業年度末ノ開業線建設費ノ合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノニ一年間ニ於ケル營業年度ノ數ヲ乘シタルモノヲ謂フ

營業收入及營業費ノ計算ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十二條 買收ノ日ニ於テ運輸開始後前條第一項ニ規定スル三年ヲ經過シタル線路ヲ有セサル場合又ハ前條第一項ノ金額カ建設費ニ達セサル場合ニ於テハ其ノ建設費以內ニ於テ協定シタル金額ヲ以テ買收價額トス

第三十三條 地方鐵道業者カ鐵道若ハ其ノ附屬物件ノ補修ヲ爲サス又ハ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リ改築若ハ改造ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササルトキハ補修ニ要スル金額ハ之ヲ營業費ニ加算シ改築又ハ改造ニ要スル金額ハ之ヲ買收價額ヨリ控除ス

第三十四條 買收代價ハ券面金額ニ依リ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス此ノ場合ニ於テ五十圓未滿ノ端數ハ之ヲ券面金額五十圓トス

第三十五條 政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ並行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲地方鐵道業者カ其ノ接近シ又ハ並行スル區間ノ營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ政府ハ其ノ營業廢止ニ因リテ生スル損失ヲ補償スルコトヲ得殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

補償金額ハ第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ依リテ算出シタル價額ヨリ殘存物件ノ價額ヲ控除シタル金額以內ニ於テ政府之ヲ定ム

第三十六條 地方鐵道業者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト

二 政府ニ於テ又ハ他ノ地方鐵道業者ヲシテ地方鐵道業者ノ計算ニ於テ必要ナル施設若ハ營業ノ管理ヲ爲シ又ハ爲サシムルコト

三 免許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セラルルコトヲ得ス

第三十七條 免許ヲ受ケスシテ地方鐵道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ

百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過

料ニ處ス

一 前條ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケス

シテ爲シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命

令ニ違反シタルトキ

三 監査員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

四 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スヘキ届出、報告其ノ他ノ書類、圖面ノ提出若

ハ調製ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出、報告若ハ記載ヲ爲シタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第三十九條 前二條ノ規定ハ公共團體カ地方鐵道業ヲ營ム場合ニ之ヲ適用セス

附 則

第四十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 私設鐵道法及輕便鐵道法ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ爲シタル免許若ハ指定、許可又ハ認可ハ本法ニ依リテ爲シタル免許、許可又ハ認可ト看做ス但シ其ノ免許若ハ指定、許可又ハ認可ニ附シタル條件ニシテ本法ニ牴觸スルモノハ其ノ效力ヲ失フ

第二條及第三條ノ規定ハ舊法ニ依リテ免許又ハ指定ヲ受ケタルモノニ之ヲ適用セス

第四十二條 輕便鐵道法ニ依リテ輕便鐵道抵當原簿ニ登録セラレタル事項ハ之ヲ鐵道抵當法ニ

依リ鐵道抵當原簿ニ登録セラレタルモノト看做シ輕便鐵道抵當原簿ハ鐵道抵當原簿ト看做ス

第四十三條 輕便鐵道法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

三三 輕便鐵道補助法中改正法律案

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

輕便鐵道補助法中左ノ通改正ス

「輕便鐵道補助法」ヲ「地方鐵道補助法」ニ改ム

第一條、第二條及第六條中「輕便鐵道」ヲ「地方鐵道」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クルモノハ本法ニ依リテ之ヲ受クルモノト看做ス

三四 鐵道抵當法中改正法律案

鐵道抵當法中左ノ通改正ス

「主務官廳」ヲ「監督官廳」ニ改ム

第一條中「私設鐵道株式會社」ヲ「地方鐵道株式會社」ニ改ム

第三條中「舍宅」ノ下ニ「其ノ他工事又ハ運輸ニ要スル建物」ヲ、「保線」ノ下ニ「其ノ他ノ修繕」ヲ

加ヘ「鐵道用水」ヲ「用水」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

會社カ鐵道ニ要スル電氣ノ餘力ヲ以テ電氣供給ノ業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ供給ノ爲要スル

第二號乃至第五號及第七號ニ掲ケタルモノニシテ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノハ之ヲ鐵道

財團ニ屬セシムルコトヲ得

第十一條中「第三條」ヲ「第三條第一項」ニ、「前項ニ掲ケタルモノ」ヲ「前二項ニ掲ケタルモノ」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項規定ハ第三條第二項ニ依リテ鐵道財團ニ屬セシメタルモノニ之ヲ準用ス

第二十六條ノ二 株式會社ニ非サル地方鐵道業者ノ鐵道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依

ル

第五十條 削除

第五十一條中「前條第一項ニ依リ」ヲ「鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ」ニ改ム

第五十四條 削除

第六十條中「第五十四條」ヲ「第五十三號」ニ改ム

第六十五號中「本免許ヲ受クルコトヲ要スル者ニ在リテハ本免許」ヲ「第七十三條ノ許可ヲ受クルコトヲ要スル者ニ在リテハ其ノ許可」ニ改ム

第六十六條中「第五十條第一項ニ依リ競賣ニ加入シタル者」ヲ「會社ノ發起人」ニ改ム

第六十七條中「本免許狀ノ下付ナキトキ」ヲ「第七十三條ノ許可ヲ受ケサルトキ」ニ、「本免許」ヲ「許可」ニ改ム

第七十二條 削除

第七十三條 競落人カ政府ニ非サル場合ニ於テハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月内ニ許可ヲ申請スヘシ

第七十四條 競落人カ會社ノ發起人ナルトキハ前條ノ許可ノ申請ニハ定款及會社ノ設立登記簿本ヲ添附スヘシ

第七十五條 削除

第七十六條中「前三條」ヲ「第七十三條及第七十四條」ニ、「本免許狀ヲ下付スヘシ」ヲ「許可スヘシ」ニ改ム

第七十七條中「本免許」ヲ「第七十三條ノ許可」ニ、「會社」ヲ「競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル會社」ニ、「原免許」ヲ「免許」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三五 鐵道船舶郵便法中改正法律案

鐵道船舶郵便法中左ノ通改正ス

第一條中「私設鐵道法又ハ輕便鐵道法」ヲ「地方鐵道法」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三六 鐵道營業法中改正法律案

鐵道營業法中左ノ通改正ス

第三條 運賃其ノ他ノ運送條件ハ關係停車場ニ公告シタル後ニ非サレハ之ヲ實施スルコトヲ得ス

運賃其ノ他ノ運送條件ノ加重ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ前項ノ公告ハ一月以上之ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條ノ三 鐵道カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ貨物ノ引渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ貨主ノ費用ヲ以テ之ヲ倉庫營業者ニ寄託スルコトヲ得

貨物ヲ寄託シタルトキハ鐵道ハ遲滯ナク荷送人及荷受人ニ對シ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

貨物ヲ寄託シタル場合ニ於テ倉庫證券ヲ作製セシメタルトキハ其ノ證書ノ交付ヲ以テ貨物ノ引渡ニ代フルコトヲ得

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

鐵道ハ第一項ノ費用ノ辨濟ヲ受クル迄倉庫證券ヲ留置スルコトヲ得
前四項ノ規定ハ貨物ノ引取期間内ニ其ノ引取ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十條中「私設鐵道」ヲ「地方鐵道業者」ニ、「主務大臣」ヲ「監督官廳」ニ改ム

第二十三條中「私設鐵道係員」ヲ「地方鐵道係員」ニ、「會社」ヲ「地方鐵道業者」ニ、「主務大臣」ヲ「監督官廳」ニ改ム

第二十八條ノ二 第十九條及第二十一條ノ規定ハ政府及公共團體ノ鐵道ニ、第二十條及第二十

三條ノ規定ハ公共團體ノ鐵道ニ之ヲ適用セス

第四十四條 削除

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右五案ハ八年二月二十日本院ニ之ヲ提出ス同月二十二日各案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ床次政府

委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明ス

我國現在國有鐵道ノ外ニ私設鐵道又輕便鐵道ナルモノモアリ、各ソレニ對スル法律ガアルノデ

アリマスガ、此私設鐵道法ハ明治二十三年ノ制定ニ係ルモノデアリマスガ、鐵道國有法ノ實施以

來、今日デハ此法律ニ依ル鐵道ハ全ク一ツモアリマセヌ、即チ空文ニ歸シテ居ルヤウナ有様デゴ

ザイマス、之ヲ要スルニ國有以外ノ鐵道ハ、一概シテ申シマスレバ地方鐵道ニ相違ナイノデアリ
マス、其地方鐵道ハ今日ノ所多ク輕便鐵道法ニ依ッテ働カレテ居ルノデアリマスガ、此輕便鐵道
法ガ實際ノ運用カラ申シマスルト、二十箇條餘リノ條文カラ成立ッテ居ルノデアリマスガ、ソレ
ノミデハ不十分デアリマシテ、常ニ命令書ヲ下附致シテ、其命令書ト相俟ッテ、始メテ施行セラレ
テ居ルト云フ有様デアリマス、是ニ於テ私設鐵道並ニ輕便鐵道法ヲ統一一致シマシテ、各、其足ラ
ザル所ヲ補ヒ、又今日マデノ實驗ニ徴シテ、必要ナリト思フ事ヲ追加致シマシテ、茲ニ統一サレ
タル地方鐵道法ヲ制定スルノ最モ急務ナルヲ見タ譯デゴザイマス、改正ノ條項中主ナルモノヲ
申上ゲマスレバ、動力ハ機械力ニ限定致シマシタコトガ一ツ、モウ一ツハ軌間ヲ三呎六吋トスル
コトヲ原則ト致シマシテ、四呎八吋半及二呎六吋、此三種ニ限定致シマシタ、…其次ニハ鐵道
及其所屬物件ハ現在ニ於テハ之ヲ各別ニ擔保トスルコトガ出來ルノデアリマスケレドモ、將來
ハ其各別擔保ト爲スコトヲ禁ジテ、鐵道抵當法ニ依ル財團擔保ノ制ニ便ルコトニ致シタイト思
フノデアリマス、其次ニハ會社ノ解散ヲ制限シテ、營業廢止ノ許可ヲ受ケテ、然ル後ニ解散スル
ヤウニシタイ、ソレカラ今日マデ國有鐵道ヲ敷設致シマスル際ニ、地方鐵道ノ並行又ハ接近シテ
居ルガ爲メニ、地方鐵道業者ガ、營業上困難ニ立至ル場合ガアリマス際ニ於テ、補償ノ途ガ明ニ
規定シテナイノデアリマスガ、是等ノ場合ハ損失ノ補償ニ關スル事ヲ明規シテ置クガ、今日ノ時
勢宜カラウト思ヒマシテ追加致シマシタノデアリマス、此地方鐵道法ノ改正ト共ニ、自然輕便鐵
道補助法、鐵道抵當法、鐵道船舶郵便法、鐵道營業法中ニ改正ヲ加ヘント致シタノデアリマス、
(中略)以上宜シク御審議ヲ願ヒマス

櫻井兵五郎君ハ質疑ヲ爲シ床次政府委員ハ之ニ應答ス

櫻井兵五郎君ノ質疑

唯今御説明ノ中ニ軌間ノ問題ガアリマシタガ、原則トシテハ三呎六吋デアル、併ナガラ三條ニモ

アリマス通り、特別ノ場合ニ在ッテハ四呎八吋半又ハ二呎六吋ニスルコトヲ得ルト云フ規定ニナ
テ居リマスガ、此特別ノ場合ト申シマスルノハ、如何ナル必要カラ此特別ナル場合ガ生ズルト云
フ御考デ御規定ニナツタカ、或ハ他日國有鐵道ヲ私設ニスル場合ガアルカモ知レヌト云フ、其豫
想ノ下ニ斯ル特別ノ場合ヲ規定セラレタノデアリマスカ、其點ヲ伺ヒタイノデアリマス、今一ツ
ノ點ハ床次總裁ハ國有鐵道ハ三呎六吋ヲ以テ、我が經濟上ニ適合シテ居ルト云フ御考ヲ持ッテ居
ラル、ヤニ、私ハ承知致シテ居リマス、然ルニ現在ノ橋梁ヲ直ストカ、隧道ヲ改造スル場合ニ於
テハ、四呎八吋ノ軌間ニスルコトガ出來ルト云フヤウナ、設備ヲシテ居ラル、ヤウナコトニ承知
シテ居リマス、果シテ然ラバ是ハ無用ナ設備ヲシテ居ラル、ノデハナイカト思ヒマス、此點ヲ少
シク明瞭ニ了解シ得ルヤウニ御説明ヲ合セテ願ヒタイト思ヒマス

床次政府委員ノ應答

軌間ハ現在四呎八吋半ノモノガ随分アリマス、殊ニ電氣ノ運轉ヲ致スモノハ多ク左様ナ譯デア
リマス、右様ナ狀況デアリマスカラ、是ダケハ認メルノガ宜イト云フ譯デ認メタ次第デアリマス、
敢テ廣軌鐵道ニ關係シタ譯デアリマセヌ、尙ホ私ハ我國ノ目下ノ狀況ニ於テハ、現在ノ軌幅ヲ
以テ可ナリト考ヘテ居リマス、併ナガラ制度デアリマシテモ、機關車ノ力ノ増大スルニ從ッテハ、
今日ヨリヨリ幅ノ廣イ車ヲ運轉スルコトガ出來得ルノデアリマス、隨テ隧道ニ致シマテモ、橋
梁ニ致シマシテモ、將來二度ノ工事ヲ施サナケレバナラヌ必要ガアリハセヌカト思ヒマスルノ
デ、現在ヨリモヨリ幅ノ廣イ物ヲ建築シツ、アルノデアリマス、是ハ敢テ廣軌制ノ準備ト云フ譯
デアアリマセヌ

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(二十七名ノ同一委員)ニ決シ即日議長ハ之ヲ指名ス委員ハ同月二十四
日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末(三二)案ニ修正ヲ加ヘ他案ハ就レモ之ヲ可決スヘキモノト

決シ三月四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

地方鐵道法案中左ノ通修正ス

第三十條 政府カ公益上ノ必要ニ因リ地方鐵道ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ買收セムトス
ルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

地方鐵道ノ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ地方鐵道業者ハ該線路
及其ノ附屬物件ノ買收ヲ申請スルコトヲ得

第三十四條 買收ヲ受クヘキ地方鐵道業者カ兼業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ兼業ニ屬スル資産ヲ併セテ買收スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買收價額ハ協定ニ依ル

第三十四條^五 買收代價ハ券面金額ニ依リ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス此ノ場合ニ於テ五
十圓未滿ノ端數ハ之ヲ券面金額五十圓トス

第三十五條^六 政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ並行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲地方鐵道業者カ其
ノ接近シ又ハ並行スル區間ノ營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ政府ハ其ノ營業
廢止ニ因リテ生スル損失ヲ補償スルコトヲ得殘存線路ノミニニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサル
ニ至リタルトキ亦同シ

補償金額ハ第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ依リテ算出シタル價額ヨリ殘存物件ノ價額ヲ控除シタル金額以內ニ於テ政府之ヲ定ム

第三十六條 地方鐵道業者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト
- 二 政府ニ於テ又ハ他ノ地方鐵道業者ヲシテ地方鐵道業者ノ計算ニ於テ必要ナル施設若ハ營業ノ管理ヲ爲シ又ハ爲サシムルコト
- 三 免許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セララルコトヲ得ス

第三十七條 免許ヲ受ケスシテ地方鐵道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 前條ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケス

シテ爲シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

三 監査員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

四 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スヘキ届出、報告其ノ他ノ書類、圖面ノ提出若ハ調製ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出、報告若ハ記載ヲ爲シタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第三十九條 前二條ノ規定ハ公共團體カ地方鐵道業ヲ營ム場合ニ之ヲ適用セス

附 則

第四十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 一 二 私設鐵道法及輕便鐵道法ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ爲シタル免許若ハ指定、許可又ハ認可ハ本法ニ依リテ爲シタル免許、許可又ハ認可ト看做ス但シ其ノ免許若ハ指定、許可又ハ認可ニ附シタル條件ニシテ本法ニ牴觸スルモノハ其ノ效力ヲ失フ

第二條及第三條ノ規定ハ舊法ニ依リテ免許又ハ指定ヲ受ケタルモノニ之ヲ適用セス

第四十二條^三 輕便鐵道法ニ依リテ輕便鐵道抵當原簿ニ登錄セラレタル事項ハ之ヲ鐵道抵當法ニ依リ鐵道抵當原簿ニ登錄セラレタルモノト看做シ輕便鐵道抵當原簿ハ鐵道抵當原簿ト看做ス

第四十三條^四 輕便鐵道法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

同日議事日程ヲ變更シテ各案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ各案委員長戸水寛人君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

先ヅ地方鐵道法案ニ就テ申シマスガ、……委員會ニ於テハ色々審議致シマシテ、二ツノ修正動議ガ出マシタノデアリマス、即チ第三十條ト第三十四條デアリマス、第三十號ノ第二項ヲ設ケマシテ「地方鐵道ノ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ地方鐵道業者ハ該線路及其ノ附屬物件ノ買收ヲ申請スルコトヲ得」斯ウ云フ修正ガアリマス、次ノ第三十四條ニ「買收ヲ受クヘキ地方鐵道業者カ兼業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ兼營ニ屬スル資産ヲ併セテ買收スルコトヲ得」前項ノ場合ニ於テ買收價額ハ協定ニ依ル」斯ウ云フノデゴザイマス、此修正說ニ就テ政府ノ意見ヲ求メマシタ所ガ、是ニハ同意デアルト云フノデ、全會一致ヲ以テ此修正動議ヲ可決致シマシタ、ソレカラ其次ノ輕便鐵道補助法中改正法律案、其次ノ鐵道抵當法中改正法律案、鐵道船舶郵便法中改正法律案、鐵道營業法中改正法律案、此四案ハ原案ノ通り可決致シマシタノデアリマス、此外ニマダ軌道條例ナルモノガアルノハ、固ヨリ御存ジデゴザイマスガ、是モ甚ダ不完全デアルガ、併ナガラ道路法ガマダ議決ニナツテ居ラスモノデアルカラ、本年ニ於テハ、其軌道條例ノ改正案ト云フモノヲ政府ノ方カラ出スコトガ出來ナイ、多分次ノ議會ニ於テ、是ハ提出スルト云フコトデアリマシタ、是モ併セテ御報告致シマス

副議長ハ前掲五案ハ各別ニ採決ヲ爲ス旨ヲ宣告ス

院議異議ナク(三三)案(三四)案及(三六)案ハ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ(三三)案ハ委員長報告ノ通修正議決ヲ爲シ(三四)(三六)兩案ハ原案ノ通之ヲ可決確定シ(三三)(三五)兩案ハ讀會ノ順序ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ各案全部ヲ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十四日各案ヲ可決奏上シ四月九日法律第五十二號(三三)、法律第五十三號(三三)、法律第五十四號(三四)、法律第五十五號(三五)、法律第五十六號(三六)ヲ以テ孰レモ公布セララル

三七 衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス

第三條中「町村ノ事務ノ全部」ノ下ニ「又ハ役場事務」ヲ加フ

第五條 削除

第六條 郡市長ハ選舉長トナリ選舉會ニ關スル事務ヲ擔任ス

一 選舉區數郡市ニ涉ルトキハ地方長官ハ關係郡市長ノ一人ヲシテ選舉長タラシムヘシ

第八條第二號及第三號ヲ左ノ如ク改ム

二 選舉人名簿調製ノ期日迄引續キ滿六箇月以上同一選舉區内ニ住所ヲ有スル者